



2013

中期
プラン

九州工業大学

キャンパスマスタープラン

The Campus Master Plan

for Kyushu Institute of Technology

はじめに

学長あいさつ

九州工業大学は、開学以来「技術に堪能[かんのう]なる士君子」の養成を基本理念として、100 年余にわたって、新しい技術や産業を創成し、世界をリードする高度技術者の養成、すなわちグローバル・エンジニアを輩出してきました。高等教育機関である大学の使命は教育と研究であり、その成果を通して社会に貢献することです。国立大学法人化を契機にして、本学はすべての活動を一段と活性化し、質の保証を基盤とする世界標準の大学を目指して活動を行っています。

教育では、先進的な教育方法に基づく堅牢なる工学教育で、21 世紀に相応しい品格と創造性を有する人材を育成しています。研究では、世界トップ技術の拠点となる重点研究センターを設置し、環境、I T、宇宙、バイオ、金型等、世界最先端の技術と学問の開拓を進めています。また、青少年教育、高度な社会人技術者の再教育等、将来を担う人材の養成にもつとめています。さらに、産学官連携活動、知的財産の活用、国際連携研究を積極的に推進し、産学官連携の九州工業大学と称されています。

現在、本学は、北九州市戸畑区にある工学部、飯塚市に位置する情報工学部、北九州学術研究都市（北九州市若松区）内の中核として活動する生命体工学研究科の3キャンパスで活動しています。工学部はものづくりを主眼とした基盤工学を、情報工学部は高度情報技術を主眼とした情報工学を、生命体工学研究科は国公私立大学連携とオール・ジャパンのリエゾン・オフィス[Liaison Office]を主眼とした生命原理の学際的工学を目指しています。

昨年度は、教育・研究・社会貢献をさらに発展させる3キャンパスの未来像を描くべく、キャンパスマスタープラン(長期ビジョン)を策定しました。策定においては、学生・教職員、さらには地域住民・自治体等の持つ、本学に対する思いやニーズを重視する、学内外の「人間中心」のアプローチから、「未来の技術に出会うキャンパス」という目標像と、その実現に向けた基本方針、キャンパスのフレームワークを導きました。新たなアプローチの下で策定した長期ビジョンは、各方面から高い評価をいただいています。

今年度は、長期ビジョンを踏まえた12年間(中期計画2期分)のキャンパスづくりの考え方を示す、中期プランを検討しました。今年度も、「人間中心」の策定アプローチを継続するとともに、大学で展開されるべき取組み(ソフト)から施設(ハード)整備のあり方を検討する、新たな形のプランの策定を試みました。今後、本プランを点検・評価・見直しプロセスを通じて磨き上げ、推進していくために、皆様方のご協力、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

国立大学法人九州工業大学

学長 松永守央

INDEX

CHAPTER

01

キャンパスマスタープラン(中期プラン)の意義

- 1.1 中期プランの背景と位置づけ 01
- 1.2 中期プランの策定において重視する考え方 03
- 1.3 中期プランの構成 04

CHAPTER

02

キャンパスマスタープラン(中期プラン)策定の進め方

- 2.1 中期プラン策定プロセスの全体像 05
- 2.2 課題解決に向けた多様なアイデアを募るカード・ワークショップ 05
- 2.3 検討体制・広報活動の強化 09

CHAPTER

03

九工大の未来を創るストーリー

- 3.1 ストーリーの目的と位置づけ 11
- 3.2 戸畑キャンパスにおけるストーリー 14
- 3.3 飯塚キャンパスにおけるストーリー 25
- 3.4 若松キャンパスにおけるストーリー 36

CHAPTER

04

九工大の未来を創る整備計画

- 4.1 整備計画検討の観点 47
- 4.2 整備計画検討のプロセス 51
- 4.3 戸畑キャンパスにおける整備の方向性と計画 52
- 4.4 飯塚キャンパスにおける整備の方向性と計画 58
- 4.5 若松キャンパスにおける整備の方向性と計画 64

CHAPTER

05

キャンパスマスタープラン(中期プラン)の運用

- 5.1 PDCAサイクル 68
- 5.2 運用体制 73
- 5.3 運用において重視すべき考え方 74

資料編

資料1. 中期プラン策定プロセスの詳細

- 1.1 検討組織・検討経緯
- 1.2 カード・ワークショップの詳細

資料2. キャンパスづくりのアイデアリスト

資料3. 補足事項

概要版

CHAPTER

01

The Campus Master Plan
for Kyushu Institute
of Technology

キャンパスマスタープラン(中期プラン)の意義



CHAPTER 01 キャンパスマスタープラン(中期プラン)の意義

1.1 中期プランの背景と位置づけ

1.1.1 九州工業大学の概況

九州工業大学は、「技術に堪能(かんのう)なる士君子」の養成を建学の理念として、国家の発展のために産業界の出資によって設立され、後に国立大学となりました。建学以来 100 年以上にわたり、産業界を拓く人材育成と先端的研究、社会との連携に従事しており、現在は、戸畑(北九州市戸畑区)、飯塚(飯塚市)、若松(北九州市若松区)の3キャンパスで活動しています。

戸畑は、小倉都心に近接し、住宅地に囲まれた都市型キャンパスで、北九州の産業化の歴史の風格と、前身の明治専門学校時代から地域に「明専の森」として親しまれてきた豊かな緑が特徴的です。飯塚は、旧産炭地の緩やかな丘陵地に築かれており、筑豊のまちと自然を眺望できるとともに、専門領域とする情報工学の先進性も感じさせる近代的キャンパスです。若松は、国公私立大学と企業・機関が集う北九州学術研究都市に位置し、図書館や情報処理施設・厚生施設の共同利用に見られるように、特色あるキャンパス運営を行っています。

1.1.2 長期ビジョンの策定

3キャンパスが教育・研究・社会貢献活動をさらに発展させる基盤を築くために、昨年度、30年後のキャンパスの理想像と、その実現に向けた基本的な考え方をまとめた、キャンパスマスタープラン(長期ビジョン)を策定しました。

九州工業大学では、30年という長期にわたってもぶれることないビジョンを描き出すために、大学の歴史・理念・各種計画や、社会環境に加え、学生・教職員・卒業生・地域住民・企業・自治体等の多様なステークホルダーの想い・価値観を重視する、「人間中心」のプロセスでプラン策定を進めました。

具体的には、業務支援を行う富士通株式会社の独自調査手法である Alm(エイム)を活用しながら、学生・教職員・卒業生・企業・行政・地域住民への聞き取りや、相互の対話を実施し、多様なステークホルダーのもつ想い・価値観・ニーズを可視化しました。また、アンケートや学生参加型のフィールドワーク・文献調査を通じて、学内外の声、キャンパスと周辺地域の空間の特長・課題、前提となる大学としての戦略や社会環境の変化等を整理しました。

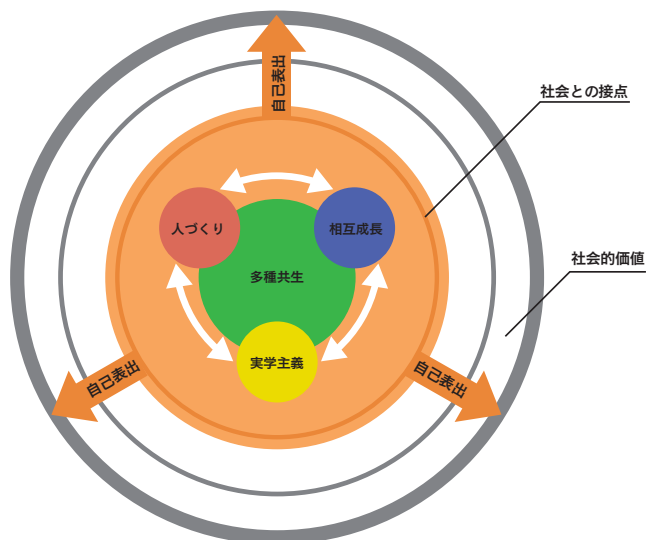
これらの幅広い調査・分析を通じて、九州工業大学は、全学がめざす長期ビジョンの目標「未来の技術に出会うキャンパス」と、基本方針「人づくり」「実学主義」「相互成長」「自己表出」「多種共生」を策定しました。さらに、各キャンパスの立地、キャンパス構造、社会的役割等を踏まえたフレームワークプラン(キャンパスの骨格をかたちづくる考え方をまとめた計画)も策定しています。下記のように、まず、各キャンパス固有の事情をふまえたキャンパスづくりの戦略をまとめ、それに従って動線・ゾーニング計画、パブリックスペース計画、再ステイナブルな環境・建築計画、インフラストラクチャー計画、学外活動計画をまとめています。

キャンパスマスタープランの目標

未来の技術に出会うキャンパス

キャンパスマスタープランの基本方針

- ① **人づくり**
品格と創造性のある技術人材を育成するキャンパス
- ② **実学主義**
先進的で実践的な技術・知識・能力を育むキャンパス
- ③ **相互成長**
地域・国際社会・産業界と支えあい、成長しあうキャンパス
- ④ **自己表出**
自らの価値を知り、世界に表現するキャンパス
- ⑤ **多種共生**
多様な個の共生と挑戦をささえるキャンパス



フレームワークプラン(キャンパスの戦略)

戸畑 戦略	I: まちが大学に入り込む ー地域づくりとものづくりの拠点	II: 歴史と緑あふれる 地域環境形成の拠点	III: オープンで快適な 都市のオアシス
飯塚 戦略	I: まちの魅力の創造拠点 ー多様な挑戦と協議の場	II: 市民が立ち寄る開放空間	III: 活気あふれる立体空間
若松 戦略	I: アジアを牽引する学研都市の中心	II: 外部との交流を支える空間	III: 内部の多様性が交わる空間

1.1.3 中期プランへの展開

長期ビジョンで示した「未来の技術に出会うキャンパス」という目標の実現に向けて、今回、長期ビジョンに基づく12年の計画である、キャンパスマスタープラン(中期プラン)を新たに策定しました。中期プランにおいては、まず、長期ビジョンの達成に向けて、12年間の計画期間の中で九州工業大学が変貌していく道すじ(12年間で歩むストーリー)と、ストーリーを実現するために考えられる取組みをまとめています。その上で、そうしたストーリーの推進に求められる施設・環境整備計画や、体制整備、PDCAサイクルの在り方等について示しています。

1.2 中期プランの策定において重視する考え方

1.2.1 中期プランへの展開「人間中心」のプラン策定の継承

中期プランも、長期ビジョンと同様、ステークホルダーの意見を重視する「人間中心」の策定プロセスを継承しています。今回は、長期ビジョンの実現に向けたストーリーを紡ぎだすためのアイデアを、学生・教職員によるカード・ワークショップを通じて拾いあげるといふ、新たな取組みを展開しました。九州工業大学では、施設・インフラの配置、老朽化状況や、スペースの過不足等から、「施設起点」でプランを組み立てるだけでなく、このようなステークホルダーの想いに寄り添う取組みを継続し、キャンパスに対するユーザーの満足度の向上と、「未来の技術に出会うキャンパス」の形成につなげたいと考えています。

なお、カード・ワークショップの取組みについては、2章で詳しく紹介します。

1.2.2 ソフトを起点とした計画づくり

中期プランでは、具体的なハード整備の方向性や整備項目の検討に先立ち、大学がどのように変化し、キャンパスでどのような取組み（ソフト）が展開されていくかについてのストーリーを検討しました。

国の財政状況が厳しさを増し、国立大学法人に自立的経営が求められる中、施設整備に充てられる予算の確保もこれまで以上に困難となることが予想されます。限られた予算の中で、ステークホルダーの想いに応え、「未来の技術に出会うキャンパス」の実現に貢献するハードの整備を行うためには、そこで展開されるストーリーを想定し、ハード活用方向性を十分に検討する必要があります。

これまでのキャンパス整備では、ハード整備が先行し、そこに注入されるソフトの検討が十分でなかったために、施設の利活用が円滑に進まないケースも見られました。中期プランでは、ストーリー（ソフト）を起点とし、その実現のために求められるハード整備の方向性と整備計画を検討することで、単なる「器」づくりに終わらない、ステークホルダーの活動の支えとなるキャンパスづくりの実現を目指しています。

1.2.3 プランの運用・PDCA サイクルの具体化

中期プランの策定後は、キャンパスマスタープランの実現に向けた取組みが本格的に始動します。今後は、施設・環境整備に、目標である「未来の技術に出会うキャンパス」や、基本方針の考え方を、どのようなプロセス・体制の下で反映していくかが重要となります。また、中期プランで示すストーリーをどのように具体化し、実現に移すかも、重要な課題です。

中期プランでは、キャンパスマスタープランの運用に向けた組織体制のあり方、具体的なPDCAサイクルの進め方を整理する等、プランに基づいてキャンパスをあるべき姿に近づけるための具体的方策を示しています。

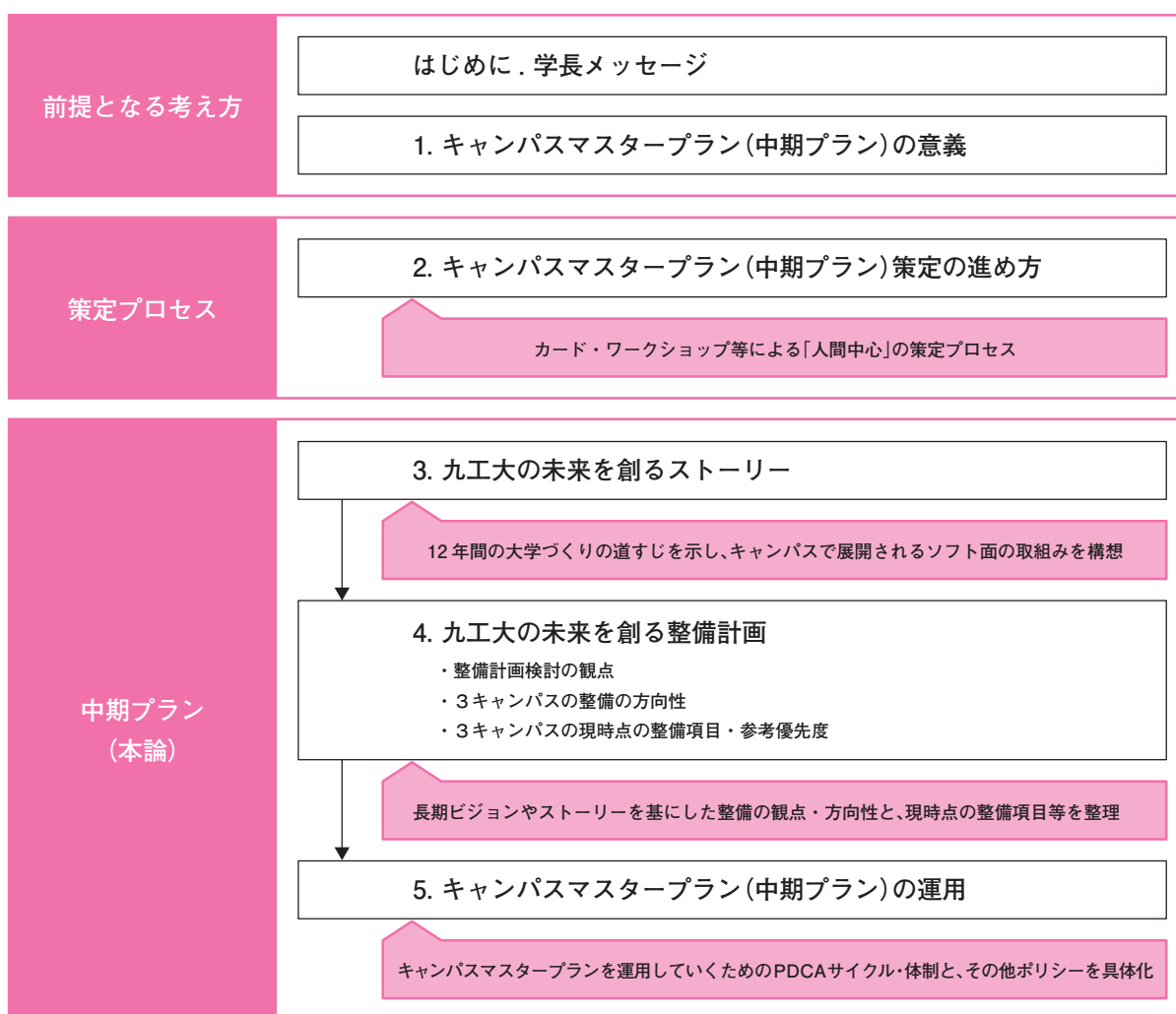
1.2.4 環境変化に応じた柔軟な計画運用

人口減少・高齢化、グローバル化、国立大学改革の機運の高まり等、国立大学を取り巻く昨今の環境の変化は激しく、中期プランの計画期間である12年間でも、大学の戦略や、社会の大学に対する要請は大きく変化するものと考えられます。

こうした学内外の激しい変化に素早く対応するには、キャンパスマスタープランも固定的なものとするのではなく、状況に応じて修正して運用するしくみを確立することが重要です。本プランでは、運用の中でのストーリーの継続的な更新・改善（3.1で詳述）、3年ごとのプランの評価・6年後の見直し（5.1で詳述）等、環境の変化に合わせて柔軟にプランを運用するための考え方を示しています。

1.3 中期プランの構成

中期プランの構成は、以下の図のとおりです。ここまでの「はじめに」および1章では、中期プランの前提となる考え方について示しました。続く2章では、中期プラン策定プロセスを示します。3章では、中期プランの計画期間である12年間の大学づくり・キャンパスづくりの道すじを示すストーリーを示します。ストーリーでは、今後、「未来の技術に会うキャンパス」の実現に向けて、どのような取組みが展開されていくかを構想します。4章では、長期ビジョンやストーリーを踏まえた施設整備の考え方、整備項目について示します。最後に、5章では、以上のような中期プランを運用していくためのPDCAサイクル・体制や、その他のポリシーについて示します。



CHAPTER

02

The Campus Master Plan
for Kyushu Institute
of Technology

キャンパスマスタープラン(中期プラン)策定の進め方



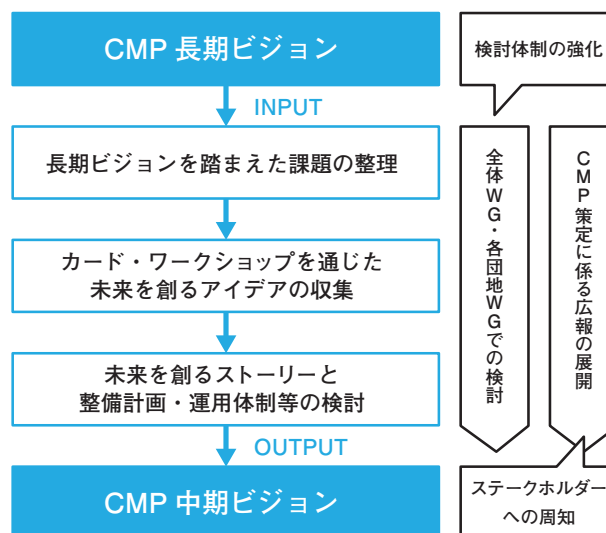
CHAPTER
02

キャンパスマスタープラン(中期プラン)策定の進め方

2.1 中期プラン策定プロセスの全体像

中期プランの策定においては、昨年度策定した長期ビジョンと、策定の過程で実施した調査の結果を基に、中期プランにおいて考慮すべき課題を整理しました。その上で、それらの課題に取り組むアイデアを、カード・ワークショップを通じて募り、九工大の未来を創るストーリーに集約しました。さらに、ストーリーの実現を支える施設整備計画と、計画の運用体制等を検討し、キャンパスマスタープラン中期プラン(本プラン)を策定しています。

これらの検討を、全体ワーキングと、今年度新たに設置した戸畑・飯塚・若松各団地のワーキングにて実施しました。また、キャンパスマスタープランの策定に係る情報のステークホルダーに対する広報も並行して実施しました。

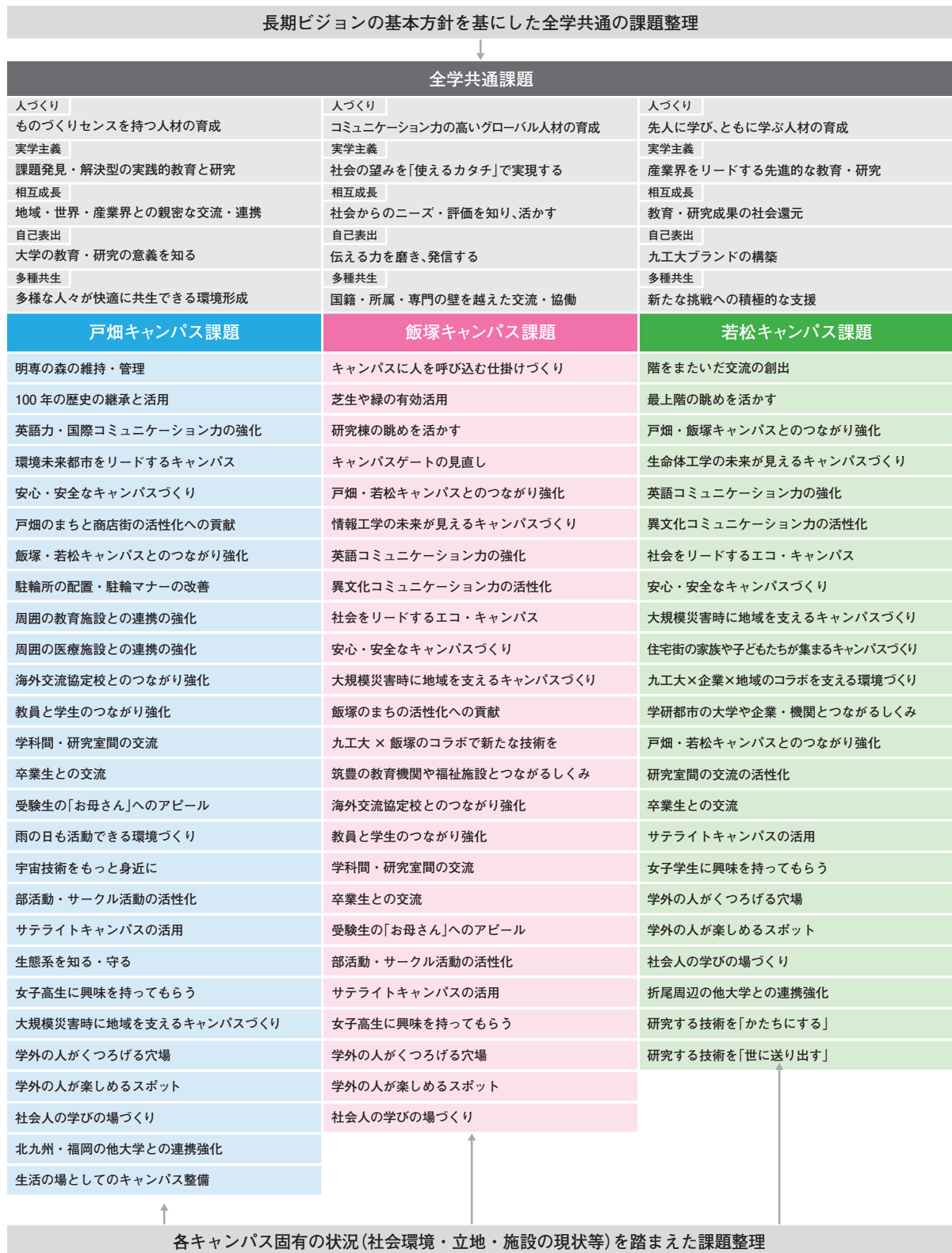


2.2 課題解決に向けた多様なアイデアを募るカード・ワークショップ

2.2.1 長期ビジョンを踏まえた課題の整理

中期プラン策定プロセスにおいては、上記のとおり、まず中期プランにおいて考慮すべき課題を、長期ビジョンから整理しました。

具体的には、戸畑・飯塚・若松の3キャンパス共通で取り組むべき、長期ビジョンの基本方針に係る課題と、各キャンパスの個別の事情を踏まえて取り組むべき課題を、長期ビジョンから次の図のとおり抽出しました。



これらの課題の解決に向けたアイデアを、多様なステークホルダーの自由な発想の下で検討していくために、カードを用いたワークショップを次のように企画・実行しました。

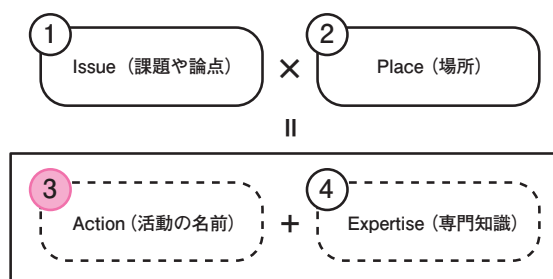
2.2.2 カード・ワークショップの企画・実行

■ ワークショップの概要

カード・ワークショップは、ゲーム的要素を盛り込んで、多くのステークホルダーが気軽に参加し、多様なアイデアを生み出せるよう設計しています。

ワークショップにあたっては、九州工業大学の課題(ISSUE)、キャンパスと周辺地域の場所(PLACE)、九州工業大学の有する専門性(EXPERTISE)を表現した、3種類のカードをあらかじめ用意します。

その上で、ワークショップでは、①課題(ISSUE)、②場所(PLACE)のカードの組合せから、どんな③取組み(ACTION)が展開可能かを検討します。また、その取組みに④専門性(EXPERTISE)のカードを組み合わせ、九工大ならではの取組みとすることができないかを検討します。



■ カードの作成

ISSUE・PLACE・EXPERTISEカードは、それぞれ次のように作成しました。ISSUEカードは、前頁に示した、長期ビジョンを踏まえて整理した課題を基に作成しました。また、PLACEカードはキャンパスと周辺地域のフィールドワークの結果から、EXPERTISEカードは学内の研究者や学生の活動の情報を基に作成しました。

I S S U E			- 九州工業大学3キャンパス共通の課題(ISSUE)と、各キャンパス固有の課題(ISSUE)を整理し、各キャンパス計40種程度のカードを作成 - 課題を抽出するにあたっては、キャンパスマスタープラン長期ビジョンや、昨年度実施したインタビュー・フィールドワーク等の各種調査結果を参照
P L A C E			- キャンパス内部の場所(PLACE)と、キャンパス周辺地域の場所(PLACE)を各キャンパス70～100種程度作成 - 場所をカード化するにあたっては、前年度に実施したキャンパス内外でのフィールドワークの際に撮影した写真を活用
E X P E R T I S E			- 九州工業大学の教員の研究分野・専門性と、学生のものづくり活動やサークル・部活動を計370種程度のEXPERTISEカード化 - カードを作成にあたっては、大学ホームページで公開されている研究者紹介や、学生のものづくり活動、サークル・部活動の紹介を参照

■ ワークショップの実行

上記のようなワークショップを、次の表のとおり実行しました。各キャンパス 30 ～ 50 名程度の参加者と共に、多様なキャンパスづくりのアイデアを検討しました。

会場：日時	学生	教員	職員	その他 (含・富士通)	合計
若松：2012/10/10(水) 16:30 ～ 18:30	13	4	6	7	30
戸畑：2012/10/11(木) 16:30 ～ 18:30	18	11	11	6	46
飯塚：2012/10/12(金) 16:30 ～ 18:30	17	7	6	7	37

2.2.3 カード・ワークショップの成果

■ 多数のアイデアの創出

ワークショップでは、2時間という比較的短時間の中で、3キャンパスの参加者で、合計約 200 の取組みのアイデアを創出することができました。

カードという親しみやすい媒体を利用し、また、グループ間の競争等のゲーム的要素を付加したワークショップを行うことで、効率的にアウトプットを生み出すことができました。

また、調査を通じて把握した課題(ISSUE)、実際の場所(PLACE)、大学が持つリソース(EXPERTISE)を基に検討することで、九州工業大学の実情に即したアイデアを検討することができました。なお、ワークショップで生まれたアイデアは、全て資料編に記載しています。

■ 身近な環境の魅力・課題の再認識

カード・ワークショップの参加者へのアンケートでは、カードに示した ISSUE や PLACE、EXPERTISE を通じて、身近にありながら意識することの少なかった大学やキャンパスの魅力、課題を再発見することができたというコメントをいただくことができました。また、カードを通じて、これまであまり知る機会がなかった他学科・他キャンパスの専門性ができたという意見も挙がりました。このように、カード・ワークショップは、大学づくり・キャンパスづくりに対するステークホルダーの興味・関心を喚起する一助になったといえます。

■ 参加者からの高い満足度の獲得

ワークショップでは、学生・教員・職員等、多様な参加者の間で、活発な議論が交わされました。参加者へのアンケートでも、ほぼすべての参加者から高い評価・満足度を得ることができました。

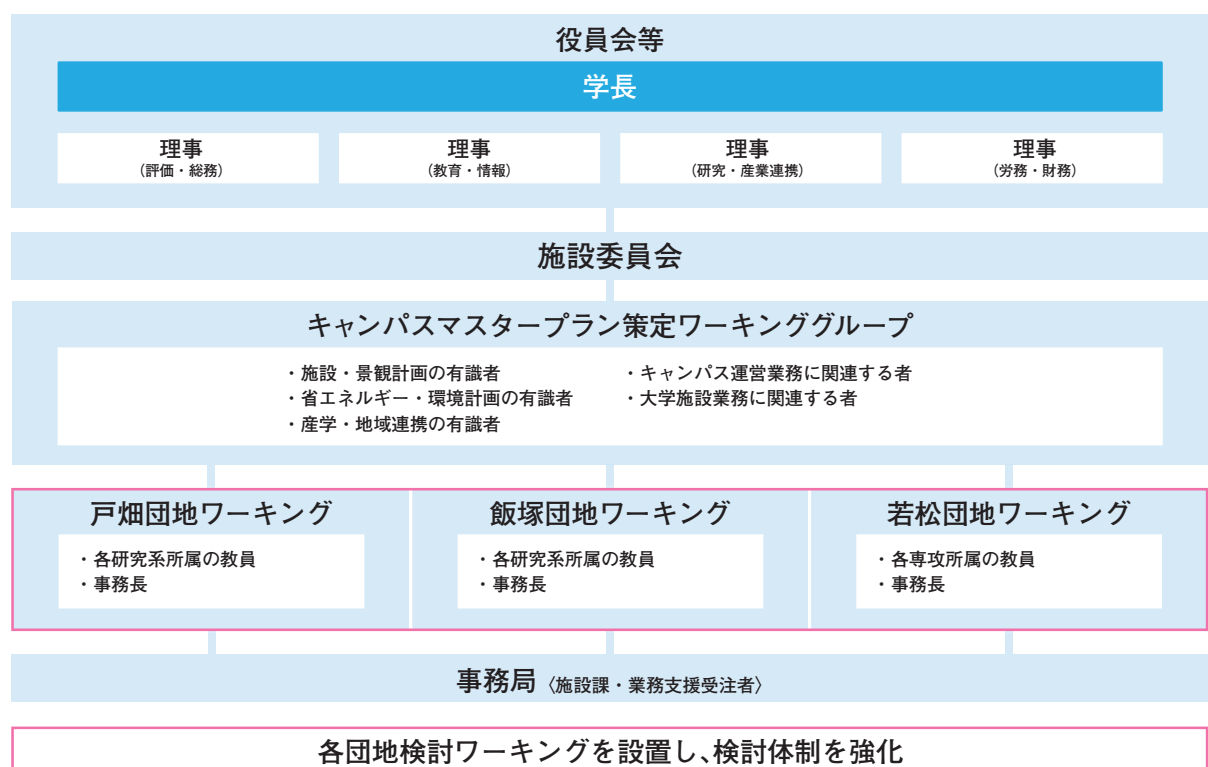
楽しく、気軽に参加できるカード・ワークショップは、参加者の主体的参加を促し、高い満足度を獲得する上で効果的と言えます。こうしたワークショップをきっかけとして、多様なステークホルダーのキャンパスづくりへの参加意識を進める取組みを継続的に展開していくべきと考えられます。

なお、ワークショップで得られた、キャンパスの課題を解決するための様々な取組みのアイデアは、戸畑・飯塚・若松における今後12年間のキャンパスづくりのストーリーを組み立てる素材として活用しています。ストーリーの詳細は、3章で示します。

2.3 検討体制・広報活動の強化

2.3.1 検討体制の強化

長期ビジョンの検討から、より具体的な中期プランの検討に移るにあたり、学内の検討体制の強化を行いました。全学としてのキャンパスづくりについて協議する全体 WG に加え、3 キャンパスそれぞれの事情を踏まえた検討を行う各団地検討 WG を設置し、キャンパスづくりについての検討を深めました。



2.3.2 広報活動の実施

昨年度から実施している、キャンパスマスタープラン策定活動についての理解・協力を推進するための広報活動も継続的に実施しました。活動広報誌を発行し、学内掲示・電子媒体で配布することで、活動についての周知を図っています。

また、長期ビジョンの学内への浸透のために、学内掲示版や工事現場の仮囲い等に、「未来の技術に会うキャンパス」実現に向けた現在までの取組み状況を貼り出し、学内でのビジョン共有を図っています。

みんなで創ろう！
Campus Master Plan
未来の九工大

発行日：2012年11月1日 発行元：九州工業大学施設委員会 キャンパスマスタープラン策定ワーキング

未来の九工大を創るACTIONをみんなで考える キャンパスマスタープラン策定ワーキング報告①

●●● Kyushu Institute of Technology

キャンパスマスタープランとは？

大学キャンパスの中長期的整備計画です。九工大では、昨年度、学内外の方々へのインタビューやワークショップ等を通じて、30年後の九工大の将来像を描く長期ビジョンを策定しました。今年度は、長期ビジョンをもとに、今後12年程度の具体的なキャンパスづくりの計画を中期プランとしてまとめます。

これまでの経緯

九工大のキャンパスマスタープランは、学生・教職員・卒業生や地域の方々など、関係者の想いや価値観を反映した「人間中心」のプロセスで策定を進めています。今年度も、学生・教職員の皆さまからキャンパスづくりのアイデアを募るカード・ワークショップを10月10日～12日に実施しています。

学生・教職員の皆さまとの関わり

キャンパスマスタープランは、今後の中長期的なキャンパスづくりの方向性を示すもので、学生・教職員の皆さまの日々の活動にも大きく関わります。ワーキングでは、皆様からの多くのご意見をもとにプランを策定したいと考えています。本報告書やプランへの活発なご意見をお待ちしております。

① キャンパスマスタープランづくりの状況

九工大のキャンパスマスタープランは、長期ビジョン(今後30年の九工大のキャンパスづくりの指針)と、中期プラン(今後12年程度のキャンパスづくりの計画)から成ります。

昨年度は、学生・教職員・卒業生や地域・自治体の方々へのインタビューやアンケート、ワークショップ等の調査を行った上で、30年後の九工大のあるべき姿を描く長期ビジョンを作成しました。今年度は、長期ビジョンを踏まえて、今後12年程度のより具体的なキャンパスづくりのアクションを検討し、中期プランとしてまとめます。現在、次にご紹介する、10月10日～12日に行われたカード・ワークショップの結果を踏まえて、キャンパスづくりのアクションの検討を進めています。

九工大のあるべき姿を描く調査

・内外の方々へのインタビュー
・学生アンケート
・ワークショップ
・フィールドワーク

キャンパスマスタープラン長期ビジョンの作成

未来の九工大
2042年頃

未来の九工大を創るアイデアの検討

キャンパスづくりのアイデアを創るカード・ワークショップ
10/10～12に実施済

キャンパスマスタープラン中期プランの作成

今後12年程度の九工大の未来を創るアクションプラン
10/10～12に実施済

昨年度 → 今年度

③ カード・ワークショップの結果と参加者の声

全体的様子 カードを起点にして活発に議論が行われ、3キャンパスそれぞれで様々なACTIONが生まれました。

▲若松ワークショップの様子

▲戸畑ワークショップの様子

▲飯塚ワークショップの様子

▲ACTION検討ワークシート

ACTION別 カードの組み合わせから生まれた、3キャンパスでの個性的なACTIONの一部をご紹介します。

予約販売！ラポーター@若松 周囲の住宅街から地域の方々や子どもたちが集まるキャンパスにするため、近隣大学と連携して、所売駅を出発地点に各大学の特色ある研究室を送るラポーターを実施する。

チャリ・シェアリング@戸畑 駐輪場の解決に向けて、設置自転車や不審な自転車をもつくり工費でまわしに渡し、学内で自由に使えるシェア自転車に、地域の方も学内敷金に自由に利用してもらう。

サイエンス・コテージ@飯塚 駐輪場の解決に向けて、設置自転車や不審な自転車をもつくり工費でまわしに渡し、学内で自由に使えるシェア自転車に、地域の方も学内敷金に自由に利用してもらう。

参加者の声 新しいワークショップ手法に好評価をいただくとともに、今後の改善に向けたご意見もいただきました。

- 今まで話したことのない先生方と九工大のことについて話したことはとても新鮮でした。(若松・学生)
- 作ったものを活かすという考え方も重要ではあると思うので、継続をもっと学生に聞く場が必要だと思う。アンケートだけでなく、互いに思うところを伝わりやすいの……。(若松・学生)
- 学生の発想・カードの組合せで多様なアイデアが出てくるはgood。共通の問題意識も浮かんできた。(戸畑・教員)
- いい経験です。会場からの留学生ですが、会場ではこんな風に先生や学生が一緒に相談する機会がありません。おもしろいです。(飯塚・学生)

② キャンパスを創るACTIONを考えるカード・ワークショップの概要

日程 10月10日(水) 若松 / 10月11日(木) 戸畑 / 10月12日(金) 飯塚(全会場 16:30～18:30で開催)

参加者 若松～30名 / 戸畑～46名 / 飯塚～37名 (学生・教員・職員・学外からの参加者の合計)

コンセプト 「カードの組み合わせから、九工大の未来を創る ACTION を考える」

進め方

- 6人程度のグループに、ISSUE(キャンパスづくりの課題)、PLACE(キャンパスの場所)、EXPERTISE(教員や学生グループ)、3種類のカードを配布します。
- 各グループでISSUEとPLACEのカードを選び、その観点に、その場所を取り組むためのACTIONを考えます。さらに、活用できるEXPERTISEのカードを選びます。
- 繰り返しACTIONを検討した後、グループ内でACTIONを発表しあいます。他のグループからの評価と、ACTIONの数に応じたポイントにより優勝グループを決定し、優勝グループを表彰します。

カード・ワークショップの進め方

このカードは
この課題に
関係する
課題
ISSUE

この場所は
この課題に
関係する
場所
PLACE

このスキルは
この課題に
関係する
スキル
EXPERTISE

ACTIONの検討イメージ

若松・戸畑・飯塚の3キャンパスの課題を解決するためのアクションを検討する

金メニュー英語表記化
国際的なメニューを
多言語で提供して
国際的に活躍する
学生を育てる

ご意見・お問い合わせ

施設委員会・キャンパスマスタープラン策定ワーキングでは、キャンパスマスタープランの内容・策定プロセスや、本報告に関する皆さまのご意見を随時募集しております。ご意見やお問い合わせは、右の連絡先までお寄せください。

E-mail: sisetu@jumu.kyutech.ac.jp Tel: 093-884-3037 (施設課・高崎)

学内掲示によるビジョン共有

10

CHAPTER 03

The Campus Master Plan
for Kyushu Institute
of Technology

九工大の未来を創るストーリー



CHAPTER 03 九工大の未来を創るストーリー

3.1 ストーリーの目的と位置づけ

3章では、ワークショップで得られたキャンパスづくりの多様なアイデアを基に検討した、長期ビジョンの実現に向けた今後12年間のキャンパスづくりのストーリーを示します。それに先立ち、中期プランにおいてストーリーを示す目的と、キャンパスマスタープランの運用におけるストーリーの位置づけを示します。あわせて、3.2以降に示すストーリーの構成を概観します。

3.1.1 ストーリーの目的

■ キャンパスづくりの道すじの具体化・共有

昨年度策定した長期ビジョンは、30年間で目指すキャンパスのあるべき姿を描いたものですが、その実現に向けては、あるべき姿に近づくための短中期的な道すじを具体化し、ステークホルダーで共有することが必要です。

本章に示すストーリーは、長期ビジョンの基本方針である「人づくり」「実学主義」「相互成長」「自己表出」「多種共生」の実現に向けた今後12年間の道すじを示しています。この道すじをステークホルダーと共有し、ステークホルダーと共に、ストーリー実現に向けて取組めます。

■ ソフトを起点とした施設整備の検討

本章に示すストーリーは、キャンパスで展開されるソフト面の取組みに重点を置いて記述しています。1.2「中期プランの策定において重視する考え方」でも述べたように、限られた施設整備予算の中で、ステークホルダーの想いに応え、長期ビジョンの実現に資するハードを整備するには、キャンパスで展開されるソフト面の取組みを十分に想定し、それを支えるハードのあり方を検討することが重要です。九州工業大学では、今後、ソフトな取組みのストーリーを踏まえた施設整備を通じて、「未来の技術に会うキャンパス」の実現を推進します。

3.1.2 ストーリーの位置づけ

■ ストーリーの活用～ストーリーを踏まえて整備計画を検討

ストーリーを踏まえ、ソフトを起点とした施設整備を推進していくために、今後は、様々な場面でストーリーを参照・活用していきます。

例えば、施設整備に係る部局要求を行う際には、キャンパスで推進すべきストーリーを踏まえて検討を行います。これにより、各部局の整備要求の段階から、ハードの整備をソフト面の取組みのストーリーに結び付けて検討する仕組みを構築します。

また、優先度の高い部局要求や予算化された部局要求を基に整備計画を具体化する際にも、整備対象となる施設・スペースでどのような取組みが展開し、どのようなストーリーの実現を目指すのかを踏まえて検討を進めます。

さらに、既存の施設や新規に整備した施設を利活用する取組みを展開する際にも、ストーリーを踏まえて取組みの具体的検討を進めます。

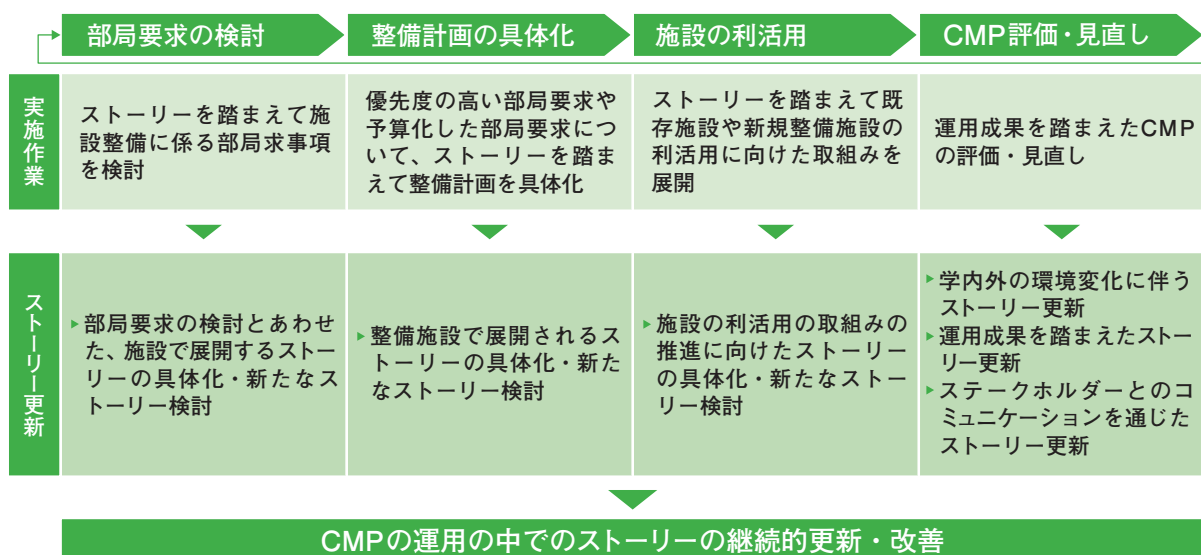
■ ストーリーの更新・改善～プラン運用の中で継続的に更新・改善

1.2「中期プランの策定において重視する考え方」で述べたように、学内外の環境の激しい変化に素早く対応するには、キャンパスマスタープランを固定的なものとするのではなく、柔軟に修正を加えていくことが重要です。ストーリーも、固定的なものとするのではなく、キャンパスマスタープランの運用の中で柔軟に更新・改善していきます。

例えば、部局要求の検討においてストーリーを参照する際、必要に応じて既存のストーリーの具体化や、新たなストーリーの作成を行います。

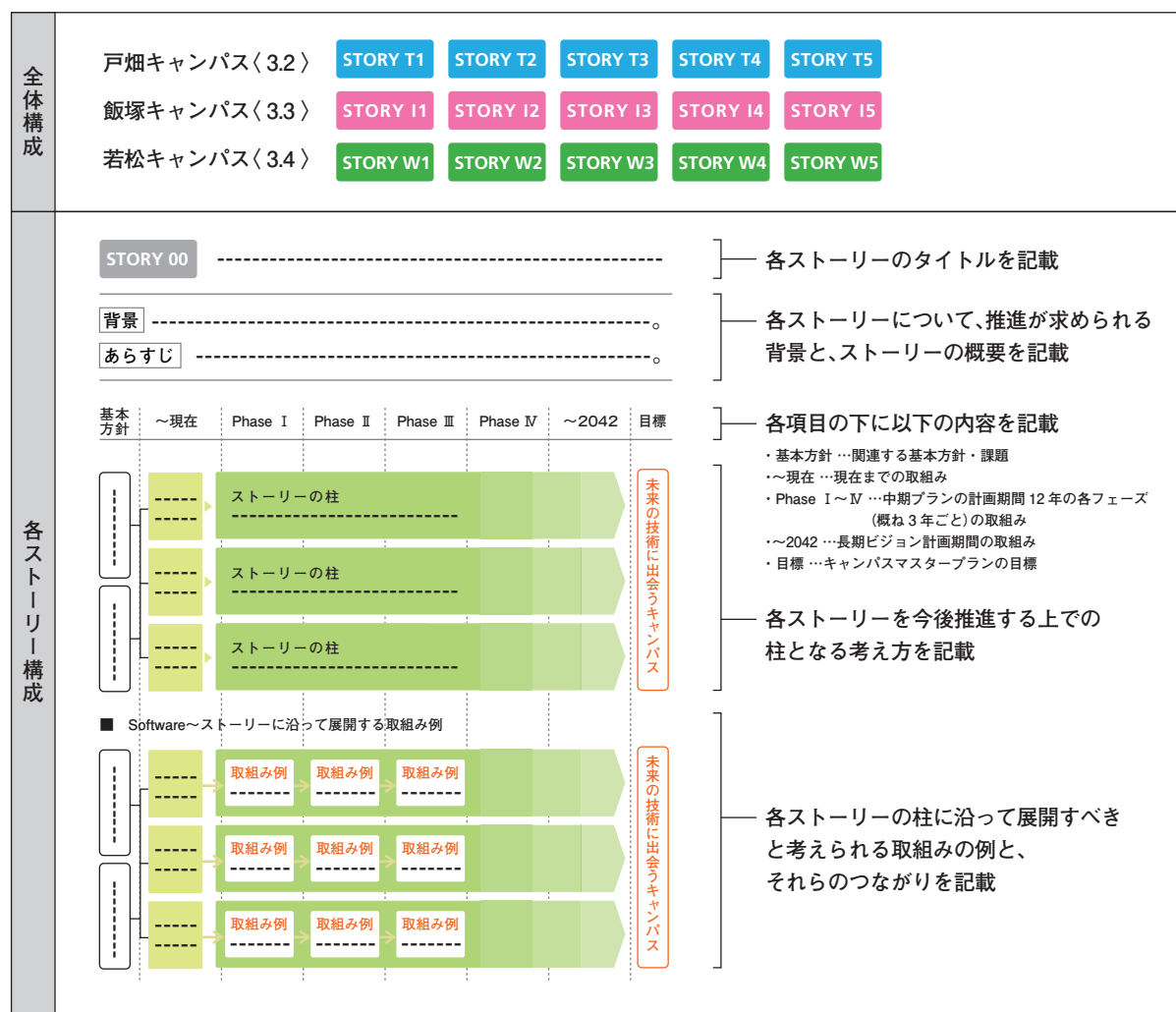
また、整備計画の具体化や、施設の利活用の取組みの具体化においても、関連するストーリーの具体化・新規作成を行います。

さらに、キャンパスマスタープランの評価・見直し(3年ごとに実施、詳しくは5章を参照)の際には、学内外の環境の変化を踏まえ、ストーリーの更新を検討します。あわせて、評価・見直しの時点までの取組みの成果を踏まえたストーリーの更新、ステークホルダーとのコミュニケーションを通じて得られた意見を基にしたストーリーの更新も検討します。



3.1.3 ストーリーの構成

以下、3.2、3.3、3.4では、戸畑・飯塚・若松キャンパスにおけるストーリーを、次のような構成で示します。各キャンパスについて、5つのストーリーを提示します。各ストーリーでは、ストーリーの推進が求められる背景、ストーリーのあらすじ、ストーリーに沿った取組みの例（Software）を順に示します。



3.2 戸畑キャンパスにおけるストーリー

未来の技術に出会うキャンパス実現に向けたストーリー in 戸畑

戸畑キャンパスでは、未来の技術に出会うキャンパスの実現に向けて、以下の5つのストーリーを推進します。

まず、学内の人々とまち・アジア・世界の人々が日常的に交流し、ともに自由に活動できるキャンパスづくりを進めます(StoryT1)。これにより、「未来の技術」をつくりだす土台となる、相互成長と多種共生の環境形成を図ります。その環境を土台として、先進的で実践的な教育や多様な人々との学びを展開し、「未来の技術」を創出する人材育成に貢献するとともに(StoryT2)、産官学連携の下で「未来の技術」を磨き上げ、社会に成果を還元・発信します(StoryT3)。また、「明専の森」としての歴史と緑を継承し、人々を引き寄せる、魅力あるキャンパスであり続けます(StoryT4)。その他、戸畑キャンパス特有の課題にも取り組んでいくことで、未来の技術に出会うキャンパスの基礎となる安全で快適なキャンパス環境を築きます(StoryT5)。

STORY T1

大学とまち・アジア・世界の人々がつながり、ともに活動する、自由なキャンパスを形成する

STORY T2

先進的・実践的教育と多様な人々との学びから未来の「技術に堪能なる士君子」を育てる

STORY T3

産官学連携の下で「未来の技術」を磨き上げ、社会へ成果を還元・発信する

STORY T4

豊かな歴史と自然を持つ「明専の森」を継承し、地域のシンボルであり続ける

STORY T5

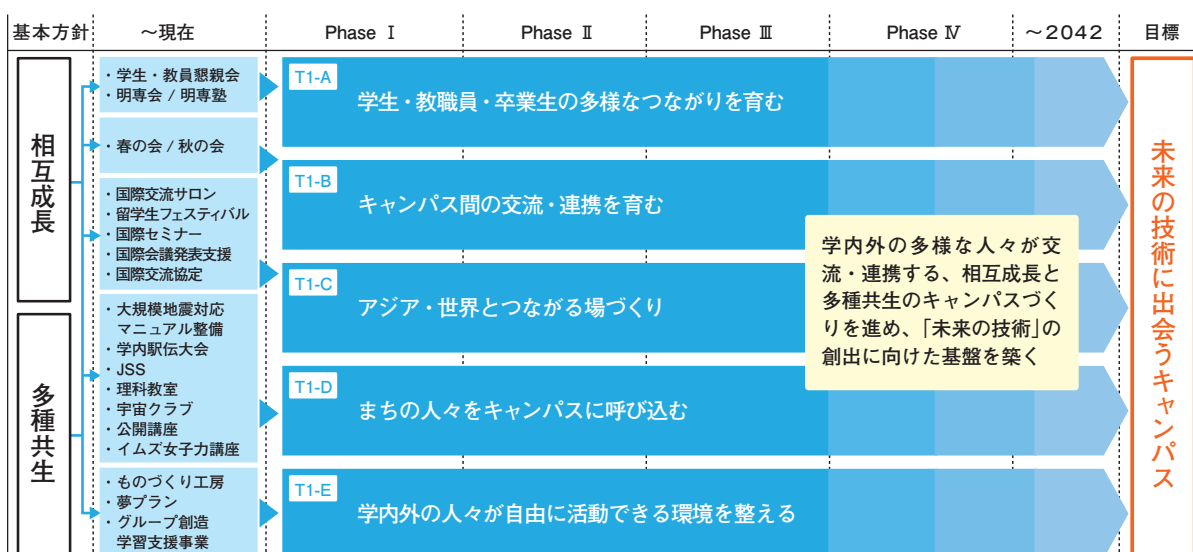
キャンパスづくりの課題を拾い上げ、解決に向けて取り組むためのしくみを確立する

未来の技術に出会うキャンパス

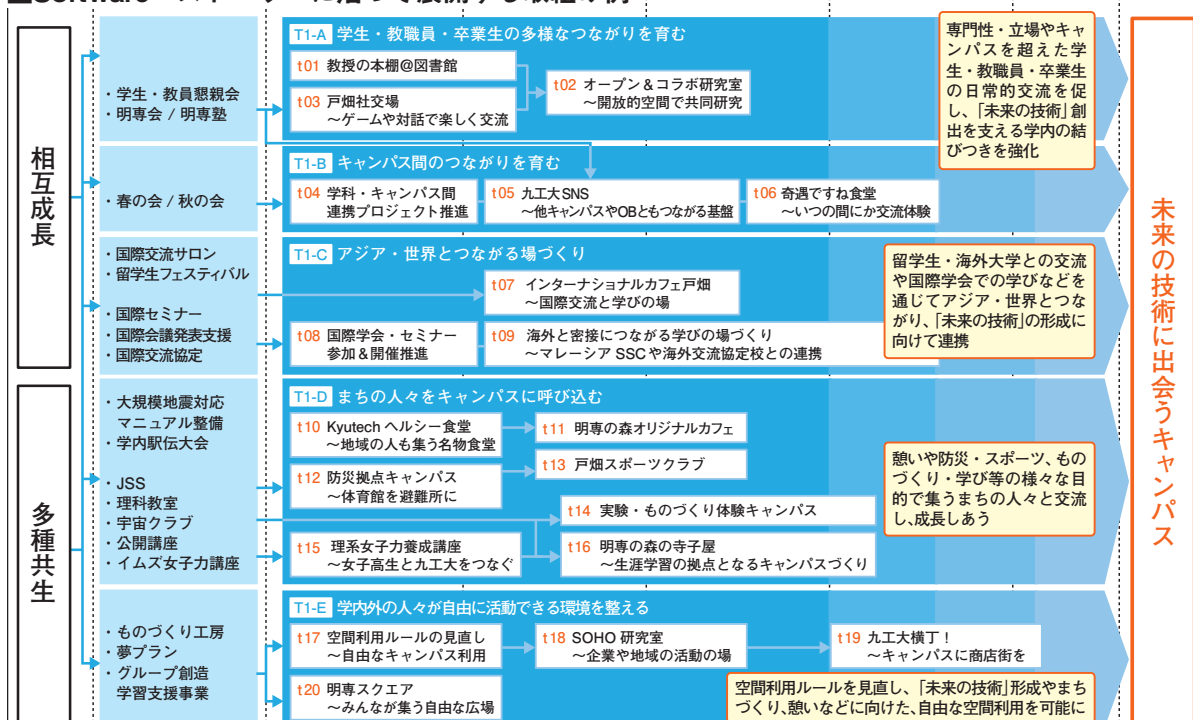
STORY T1 大学とまち・アジア・世界の人々がつながり、ともに活動する、自由なキャンパスを形成する

背景 これまでの調査では、学部・学科、組織を超えた学内交流や、世界・地域とのつながりの強化を望む声が多く聞かれました。大学が目指す融合領域の創成や、「未来の技術」創出の基盤となるキャンパスづくりのためにも、学内外の交流と連携の取組みを、これまで以上に発展させることが求められます。

あらすじ そのために、学生・教職員・卒業生やキャンパスの壁をこえた学内交流(T1-A,B)、アジア・世界との交流(T1-C)に向けた取組みや、こどもから高齢者までまちの人々が集うしかけづくり(T1-D)を進めます。さらに、キャンパスに集う学内外の人々が自由に活動できるようにするための施設整備やルール整備を進めます(T1-E)。以上を通じて、「未来の技術」の形成に向けた基盤となる、相互成長と多種共生のキャンパスづくりを実現します。



■Software～ストーリーに沿って展開する取組み例



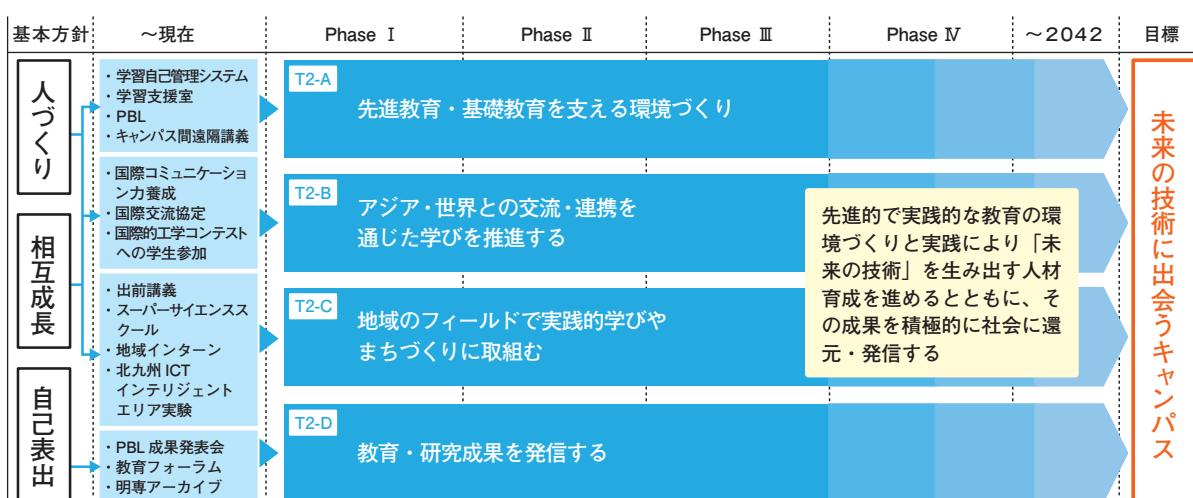
■Software 詳細

No.	Software Title	Software 概要	Place (案)	元 Idea No.
t01	教授の本棚@図書館	月替わりで図書館内に教員のお勧め本コーナーを設置各自の専門内容を超初級～高度な内容まで段階的にセレクトしてもらう。さまざまな専門性を持つ教員の考えに触れる機会に。	戸畑図書館	10
t02	オープン & コラボ研究室 ～開放的空間で共同研究	専門の異なる教授2人以上がランダムに共同で実習を行う。領域が離れているほど未開拓分野として可能性が広がる。新たな発見のある授業が期待できる。またそれを可能にするために閉鎖的な雰囲気のある研究室をガラス張りにするなど、オープンにしていく施設面の整備も行う。	研究室	27,28
t03	戸畑社交場 ～ゲームや対話で楽しく交流	「社交場」と名付けるスペースに、情報端末に加え、ビリヤードや卓球台などもそろえ、さまざまな場面でさまざまな人と学びや娯楽を通じて、気軽に楽しく交流できる場を設ける。また、ワールドカフェなども実施可能なスペースにして、対話交流もできる場にする。	百年中村記念館 学生会館	13
t04	学科・キャンパス間 連携プロジェクト推進	学科やキャンパスを超えた教育研究での連携プロジェクトを推進するしくみを構築する。学内から申請のあった連携プロジェクトを認定して補助したり、教育研究の取り組みを進めるにあたって必要な他学科や他キャンパスのリソースをマッチングするしくみを構築することなどが想定される。	—	—
t05	九工大 SNS ～他キャンパスや OB ともつながる基盤	九工大の3キャンパスをつなぐ SNS、学生・教職員や OB・OG が利用。スポーツ系のサークルでは交流試合、関連のある研究テーマを含むゼミ同士の勉強会や合同ワークショップ、合コンなど3キャンパスの交流を深める。就職活動にも活用。また、離れていてもすぐに交流できるコミュニケーション基盤の役割も果たす。	—	191
t06	奇遇ですな食堂 ～いつの間にか交流体験	他キャンパスの食堂同士で、二人同時に注文すると無料になるしくみを整備。無料になった二人は互いに一言メッセージをやり取りする。	食堂	24
t07	インターナショナルカフェ戸畑 ～国際交流と学びの場	留学生やネイティブスピーカーとの交流や、英語学習ができるカフェスペースを設置。国際色豊かな留学生出身国の料理も味わえる。国際交流と学びを担う場とする。	百年中村記念館 コモドール 工大前通り	18,22,108, 109,149
t08	国際学会・セミナー 参加 & 開催推進	国際学会での発表を支援する取組みや、キャンパスでの国際セミナー開催のこれまでの取組みをさらに推進し、学生・教員が世界と触れあう機会を増やす。	百年中村記念館 記念講堂	69
t09	海外と密接につながる学びの 場づくり～マレーシアオフィス や海外交流協定校との連携	マレーシア・スーパー・サテライト・キャンパスとの連携や、海外交流協定校との連携を密接にするため、交流のための情報通信インフラ整備や、連携教育プログラム整備を進める。	—	—
t10	Kyutech ヘルシー食堂 ～地域の人も集う名物食堂	地域の子供やお母さんたちが集うキャンパスづくりのため、九工大技術を活かして開発したヘルシーメニューや健康診断が楽しめる食堂をつくる。	百年中村記念館 生協食堂	101,102
t11	明専の森オリジナルカフェ	学内外の人々が集うシンボルとなる九工大ならではのカフェを設置する。九工大の技術を活かしたメニュー開発や空間デザインで魅力的な場をつくる。	—	83,106
t12	防災拠点キャンパス ～体育館を避難所に	地域の防災拠点となるキャンパスづくりのため、体育館を大規模災害時の避難場所となるよう整備。地域と合同で定期的な避難訓練も開催し有事に備える。	グラウンド 体育館	60,61,62
t13	戸畑スポーツクラブ	学外の人々もグラウンドや体育館を利用可能な時間帯を増やし、学内外の老若男女が集うスポーツクラブを結成・運営。一緒に体を動かし、交流も深める。	グラウンド 体育館	82
t14	実験・ものづくり体験キャンパス	学外の人に九工大に来て楽しんでもらえるよう、ものづくり工房や実験室を開放するなど、子供たちや一般の方がものづくりやさまざまな実験を体験できる仕組みをつくる。	ものづくり工房 特殊実験室	31
t15	理系女子力養成講座 ～女子高生と九工大をつなぐ	女子高生に九工大に興味を持ってもらうために、女性教員やイケメン教員が、美容や健康など女性にとって身近なテーマの高校生向け講義を実施。	プロジェクト ラボラトリ	96,97,99
t16	明専の森の寺子屋	大学生だけでなく、子どもからお年寄りまでの生涯学習の場となるスペースをキャンパスに設置。一時的な公開講座だけでなく、日常的な人々の学びの場となり、九工大を現代の寺子屋に。	百年中村記念館 講義室 図書館	48,159
t17	空間利用ルールの見直し ～自由なキャンパス利用	学内外の人の多様な交流・活動を支えるキャンパスづくりのため、キャンパスのオープンスペースや屋内スペース利用上の規制等を点検・見直し、自由なキャンパス利用を可能とするための検討を行う。	—	—
t18	SOHO 研究室 ～企業や地域の活動の場	地域のベンチャー企業者 NPO などの団体が活動の場として入居できるスペースと仕組みを整備。安価でスペースを提供するかわりに、学生との交流や共同研究に協力してもらう。	研究室	46
t19	九工大横丁！ ～キャンパスに商店街を	戸畑のまちと九工大がともに活性化していくために、キャンパス内商店街を設置。九工大居酒屋や九工大オリジナルのお酒などを用意。	—	63
t20	明専スクエア ～みんなが集う自由な広場	共用2号棟跡地を、生協前広場とつながる広大なフリーオープンスペースに整備し、憩いの場や実験、サークル活動などに自由に使える広場とする。	共用2号棟跡地	—

STORY T2 先進的・実践的教育と多様な人々との学びから未来の「技術に堪能なる士君子」を育てる

背景 戸畑では、PBL や地域インターンシップ等の先進的・実践的教育を行うとともに、地域の学び・課題解決への貢献にも取り組んできました。今後も、こうした特色ある取り組みを継続・発展させ、「未来の技術」を生み出す人材育成や、教育を通じた地域づくりへのさらなる貢献を目指すことが重要です。

あらすじ そのために、基礎からの学びと先進教育の環境づくり (T2-A) や、アジア・世界との学びの推進 (T2-B) による人材育成を進めます。また、地域のフィールドで学び、まちづくりに貢献する実践的教育を進めます (T2-C)。これらの取り組みの成果は、積極的に学内外に発信します (T2-D)。以上を通じて、「未来の技術」を創るグローバル人材輩出と、地域社会への教育成果の還元・発信を実現します。



Software～ストーリーに沿って展開する取り組み例



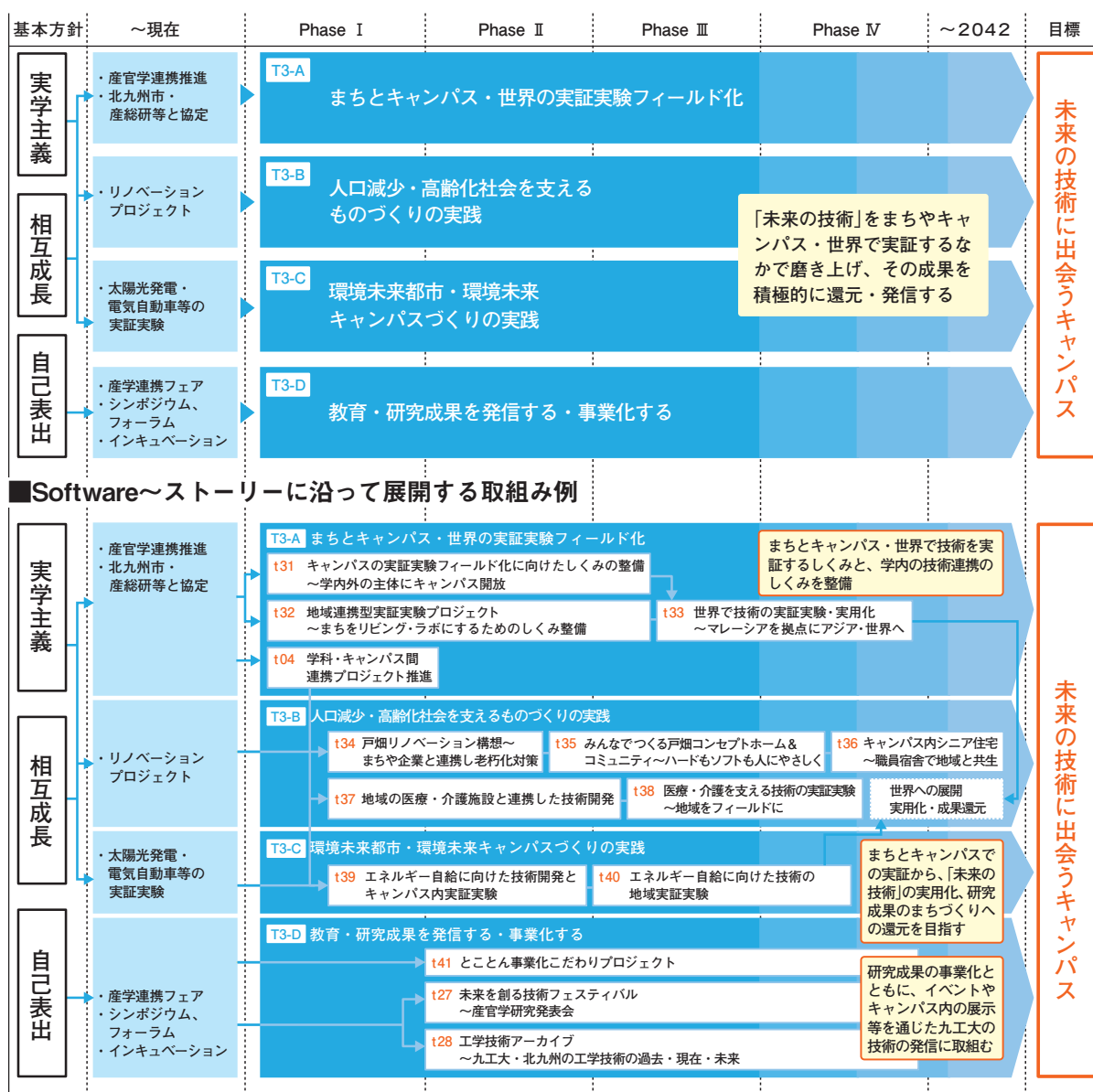
■Software 詳細

No.	Software Title	Software 概要	Place (案)	元 Idea No.
t21	基礎から学びあう 学習支援の場としくみの充実	基礎からの学びあいを支える学習支援室やラーニング commons の利用をさらに促進するとともに、新学生寮での学生と教員の対話の中での学びや、学生同士のピアラーニングを支援するしくみを構築する。	学習支援室 図書館 (ラーニング commons)	—
t22	主体的でインタラクティブな 学びの推進～教室環境の整備 とプログラムの拡充	プロジェクトラボトリのような主体的でインタラクティブな学びの場を拡充するとともに、アクティブラーニングプログラムをさらに充実させる。	教育研究棟	—
t23	アジア・世界とわたりあう 学びの実践～海外との共同 プロジェクト&ディベート	九工大生と海外交流協定校やマレーシア SSC の学生との共同プロジェクトやディベート等を、海外現地や、情報通信インフラを介して九工大で実践する。	—	—
t24	学生出前授業 ～地域の学校で学生が先生に	中学生に学生が研究を発表し、科学と九工大に興味を持ってもらう出張授業。まずは身近な内容から。中学生にもわかるように説明ができれば、もっと多くの人にも研究を知ってもらうことができる。	小中学校	49, 53, 54
t25	商店街レンタルスペース化 ～空き店舗でゼミ & サークル	周辺商店街と連携して空き店舗を安価でレンタルできるようにして、ゼミやサークル室に利用。活動後は商店街でご飯を食べて、地域との交流・活性化につなげる。	工大前通り / あやめ通り商店街	70
t26	地域のニーズ・評価を知る ～まちの人々との対話から	教育研究活動やサークル活動のなかで生み出した技術やものづくりの成果について、地域の商店街や医療施設・教育施設等の人々に使ってもらい、ヒアリング等を通じてニーズや評価を確認。その後の活動に活かす。	工大前通り / あやめ通り商店街 医療・介護・教育施設	6, 40
t27	まちの課題を解決する ものづくり・まちづくりの実践	まちでの地域の人々の交流や、技術に対するニーズ調査等の結果から、学生がまちの課題を見つけ出し、その解決に向けたものづくりやまちづくりに取り組む。	工大前通り / あやめ通り商店街	56, 57, 58, 59
t28	学生によるものづくり・ まちづくり成果の地域への還元 ～お買い物口ポットから 若者目線の商品開発まで	学生が地域の課題解決に向けて取組んだものづくり・まちづくりの成果を、地域に還元する。たとえば、高齢者のためのお買い物支援ポット、若者目線での商店街のキャンペーンや商品企画等を実践する。	工大前通り / あやめ通り商店街	9
t29	未来を創る技術フェスティバル ～産官学研究発表会	九工大の3キャンパスと地域の大学、企業、行政の様々な研究成果を大学内外多くの人々に披露する。また、その研究や技術を発展させるシンポジウムやワークショップ等を展開する。	地域イベント会場	86, 87
t30	工学技術アーカイブ ～九工大・北九州の工学技術 の過去・現在・未来	九工大における工学と、北九州における工学の歴史・現在・未来を見て、触れることのできるスペースを設置する。学内の各所にある研究展示・機械展示等も集約し、九工大と北九州の工学資源に一度に触れられる場所に。	人と技術が出会う 交流の中心軸	111

STORY T3 産官学連携の下で「未来の技術」を磨き上げ、社会へ成果を還元・発信する

背景 産官学連携に強みを持つ九州工業大学では、様々な機関・企業と連携して技術開発し、地域やキャンパスでの実証実験を行ってきました。今後も実学主義に基づく先進的研究成果を蓄積し、社会に還元することが期待されます。

あらすじ そのために、まちとキャンパス、さらには世界を実証実験フィールドとして活かすしくみと、学科やキャンパスを越えて共同研究を進めるしくみの整備を進めます(T3-A)。さらに、地域で進む高齢化に対応したものづくりや、環境未来都市・北九州にふさわしいコミュニティ・キャンパスづくりに向けた実践に取組めます(T3-B,C)。その成果は積極的に発信するとともに、事業化することも視野に入れます(T3-D)。以上を通じて「未来の技術」を開発し、磨き上げ、その成果を社会に還元・発信します。



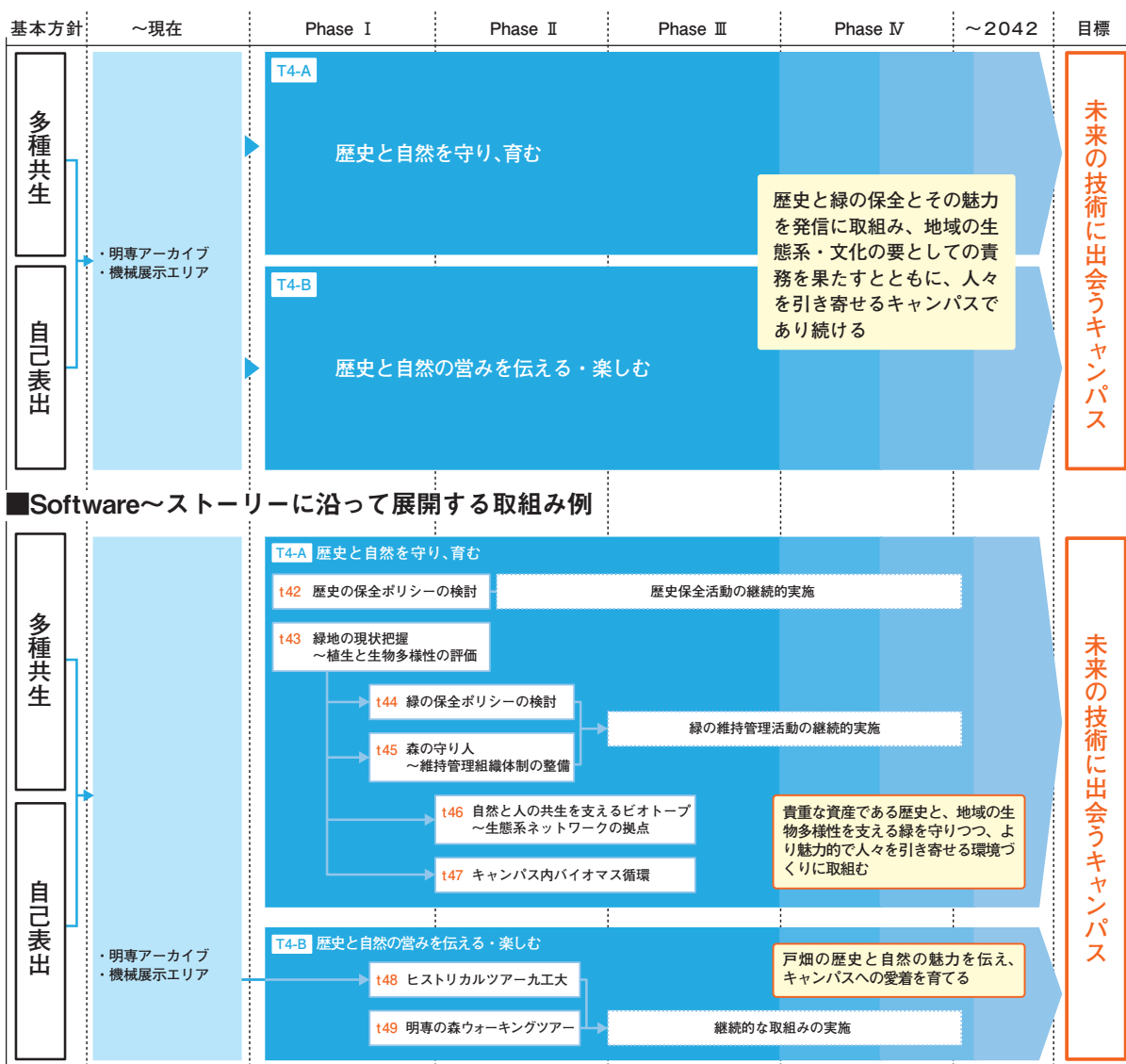
■Software 詳細

No.	Software Title	Software 概要	Place (案)	元 Idea No.
t31	キャンパスの実証実験フィールド 化に向けたしくみの整備 ～学内外の主体にキャンパス開放	多様な技術が生まれるキャンパスづくりのために、学内の研究室やサークルのほか、学外の企業や機関も開発技術を実証実験できるようにするしくみを整備する。その上で、年度ごとに実証実験プロジェクトを選定・推進する。	—	—
t32	地域連携型実証実験プロジェクト ～まちをリビング・ラボにするためのしくみ整備	北九州市をはじめとする自治体等と協議して、まちのなかで開発する技術を実証実験し、実用化・事業化に結び付けるためのしくみ(まちをリビング・ラボにするためのしくみ)を整備する。その上で、年度ごとに実証実験プロジェクトを共同で選定・推進する。	—	—
t33	世界で技術の実証実験・実用化 ～マレーシアを拠点にアジア・世界へ	キャンパスと周辺のまちだけでなく、海外で技術の実証実験や事業化を行うための体制・しくみづくりを進める。九州工業大学のマレーシアにおける活動拠点での活動実績を土台に、マレーシアから世界に活動の場を広げていく。	—	—
t34	戸畑リノベーション構想 ～まちや企業と連携し老朽化対策	歴史あるまちゆえに老朽化した戸建て住宅や集合住宅が目立つ戸畑。戸畑のまちの人々や企業と連携して、戸畑の住環境のリノベーションとそこで暮らす人たちのコミュニティを活性化させる構想を練る。	戸畑キャンパス周辺	—
t35	みんなでつくる戸畑コンセプト ホーム&コミュニティ ～ハードもソフトも人にやさしく	建設社会工学や電気電子工学をはじめ、九工大の技術を結集して、これからの戸畑のまちに求められるコンセプトホームを設計。モデル住宅の建設・入居を目指す。あわせて、コンセプトホームをとりまくコミュニティづくりの施策を試行的に実施する。	戸畑キャンパス周辺	43, 45, 162
t36	キャンパス内シニア住宅 ～職員宿舎で地域と共生	職員宿舎を改修し、卒業生や地域のシニア層も居住できるよう整備する。シニア層は大学講義を受講できるほか、学生に自らの技術や経験を伝える語り部としても活躍。	職員宿舎	—
t37	地域の医療・介護施設と連携した 技術開発	高齢化する地域や日本のお年寄りが元気に暮らすために必要なものづくり・技術開発を、地域の医療・介護施設と協力・連携しながら進める。	医療・介護施設	35, 36, 37, 38, 40
t38	医療・介護を支える技術の実 証実験～地域をフィールドに	地域の医療・介護施設で、高齢者や患者のニーズを踏まえて開発した医療・介護技術(ロボット、バリアフリー住宅等)を実証実験し、さらなる技術の改善点を洗い出し、改良につなげる。	医療・介護施設	39, 42, 43, 45
t39	エネルギー自給に向けた技術 開発とキャンパス内実証実験	太陽光発電をはじめとするエネルギー創出技術や、省エネ技術、水資源の節約や再利用等に係る技術を、グリーンイノベーション実践教育研究センター等が中心になって開発し、キャンパスで実証実験する。	キャンパス内各所	—
t40	エネルギー自給に向けた技術 の地域実証実験	キャンパス内で開発・実証実験した省エネ・創エネ技術を、地域をフィールドにして実証実験し、その有効性を検証し、技術の改良と環境未来都市北九州の形成に役立てる。	地域各所	126, 127
t41	とことん事業化こだわり プロジェクト	事業化に近い研究活動をされている先生方をキャンパスを挙げてより一層の支援を行い、研究の事業化という結果を追求する。	産学連携推進センター	8, 218

STORY T4 豊かな歴史と自然を持つ「明専の森」を継承し、地域のシンボルであり続ける

背景 100年を超す歴史と豊かな緑を持つ戸畑キャンパスは、「明専の森」として親しまれる周辺地域のシンボリック存在であり、緑と文教のまちとしての地域の生態系・文化の核となっています。歴史と緑の継承は、九工大の責務であるとともに、キャンパスが「未来の技術」の形成に向けて人々が集う魅力的な場であり続けるために、重要な課題です。

あらすじ まず、これからも歴史と自然を守り、育んでいくためのルールや組織体制を整備します(T4-A)。加えて、戸畑キャンパスにおける歴史と自然の営みを伝え、楽しむ取組みも進めます(T4-B)。以上を通じて、地域の生態系・文化保全の責務を果たすとともに、歴史と緑のキャンパスとしての魅力を維持・発信し、人々を引き寄せる場であり続けます。



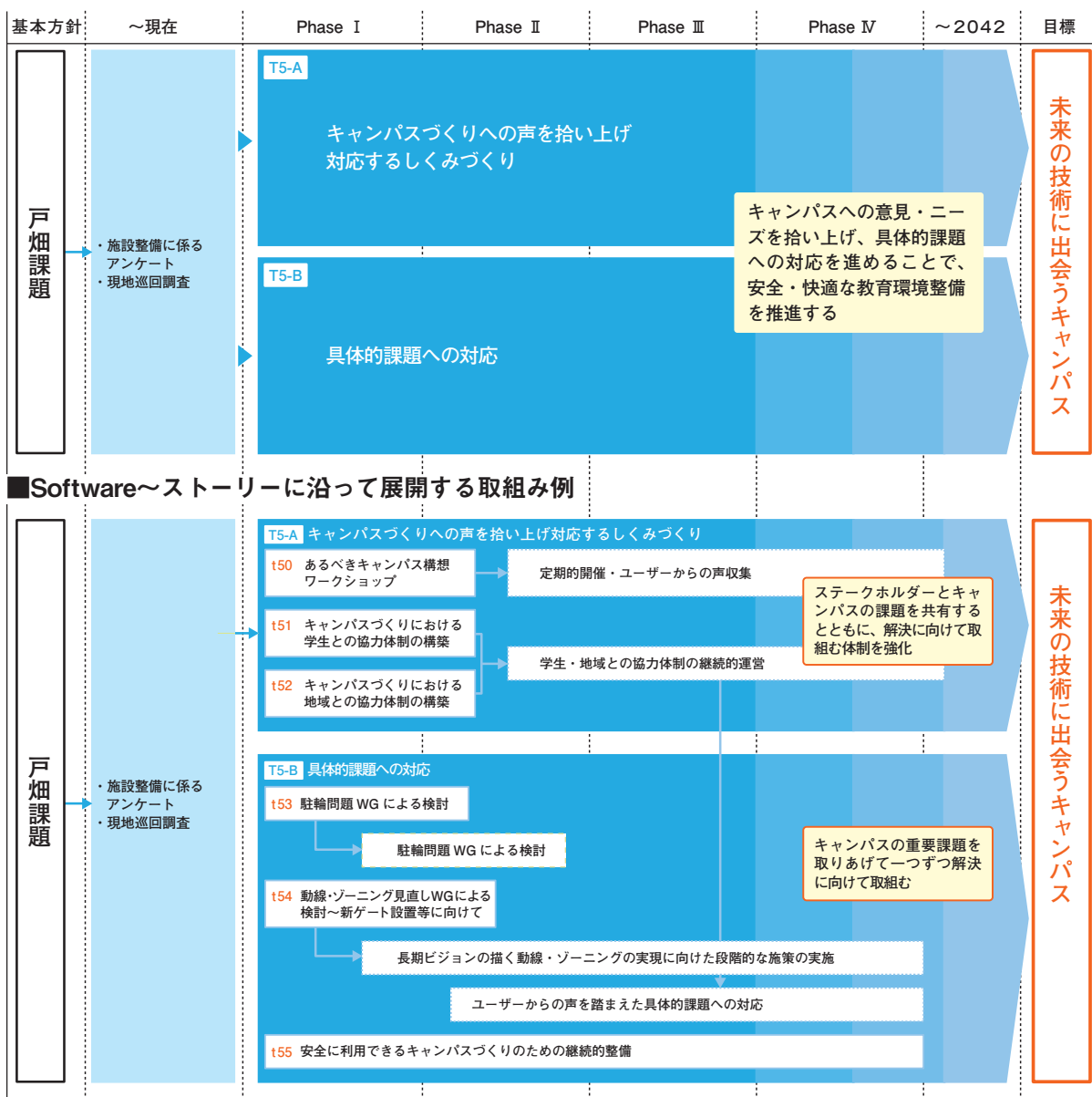
■Software 詳細

No.	Software Title	Software 概要	Place (案)	元 Idea No.
t42	歴史の保全ポリシーの検討	歴史を今後も受け継いでいくために、歴史的保存の対象となるエリア・建物・樹木等を設定するとともに、空間や建物のデザインコードや、樹木伐採や剪定を認める基準等のポリシーを検討する。	九工大のシンボルエリア他	—
t43	緑地の現状把握～植生と生物多様性の評価	九工大の緑を未来に受け継ぐために、まず緑地の現状把握を行う。どのような植物がどのように分布しているか、緑地における生物多様性はどのようなものかについて評価する。	キャンパス緑地	—
t44	緑の保全ポリシーの検討	キャンパスの緑は落ち着いた歴史ある大学の雰囲気演出する半面、枯れ葉等の清掃費や、剪定・刈取りの費用等が必要になる問題がある。どのエリアの緑が手つかずに残すべきエリアか、また、やむを得ず緑を伐採する際はどのような基準でそれを認めるか等について保全ポリシーにまとめる。	キャンパス緑地	—
t45	森の守り人 ～維持管理組織体制の整備	広大なキャンパスの緑を施設系職員だけで行うことは難しい。また、管理委託にも一定の費用が発生する。こうした問題を解決するため、学生・教職員や卒業等に「森の守り人」になってもらい、維持管理費用の寄付や、維持管理作業への協力を依頼する。	キャンパス緑地	121
t46	自然と人の共生を支えるビオトープ ～生態系ネットワークの拠点	豊かな自然と社会環境を戸畑の地に育むために、キャンパス北東部の森にビオトープを設置。多様な生き物と多様な人々が集う場所にする。	北東側敷地境界線付近の森	119
t47	キャンパス内バイオマス循環	キャンパス内の樹木の落ち葉や枯れ葉等、バイオマスの資源となるものを拾って、資源として再利用し、循環型環境サイクルの形成に役立てる。	キャンパス緑地	128
t48	ヒストリカルツアー九工大	九工大が育んできた歴史、研究、教育、人、技術等を継承するとともに、堅苦しくないかたちで楽しく知っていくために、九工大の足跡を大学内外で実際に歩いて巡る。	キャンパス内各地	88
t49	明専の森ウォーキングツアー	夜宮公園、明治学園前の通り、九工大戸畑キャンパスという「明専の森」を巡るウォーキングツアーを開催。区のガイドマップにも載せてもらう。キャンパス内では、歴史ある松の木や多様な植生、生態系を見てもらう。	キャンパス内各地 夜宮公園 明治学園前通り	123, 124, 125

STORY T5 キャンパスづくりの課題を拾い上げ、解決に向けて取組むためのしくみを確立する

背景 キャンパスのあるべき姿の実現に向けては、ここまでのストーリーを推進するとともに、キャンパスづくりに対するステークホルダーの意見やニーズを捉え、具体的課題に着手に対応し、安全・快適な教育研究環境を実現することも必要です。

あらすじ そのために、従来から実施している施設整備に係るアンケートや巡回調査からだけでは見えにくい、キャンパスのあるべき姿についてのユーザーの考えを共有し、その実現に向けて取組むしくみづくりを行います(T5-A)。また、既に明らかになっている具体的な課題(駐輪問題の解決・新ゲート設置等)への対応も順次進めます(T5-B)。以上を通じて、「未来の技術に出会うキャンパス」の基礎を支える、安全・快適な教育研究環境の整備を推進します。



■Software 詳細

No.	Software Title	Software 概要	Place (案)	元 Idea No.
t50	あるべきキャンパス構想 ワークショップ	施設整備に係るアンケートや巡回調査から見えるキャンパスの問題点に加え、ユーザーが望むキャンパスのあり方を拾い上げて、キャンパスづくりに活かすため、キャンパスのあるべき姿を学生・教職員、さらには地域住民も集うワークショップを開催。	鳳龍会館 プロジェクトラボラトリ	141
t51	キャンパスづくりにおける 学生との協力体制の構築	あるべき姿に近づくためのキャンパスづくりには、施設系職員の力だけでは十分でない。学生の力をキャンパスづくりに活かすため、「学生キャンパス委員会（仮称）」を設置して、ソフト・ハード両面からのキャンパスづくりに協力する。	—	—
t52	キャンパスづくりにおける 地域との協力体制の構築	キャンパスエッジの整備や、騒音・照明のコントロール、防災・防犯の強化等、キャンパスづくりにおいては、地域と協議して進めるべきことが多い。「地域協議会（仮称）」を設置して、多様な観点からキャンパスづくりについて協力する。	—	—
t53	駐輪問題 WG による検討	長期ビジョンにも戸畑キャンパスの課題として記載した、駐輪場配置や駐輪マナーの改善に対応するWGを設置する。メンバーには教職員のほか、学生も加わる。	—	—
t54	動線・ゾーニング見直しWGに よる検討 ～新ゲート設置等に向けて	長期ビジョンにて戸畑キャンパスに将来的に設置するとしている動線・ゾーニングの実現に向けて学内検討 WGを設置する。南西側への新たなゲートの設置等について検討する。メンバーには教職員のほか、学生も加わる。	—	—
t55	安全に利用できるキャンパス づくりのための継続的整備	設立後 100 年を超えるキャンパスで、活動する上で危険を伴うような箇所や、優先的に修繕すべき設備・施設を定期的な点検やユーザーからの声を基に把握し、継続的に対処していく。	—	—

3.3 飯塚キャンパスにおけるストーリー

未来の技術に出会うキャンパス実現に向けたストーリー in 飯塚

飯塚では、未来の技術に出会うキャンパスの実現に向けて、以下の5つのストーリーを推進します。

まず、アジア・世界とつながる飯塚や筑豊のまちの中心となり、学内外の人々が多様な目的で集うキャンパスづくりを進めます(StoryI1)。これにより、「未来の技術」をつくりだす土台となる、相互成長と多種共生の環境形成を図ります。その環境を土台として、先進的で実践的な教育研究や、多様な場での学びを実践し、地域・世界をリードし、「未来の技術」をつくりだす情報技術人材の育成を推進します(StoryI2)。また、情報工学を活かした多様な「ものづくり」「ことづくり」に取組み、その成果を地域・世界に還元・発信していきます(StoryI3)。さらに、キャンパスの特色を活かした安全・快適な空間づくりや、その他の飯塚特有の課題にも取り組んでいくことで、未来の技術に出会うキャンパスの基礎となる、安全・快適なキャンパス環境を築きます(Story4,5)。

STORY I1

世界とつながる飯塚のまちの中心となり、人々が多様な目的で集うキャンパスを形成する

STORY I2

先進的・実践的教育と多様な場での学びから、地域・世界をリードするIT人材を育てる

STORY I3

“実証実験フィールド e-ZUKA”の発展を通じ、地域・世界の課題解決に貢献する

STORY I4

キャンパスの特色を活かしながら、安全・快適に学びや交流に従事できる環境をつくる

STORY I5

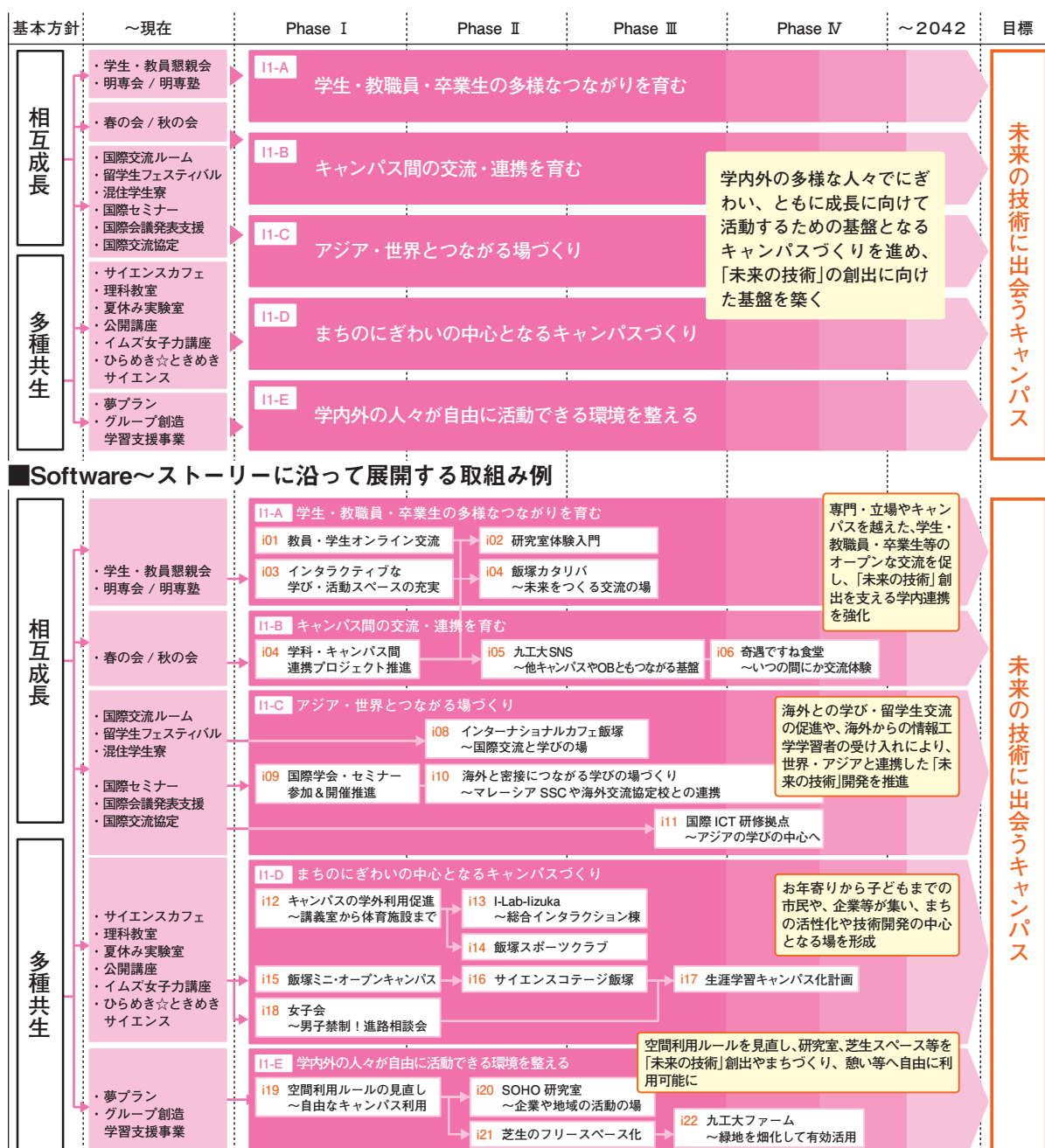
キャンパスづくりの課題を拾い上げ、解決に向けて取組むためのしくみを確立する

未来の技術に出会うキャンパス

STORY 11 世界とつながる飯塚のまちの中心となり、人々が多様な目的で集うキャンパスを形成する

背景 これまでの調査で、飯塚では、学部・学科、組織を越えた学内交流や、郊外型のキャンパスに外部から人を呼び込むしくみづくりを望む声が多く聞かれました。多様な交流から融合領域を創成して「未来の技術」を生み出し、飯塚・筑豊の活性化の拠点となるキャンパスづくりのためにも、学内外の人々が集い交流する場づくりのさらなる推進が必要です。

あらすじ そのために、専門や学年、キャンパスの壁を越えた学内交流、アジア・世界とつながる交流の場づくりや、まちの老若男女が学びや憩いに集うしかけづくりを進めます (I1-A,B,C,D)。さらに、キャンパスに集う学内外の人々が自由に活動できるようにするための施設整備やルールづくりを進めます (I1-E)。以上を通じて、「未来の技術」を創出するための基盤となる、相互成長と多種共生のキャンパスづくりを実現します。



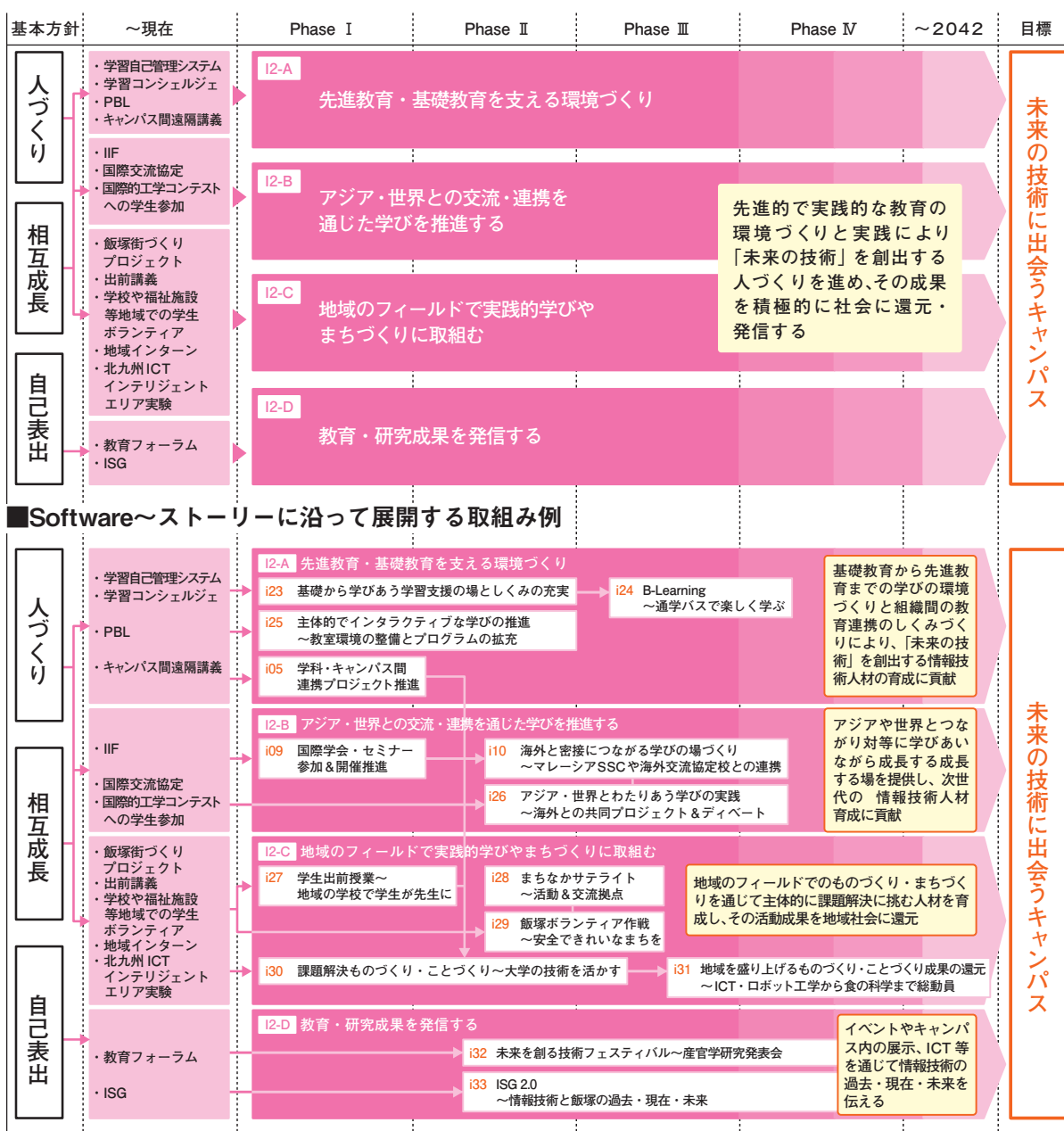
■Software 詳細

No.	Software Title	Software 概要	Place (案)	元 Idea No.
i01	教員・学生オンライン交流	他学科との交流や、1~3年生では教員との交流が少ないという問題に対応して、教員のソーシャルメディアアカウントを学内で公開し、学生と教員・教員同士がソーシャルメディア上で自由に交流できるようにする。	—	—
i02	研究室体験入門	学生が所属研究室とは別の関心を持つ研究室に一定期間体験入門できるしくみを構築し、多様な分野に触れて見識を広げることを支援する。1~3年生も体験入門可能とし、希望者が早くから専門に触れることができるようにする。	研究室	—
i03	インタラクティブな学び・活動スペースの充実	MILAiSのようなインタラクティブ学習教室や、戸畑のものづくり工房のような自由な製作活動のためのスペースを飯塚キャンパスに増設し、多様な交流の中での学びやものづくりを促進する。	新インタラクティブ教室 飯塚ものづくり工房（新設）	13
i04	飯塚カタリバ ～未来をつくる交流の場	「カタリバ」と名付けるスペースに、情報端末に加え、ビリヤードや卓球台等もそろえ、様々な人と学びや娯楽を通じて、気軽に楽しく交流できる場を設ける。また、ワールドカフェ等も実施可能なスペースにして、対話交流もできる場にする。	MILAiS オアシス	139, 146
i05	学科・キャンパス間連携プロジェクト推進	学科やキャンパスを越えた教育研究での連携プロジェクトを推進するしくみを構築する。学内から申請のあった連携プロジェクトを認定して補助したり、教育研究の取組みを進めるにあたって必要な他学科や他キャンパスのリソースをマッチングするしくみを構築すること等が想定される。	—	—
i06	九工大 SNS ～他キャンパスや OB ともつながる基盤	九工大の3キャンパスをつなぐSNS。学生・教職員やOB・OGが利用。スポーツ系のサークルでは交流試合、関連のある研究テーマを含むゼミ同士の勉強会や合同ワークショップ、合コン等3キャンパスの交流を深める。就職活動にも活用。また、離れていてもすぐに交流できるコミュニケーション基盤の役割も果たす。	—	191
i07	奇遇ですな食堂 ～いつの間にか交流体験	他キャンパスの食堂同士で、二人同時に注文すると無料になるしくみを整備。無料になった二人は互いに一言メッセージをやり取りする。	食堂	24
i08	インターナショナルカフェ飯塚 ～国際交流と学びの場	留学生やネイティブスピーカーと交流したり、英語を学んだりするカフェスペースを設置。留学生出身国の料理も味わえる。国際交流と学びを担う場とする。	MILAiS オアシス	147, 148, 149, 150
i09	国際学会・セミナー参加 &開催推進	国際学会での発表を支援する取組みや、キャンパスでの国際セミナー開催のこれまでの取組みをさらに推進し、学生・教員が世界と触れあう機会を増やす。	大講堂	69
i10	海外と密接につながる学びの場 づくり～マレーシア SSC や海外 交流協定校との連携	九州工業大学のマレーシアにおける活動拠点との連携や、海外交流協定校との連携を密接にするため、交流のための情報通信インフラ整備や、連携教育プログラム整備を進める。	—	—
t11	国際 ICT 研修拠点 ～アジアの学びの中心へ	九工大と飯塚の行政・企業・機関の連携の下、主にアジアからICT技術者研修受講者を受け入れる。九工大がアジアの学びの拠点になるとともに、地域施設で研修者が宿泊すること等による地域への貢献も目指す。	キャンパス講義室 地域施設	—
i12	キャンパスの学外利用促進 ～講義室から体育施設まで	講義室やグラウンド、体育館の学外への貸出しや、図書館の学外開放の利用率を高めるため、ウェブサイトや地域広報誌等での告知等により利用を促進し、地域の人々がより気軽に訪れるキャンパスづくりを図る。	講義室 / グラウンド 体育館 / 図書館	—
i13	I-Lab-lizuka ～総合インタラクション棟	企業や地域の人々が、様々な目的で Interactive に活動できる Laboratory、I-Lab-lizuka（総合インタラクション棟）を創設する。既存スペースを活用するか、あるいは新規建設も検討する。教育、研究、展示、イベント、交流等に活用する地域交流の拠点に。	—	157, 158
i14	飯塚スポーツクラブ	大学内外の老若男女が集う、スポーツクラブを結成。一定時間帯なら自由にグラウンドや体育館を使えるようにする。一緒に体を動かし、交流も深める。	グラウンド 体育館	82
i15	飯塚ミニ・オープンキャンパス	最先端の研究を知ることができる研究室の見学ツアー。見学後は、屋上でランチをしたり、研究者や学生と夢や情報工学の未来を語りあう。	研究室	182
i16	サイエンスコテージ飯塚	子どもの将来、九工大の未来のために、プラネタリウム、実験施設、宿泊機能等を備えたコテージを整備。研究者や市民が訪れ、泊まることができる。夏休みには KID's オープンキャンパス、自由研究サポートイベント等を開催する。	北側駐車場	160
i17	生涯学習キャンパス化計画	大学生だけでなく、子どもからお年寄りまでの生涯学習の場となるスペースをキャンパス内に設置。九工大を現代の寺子屋に。	飯塚図書館 講義室 MILAiS	159
i18	女子会 ～男子禁制！進路相談会	男子禁制の進路相談女子会。お菓子やお茶を楽しみながら、女子高生や女子学生が、先輩や教授との対話から大学生活のリアルな実態と理系学問追求の楽しさを知り、進路選択に役立てる。	MILAiS	153
i19	空間利用ルールの見直し ～自由なキャンパス利用	学内外の人の多様な交流・活動を支えるキャンパスづくりのため、キャンパスのオープンスペースや屋内スペース利用上の規制等を点検・見直し、自由なキャンパス利用を可能とするための検討を行う。	—	—
i20	SOHO 研究室 ～企業や地域の活動の場	地域のベンチャー企業者NPO等の団体が活動の場として入居できるスペースとしくみを整備。安価でスペースを提供するかわりに、学生との交流や共同研究に協力してもらう。	研究室	46
i21	芝生のフリースペース化	きれいに整備されているものの、活動スペースとしては利用できない芝生スペースの一部をフリースペース化し、憩いの場や活動の場に利用できるようにする。	芝生スペース	144
i22	九工大ファーム ～緑地を畑化して有効活用	キャンパスの広い緑地スペースを整備・畑地化し、九工大ファームを創設。生協食堂の食材栽培や、市民農園等に利用する。	芝生スペース キャンパス周辺部の緑地	170

STORY I2 先進的・実践的教育と多様な場での学びから、地域・世界をリードする IT 人材を育てる

背景 飯塚では、PBL や IIF (国際先端情報科学者養成プログラム)、出前講義等で、先進的・実践的教育や地域の学び・課題解決への貢献を行ってきました。今後も、これらの取組みを継続・強化し、「未来の技術」を生み出し地域・世界をリードする人材育成や、地域づくりへのさらなる貢献を目指すことが重要です。

あらすじ そのために、基礎教育と PBL 等先進的教育の環境づくり (I2-A)、アジアや世界との学びの推進 (I2-B) による IT 人材育成を進めます。また、地域のフィールドで学び、まちづくりに貢献する実践的教育を進めます (I2-C)。その成果は積極的に学内外に発信していきます (I2-D)。以上を通じて、「未来の技術」を創る、グローバルな情報技術者養成と、飯塚・筑豊地域や社会への教育成果の還元・発信を実現します。



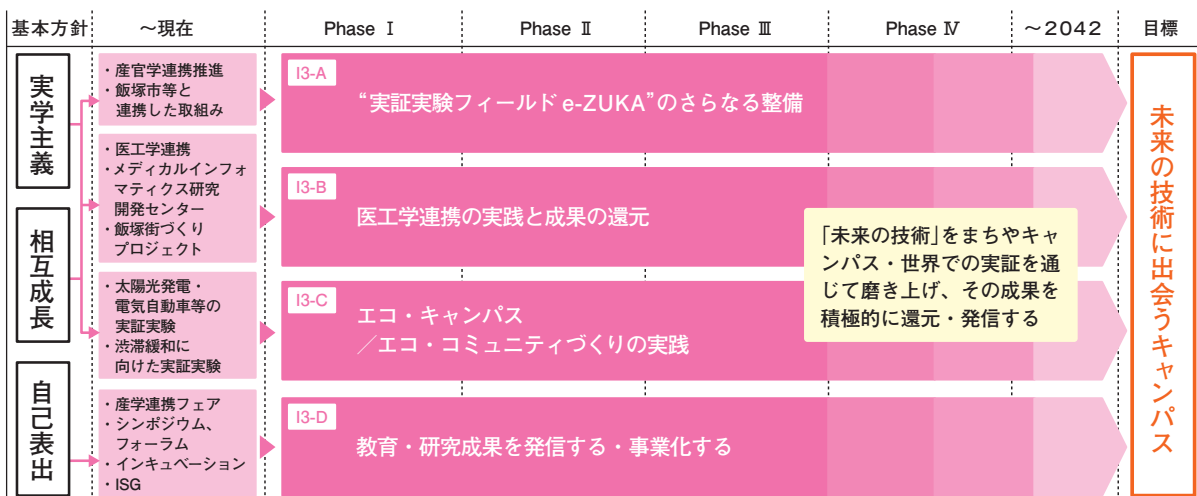
■Software 詳細

No.	Software Title	Software 概要	Place (案)	元 Idea No.
i23	基礎から学びあう学習支援の場としくみの充実	基礎からの学びあいを支える学習支援室やラーニングコモンズの利用をさらに促進するとともに、学生と教員の対話の中での学びや、学生同士のピアラーニングを支援するしくみを構築する。	図書館 (ラーニングコモンズ)	—
i24	B-Learning ～通学バスで楽しく学ぶ	バス自体を学びの場とし、通学時間に学べる楽しい時間、空間にする。 エコなスクールバス内で、講義ビデオ視聴やクイズ形式の問題、飯塚の歴史資料等 を利用でき、バス移動が自学の時間になる。	通学バス	132
i25	主体的でインタラクティブな 学びの推進～教室環境の整備 とプログラムの拡充	MILAiSのような主体的でインタラクティブな学びの場を拡充するとともに、ア クティブラーニングプログラムをさらに充実させる。	—	—
i26	アジア・世界とわたりあう学 びの実践～海外との共同プロ ジェクト&ディベート	九工大生と海外交流協定校やマレーシアSSCの学生との共同プロジェクトや ディベート等を、海外現地や、情報通信インフラを介して九工大で実践する。	—	—
i27	学生出前授業～地域の学校で 学生が先生に	小中学生に学生が研究を発表し、科学と九工大に興味を持ってもらう出張授業。小中 生に分かるように説明ができれば、もっと多くの人にも研究を知ってもらうことが できる。また、学生のプレゼン力向上にもつながる。学生自治会やサークルのボラン ティア活動を母体として展開。	小中学校	49, 53, 54
i28	まちなかサテライト ～活動 & 交流拠点	周辺商店街の空き店舗を、学内サークル・研究室の活動・成果発表の場や、学生 と地域の他大学の学生、NPO 等の団体との交流の場として活用できる「まちなか サテライト」として整備する。	飯塚市商店街	70
i29	飯塚ボランティア作戦 ～安全できれいなまちを	防犯やクリーンなまちづくりに向けて、防犯活動や市街・河川の清掃活動等の ボランティアを行う。学生自治会やサークルのボランティア活動を母体とし て、近畿大学等の近隣教育機関や、地元自治会・NPO 等との連携も目指す。また、 ICT を活用した防犯対策等、九工大ならではのしくみづくりに取り組む。	飯塚市街地	163, 164, 172
i30	課題解決ものづくり・ことづ くり～大学の技術を活かす	まちでの地域の人々の交流や、技術に対するニーズ調査等の結果から、学生がま ちの課題を見つけ出し、その解決に向けた「ものづくり」や、情報工学を活かした 「ことづくり」に取り組む。	飯塚市街地 飯塚市商店街	56, 57, 58, 59, 154, 156
i31	地域を盛り上げるものづくり・ ことづくり成果の還元	学生が地域の課題解決に向けて取組んだものづくり・ことづくりの成果を、地 域に還元する。たとえば、ICT を活用した企業の実際のシステム構築や商店街の キャンペーン、ロボット展示、食品製造に係る技術を活かした商品企画、等を実 践する。	飯塚市街地 飯塚市商店街	9
i32	未来を創る技術フェスティバ ル～産官学研究発表会	九工大の3キャンパスと地域の大学、企業、行政の様々な研究成果を大学内 外多くの人々に披露する。また、その研究や技術を発展させるシンポジウム やワークショップ等を展開する。	キャンパス内	86, 188, 190
i33	ISG 2.0 ～情報技術と飯塚の 過去・現在・未来	市民に情報技術の歴史を伝える場である飯塚サイエンスギャラリーを増強。情 報技術の歴史に加え、飯塚キャンパスの技術の過去・現在・未来に触れ、体感で きるスペースにする。	産学連携推進 センター	8, 218

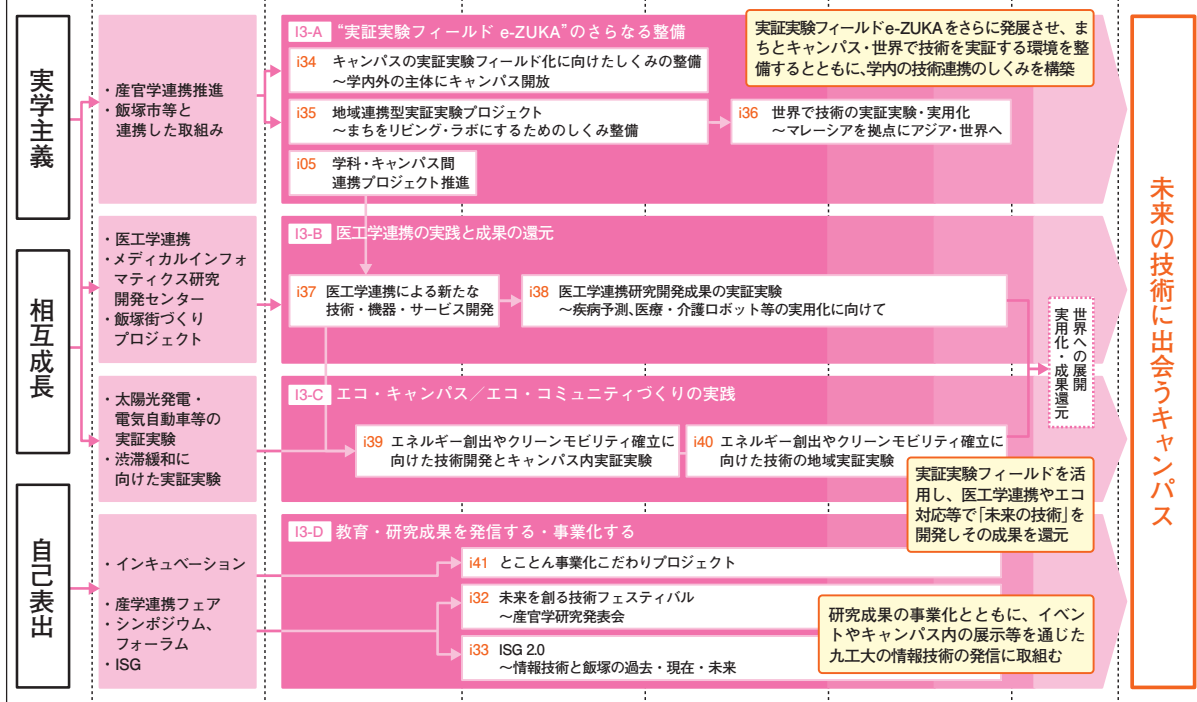
STORY I3 “実証実験フィールド e-ZUKA”の発展を通じ、地域・世界の課題解決に貢献する

背景 飯塚市では、地域経済活性化を目指す e-ZUKA トライバレー構想において、“実証実験フィールド e-ZUKA”を提唱し、九州工業大学もその実現に貢献してきました。多様な技術が生まれる実証実験フィールドを発展させることは、地域にとっても、九州工業大学の教育研究にとっても重要な課題です。

あらすじ そのために、まちとキャンパス、さらに世界を“実証実験フィールド”とするためのしくみ整備を進めつつ (I3-A)、地域で進む医工学連携や、エコキャンパス・エココミュニティづくりをはじめとする分野で、技術開発、実証実験、成果の還元に取り組めます (I3-B,C)。その成果は積極的に発信するとともに、事業化することも視野に入れます (I3-D)。以上を通じて「未来の技術」を開発し、磨き上げ、その成果を地域社会・日本・世界へ還元・発信します。



Software～ストーリーに沿って展開する取組み例



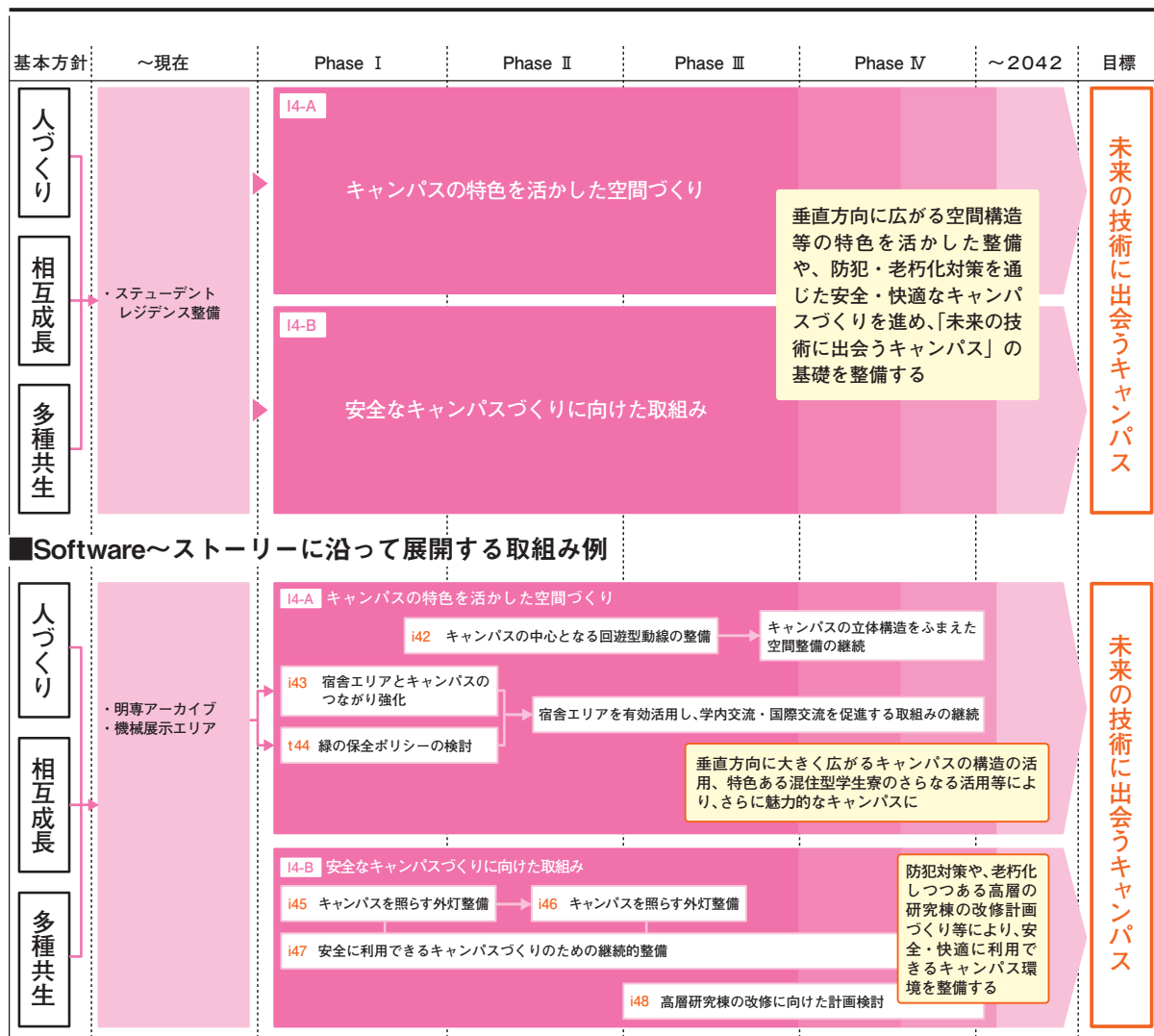
■Software 詳細

No.	Software Title	Software 概要	Place (案)	元 Idea No.
i34	キャンパスの実証実験フィールド化に向けたしくみの整備 ～学内外の主体にキャンパス開放	多様な技術が生まれるキャンパスづくりのために、学内の研究室やサークルのほか、学外の企業や機関も開発技術を実証実験できるようにするしくみを整備する。その上で、年度ごとに実証実験プロジェクトを選定・推進する。	—	—
i35	地域連携型実証実験プロジェクト ～まちをリビング・ラボにするためのしくみ整備	飯塚市をはじめとする自治体等と協議して、まちのなかで開発する技術を実証実験し、実用化・事業化に結び付けるためのしくみ(まちをリビング・ラボにするためのしくみ)を整備する。その上で、年度ごとに実証実験プロジェクトを共同で選定・推進する。	—	—
i36	世界で技術の実証実験・実用化 ～マレーシアを拠点にアジア・世界へ	キャンパスと周辺のまちだけでなく、海外で技術の実証実験や事業化を行うための体制・しくみづくりを進める。九州工業大学のマレーシアにおける活動拠点での活動実績を土台に、マレーシアから世界に活動の場を広げていく。	—	—
i37	医工学連携による新たな 技術・機器・サービス開発	飯塚病院・飯塚市や、他大学、その他の企業・機関との連携の下で、医工学連携による技術・機器・サービス等の開発を行う。九州工業大学側は、メディカルインフォマティクス研究開発センターを中心としつつ、3 キャンパスの研究資源を有効活用する。	—	—
i38	医工学連携研究開発成果の実証実験～疾病予測、医療・介護ロボット等の実用化に向けて	医工学連携の研究開発成果を、実際の医療機関等で実証実験する。健康情報の可視化、疾病予測、医療・介護用のロボット等、様々な技術のシーズを育て、医療現場のニーズに見合う機器やサービスとして実用化することを目指す。	飯塚病院 その他医療施設	171, 174
i39	エネルギー創出やクリーンモビリティ確立に向けた技術開発とキャンパス内実証実験	太陽光発電をはじめとするエネルギー創出技術や、交通量の多い飯塚の環境改善に役立つクリーンモビリティの確立に向けた技術開発を行う。戸畑や若松とも連携して開発を進め、キャンパスで実証実験する。	キャンパス内各所	—
i40	エネルギー創出やクリーンモビリティ確立に向けた技術の地域実証実験	キャンパス内で開発・実証実験した省エネ・創エネ技術を、地域をフィールドにして実証実験し、その有効性を検証し、技術の改良とエコキャンパス・エココミュニティの形成に役立てる。	地域各所	138, 205, 206, 207
i41	とことん事業化こだわりプロジェクト	事業化に近い研究活動をしている先生方をキャンパスを挙げてより一層の支援を行い、研究の事業化という結果を追求する。	飯産学連携推進センター	8, 218

STORY I4 キャンパスの特色を活かしながら、安全・快適に学びや交流に従事できる環境をつくる

背景 飯塚キャンパスは、高低差の大きな土地に建物が立ち並び、垂直方向に大きく広がる空間が特徴的ですが、空間構成がわかりにくく、中心エリアと周辺部の宿舍エリアとのつながりが弱い、等の問題を抱えます。また、キャンパス内の防犯対策や、徐々に老朽化しつつある施設の改修への対応も課題となっています。これらに対応し、キャンパスの特長を伸ばす整備と、目標像の実現の基礎となる、安全・快適に学びや交流に取り組める環境整備が求められます。

あらすじ そのために、立体的に広がる空間の中心となる動線整備や、特色ある留学生・日本人学生混住型宿舍の拡充等、キャンパスの特色を活かした空間づくりを進めます (I4-A)。また、防犯対策や、近い将来前例の少ない大がかりな改修が必要となる高層棟の改修計画づくり等を通じ、安全に利用できるキャンパスづくりを進めます (I4-B)。以上を通じて、キャンパスの特長を活かした整備、および安全・快適な環境整備を推進します。



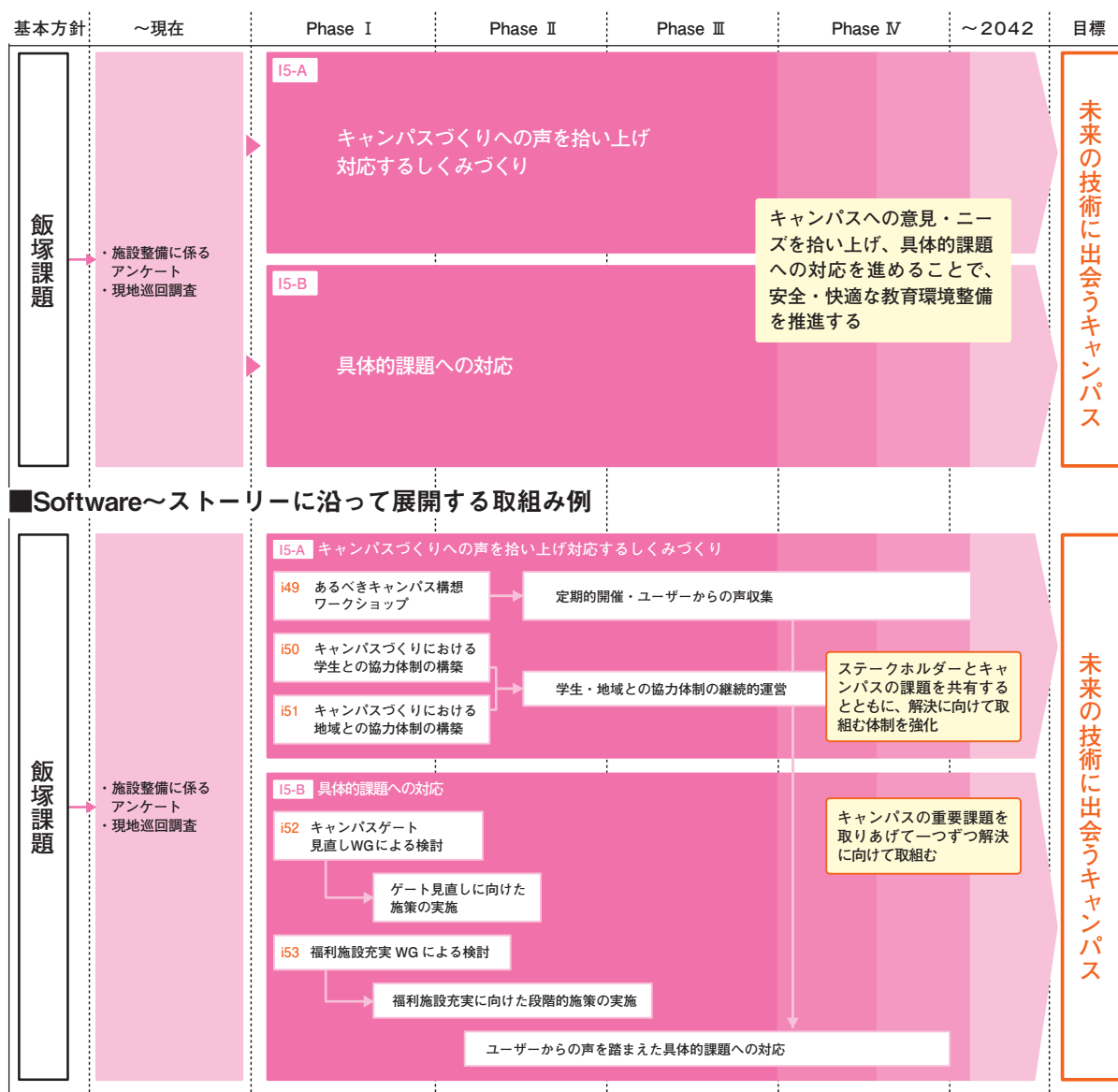
■Software 詳細

No.	Software Title	Software 概要	Place (案)	元 Idea No.
i42	キャンパスの中心となる回遊型動線の整備	垂直方向に複雑に広がり、分かりにくい空間構成を改善し、人と技術が出会う交流の中心軸をつくるため、各施設の3階レベルをつなぐ回遊型動線をメイン動線として位置づけて、学内外の交流や自己表出の空間として整備する。	—	—
i43	宿舍エリアとキャンパスのつながり強化	キャンパス中央部と北西部に位置する宿舍エリアが分断されている状況を解消するため、2つのエリアをつなぐための階段等を整備する。	—	—
i44	国際交流を育む学生寮の拡充	留学生と日本人学生が共同で居住するという、特色ある形式のステューデントレジデンスを拡充し、学内交流・国際交流に向けたさらなる活用を進める。	—	—
i45	キャンパスを照らす外灯整備	夜間照明が少なく、夜に歩くには危険も伴うキャンパス環境を改善するため、特に周回道路の外灯を拡充し、安全なキャンパスづくりにつなげる。	—	204
i46	ICT でつくる安全・安心キャンパス	飯塚キャンパスの情報工学の強みを活かし、独自の技術を活かした防犯カメラや、入構管理システム等を開発してキャンパスに導入し、地域に開かれつつも安全・安心を確保したキャンパスづくりを進める。	—	172
i47	安全に利用できるキャンパスづくりのための継続的整備	設立後25年を経過したキャンパスで、活動する上で危険を伴うような箇所や、優先的に修繕すべき設備・施設を定期的な点検やユーザーからの声を基に把握し、継続的に対処していく。	—	—
i48	高層研究棟の改修に向けた計画検討	キャンパスの中心である高層の研究棟は、中期プランの計画期間に次第に老朽化する。しかし、改修に向けては長い期間が必要であり、前例の少ない改修となることから、改修に向けた計画の検討を進める。	研究棟	—

STORY I5 キャンパスづくりの課題を拾い上げ、解決に向けて取り組むためのしくみを確立する

背景 キャンパスのあるべき姿の実現に向けては、ここまでのストーリーを推進するとともに、キャンパスづくりに対するステークホルダーの意見やニーズを捉え、具体的課題に着実に対応し、安全・快適な教育研究環境を実現することも必要です。

あらすじ そのために、従来から実施している施設整備に係るアンケートや巡回調査からだけでは見えにくい、キャンパスのあるべき姿についてのユーザーの考えを共有し、その実現に向けて取り組むしくみづくりを行います (I5-A)。また、既に明らかになっている具体的な課題 (キャンパスゲートの見直し、福利施設の充実等) への対応も順次進めます (I5-B)。以上を通じて、「未来の技術に出会うキャンパス」の基礎を支える、安全・快適な教育研究環境の整備を推進します。



■Software 詳細

No.	Software Title	Software 概要	Place (案)	元 Idea No.
i49	あるべきキャンパス構想ワークショップ	施設整備に係るアンケートや巡回調査から見えるキャンパスの問題点に加え、ユーザーが望むキャンパスのあり方を拾い上げて、キャンパスづくりに活かすため、キャンパスのあるべき姿を学生・教職員、さらには地域住民も集うワークショップを開催。	MILaIS	141
i50	キャンパスづくりにおける学生との協力体制の構築	あるべき姿に近づくためのキャンパスづくりには、施設系職員の力だけでは十分でない。学生の力をキャンパスづくりに活かすため、「学生キャンパス委員会（仮称）」を設置して、ソフト・ハード両面からのキャンパスづくりで協力する。	—	—
i51	キャンパスづくりにおける地域との協力体制の構築	キャンパスエッジの整備や、騒音・照明のコントロール、防災・防犯の強化等、キャンパスづくりにおいては、地域と協議して進めるべきことが多い。「地域協議会（仮称）」を設置して、多様な観点からキャンパスづくりについて協力する。	—	—
i52	キャンパスゲート見直しWGによる検討	長期ビジョンにも飯塚キャンパスの課題として記載した、閉鎖的印象を与えるキャンパスゲートの見直しについて、安全面を考慮しつつ対応を進めるためのWGを設置する。	—	200, 202
i53	福利施設充実 WG による検討	飯塚キャンパスで要望の多い、福利施設（食堂、課外活動施設）の充実への対応を検討するWGを設置する。 キャンパス内の施設増設だけでなく、外部リソースの活用（移動式屋台の誘致、キャンパス外でのスペース借受等）も検討する。	—	—

3.4 若松キャンパスにおけるストーリー

未来の技術に出会うキャンパス実現に向けたストーリー in 若松

若松キャンパスでは、未来の技術に出会うキャンパスの実現に向けて、以下の 5 つのストーリーを推進します。

まず、専門性やキャンパスの壁を越えた学内の交流や、周辺地域や世界の人々との共生・交流を促進するキャンパスづくりを行います (StoryW1)。また、北九州学術研究都市とともに活動する大学や、周辺の折尾地域の他大学と連携しながら、活気ある学研都市の場づくりに取組みます (StoryW2)。これにより、「未来の技術」をつくりだす土台となる、相互成長と多種共生の環境形成を図ります。この土台を活かしつつ、リアル PBL や出稽古プログラム等、これまでの特色ある教育をさらに発展させる環境づくりを進め、「未来の技術」をつくり、社会・産業界の最前線で活躍する人材の育成に取組みます (StoryW3)。加えて、地域と世界まで視野に入れた技術の実証・実用化に取組みます (StoryW4)。さらに、その他の若松キャンパス特有の課題に取り組んでいくことで、未来の技術に出会うキャンパスの基礎となる、安全で快適なキャンパス環境を築きます (Story5)。

STORY W1

学内やまち、世界の人々と共生・交流する、
開放的なキャンパスを形成する

STORY W2

学研都市や周辺他大学と連携しながら、
活気ある学研都市の場づくりに貢献する

STORY W3

先進的・実践的な特色ある教育で、
社会・産業界の最前線で活躍する技術人材を育てる

STORY W4

キャンパスから地域・世界までを視野に入れて
技術の実証・実用化に取り組む

STORY W5

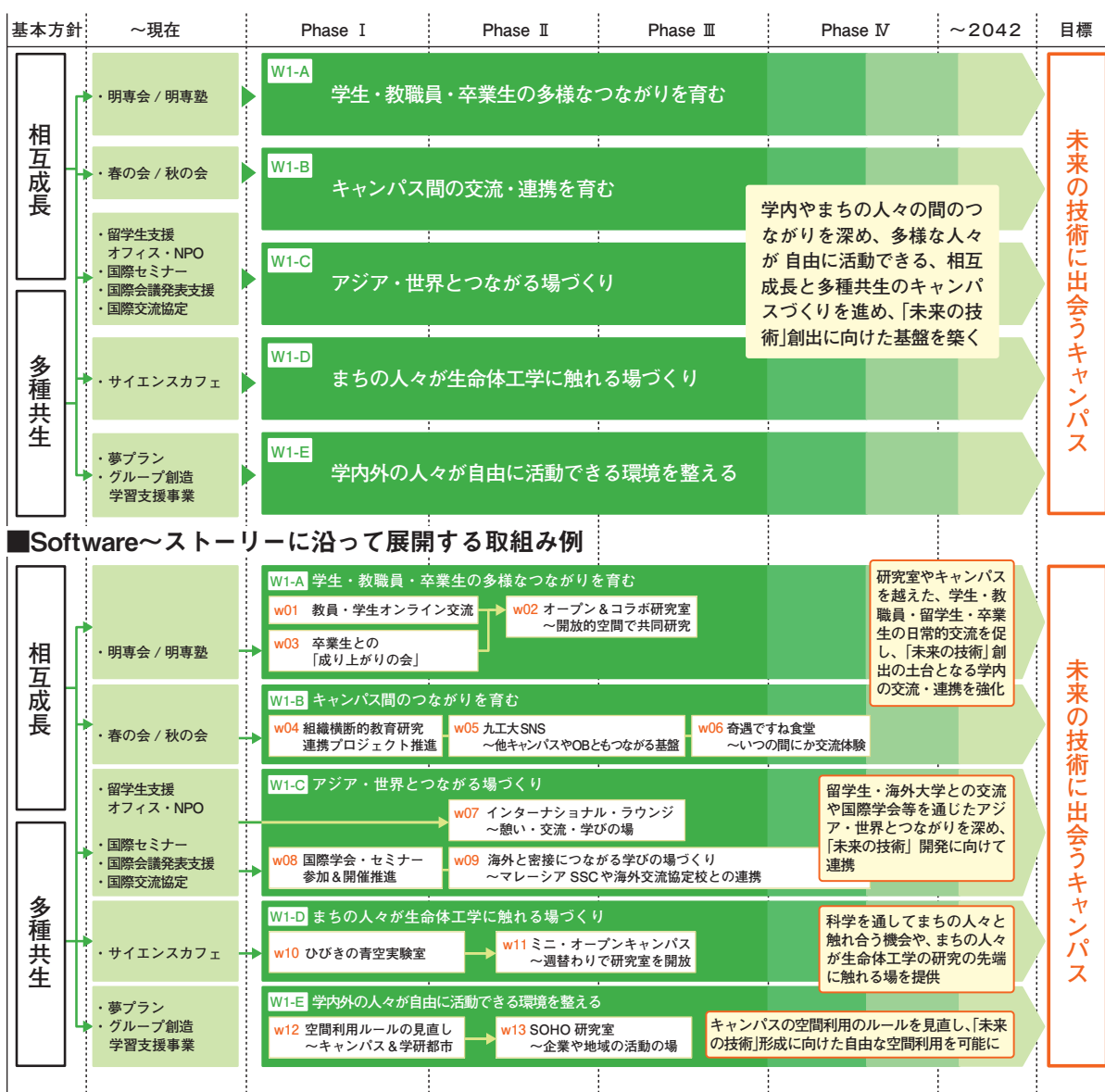
キャンパスづくりの課題を拾い上げ、
解決に向けて取り組むためのしくみを確立する

未来の技術に出会うキャンパス

STORY W1 学内やまち、世界の人々と共生・交流する、開放的なキャンパスを形成する

背景 若松では、北九州学術研究都市の他大学との連携大学院や研究室間の出稽古プログラム等、学内外の連携の取組みが行われています。しかし、これまでの調査では、研究室やキャンパスの壁を越えた連携、地域との共生においては、なお活性化が求められるという声が多く聞かれました。

あらすじ さらに共生・交流の推進に向けて、学内の多様なつながりを育み(W1-A,B)、アジア・世界、まちとのつながりの深化(W1-C,D)を進めます。さらに、キャンパスに集う学内外の人々が自由に活動できるようにするための施設・ルールづくりを進めます(W1-E)。以上を通じて、「未来の技術」形成に向けた基盤となる、相互成長と多種共生のキャンパスづくりを実現します。



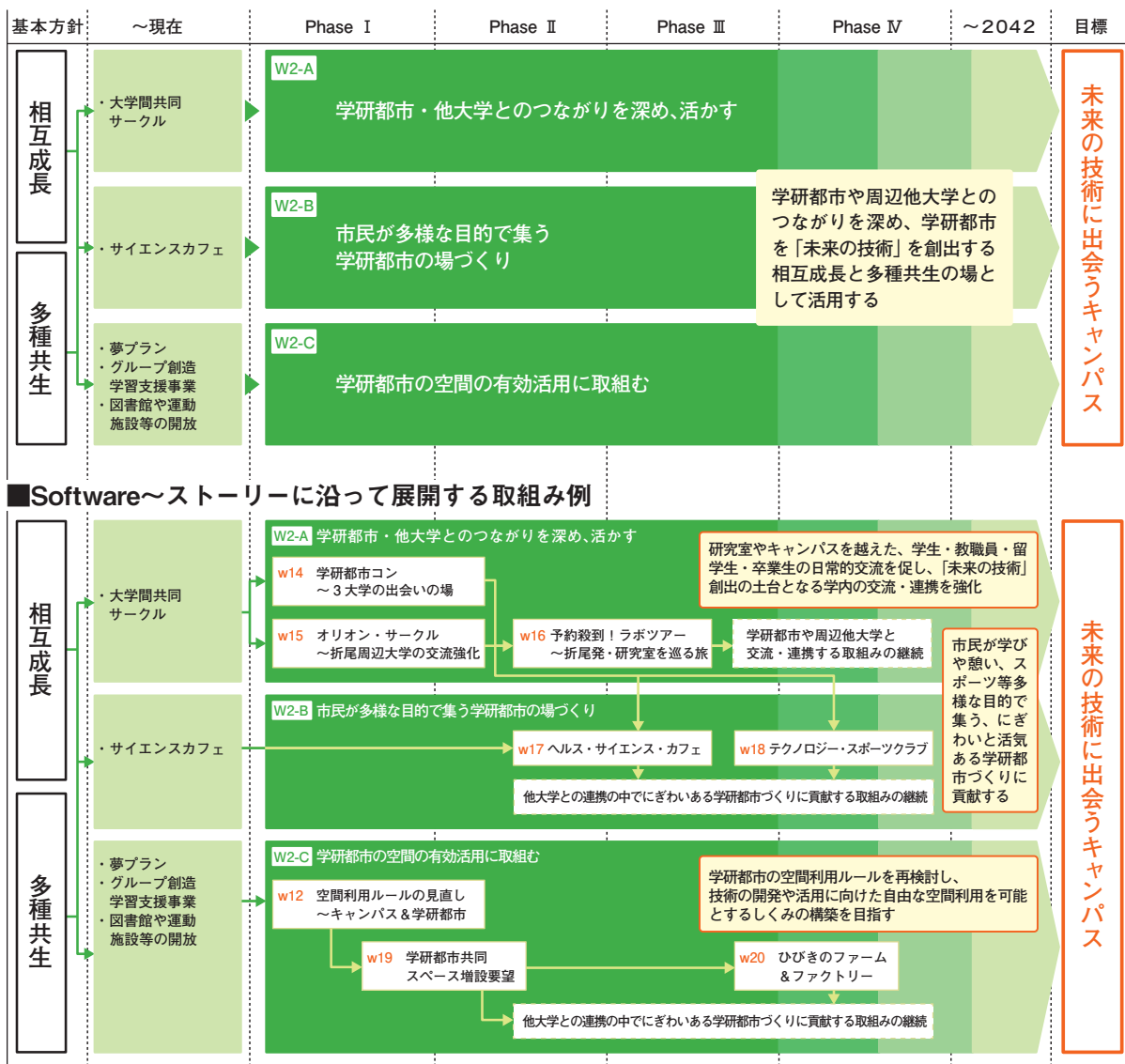
■Software 詳細

No.	Software Title	Software 概要	Place (案)	元 Idea No.
w01	教員・学生オンライン交流	他学科・他キャンパスとの交流が少ないという問題に対応して、教員のソーシャルメディアアカウントを学内で公開し、学生と教員・教員同士がソーシャルメディア上で自由に交流できるようにする。	—	—
w02	オープン＆コラボ研究室 ～開放的空間で共同研究	専門の異なる教授2人以上がランダムに共同で実習を行う。領域が離れているほど未開拓分野として可能性が広がる。新たな発見のある授業が期待できる。またそれを可能にするために閉鎖的な雰囲気のある研究室をガラス張りにする等、オープンにしていくな施設の整備も行う。	研究室	137, 138
w03	卒業生との 「成り上がり」の会	年齢の近い卒業生と、食事やスポーツ、就職や将来の相談等で交流を活発に行う機会を作る。卒業生にとって楽しいイベントにするとともに、在学生にとっては社会で活躍する先輩に学び「成り上がる」ための機会にする。	食堂 グラウンド 体育館	234, 235, 236
w04	組織横断的教育研究 プロジェクト推進 WG	研究室やキャンパス、大学間の壁をこえた組織横断的教育研究プロジェクトに補助を与え、積極的に組織間の連携を推進するプロジェクトを発足。推進主体となるWGも設置する。	—	—
w05	九工大 SNS ～他キャンパスやOBとも つながる基盤	九工大の3キャンパスをつなぐ SNS、学生・教職員や OB・OG が利用、スポーツ系のサークルでは交流試合、関連のある研究テーマを含むゼミ同士の勉強会や合同ワークショップ、合コン等3キャンパスの交流を深める。就職活動にも活用。また、離れていてもすぐに交流できるコミュニケーション基盤の役割も果たす。	—	191
w06	奇遇ですね食堂 ～いつの間にか交流体験	他キャンパスの食堂同士で、二人同時に注文すると、無料になるしゅみを構築。無料になった2名は互いに一言メッセージをやり取りする。	食堂	24
w07	インターナショナル・ラウンジ ～憩い・交流・学びの場	談話室に各国の新聞・雑誌や、各国語訳された漫画、セルフサービスのドリンク等をそろえ、自然に人が集まる場に。また、定期的にイベントや語学教室を開いて、交流や学びを促進する。	談話室	223, 224
w08	国際学会・セミナー参加 &開催推進	国際学会での発表を支援する取組みや、キャンパスでの国際セミナー開催のこれまでの取組みをさらに推進し、学生・教員が世界と触れあう機会を増やす。	会議場	69
w09	海外と密接につながる学びの場 づくり～マレーシア SSCや海外 交流協定校との連携	九州工業大学のマレーシアにおける活動拠点との連携や、海外交流協定校との連携を密接にするため、交流のための情報通信インフラ整備や、連携教育プログラム整備を進める。	—	—
w10	ひびきの青空実験室	北九州学術研究都市の大学が連携して開催する子ども向けの研究紹介イベント。ロボット等の研究成果に直に触れて興味を持ってもらったり、一緒に科学実験を行って白衣で記念撮影する等、体験や遊びを通して科学や大学の魅力をわかりやすく伝える。	北九州学術研究都市 オープンスペース	241, 242
w11	ミニ・オープンキャンパス ～週替わりで研究室を開放	市民が大学に訪れ、大学に親しむ機会を増やすため、週単位等でミニ・オープンキャンパスを開催。研究室が持ち回りで研究の様子を公開し、主に子どもたちに研究内容や科学の魅力を伝える機会を設ける。	研究室	—
w12	空間利用ルールの見直し ～キャンパス & 学研都市	学内外の人の多様な交流・活動を支えるキャンパスづくりのため、キャンパスや北九州学術研究都市の空間利用上の規制等を点検・見直し、自由なキャンパス利用を可能とするための検討を行う。	—	—
w13	SOHO 研究室 ～企業や地域の活動の場	地域のベンチャー企業者 NPO 等の団体が活動の場として入居できるスペースとしゅみを整備。安価でスペースを提供するかわりに、学生との交流や共同研究に協力してもらう。	研究室	46

STORY W2 学研都市や周辺他大学と連携しながら、活気ある学研都市の場づくりに貢献する

背景 若松は、多数の大学・企業・機関が集まる北九州学術研究都市に位置し、周辺の折尾地域でも、多数の大学が活動しています。学内でのつながり・世界との連携を深めるとともに、学研都市内や周辺他大学とのつながりを密にし、学研都市の場を活性化することが、九工大の教育研究・社会貢献活動の展開において重要となります。

あらすじ 学研都市や周辺大学とのつながりを深め、教育研究・社会貢献活動に活かすための取組みを進めます(W2-A)。また、そうしたつながりを活かして、市民が学びや憩い等多様な目的で集う、活気ある学研都市の場づくりの貢献します(W2-B)。さらに、学研都市の空間をより自由に、かつ有効に活用するための取組みを進めます(W2-C)。以上を通じて、「未来の技術」開発の土台となる、相互成長と多種共生の場づくりを図ります。



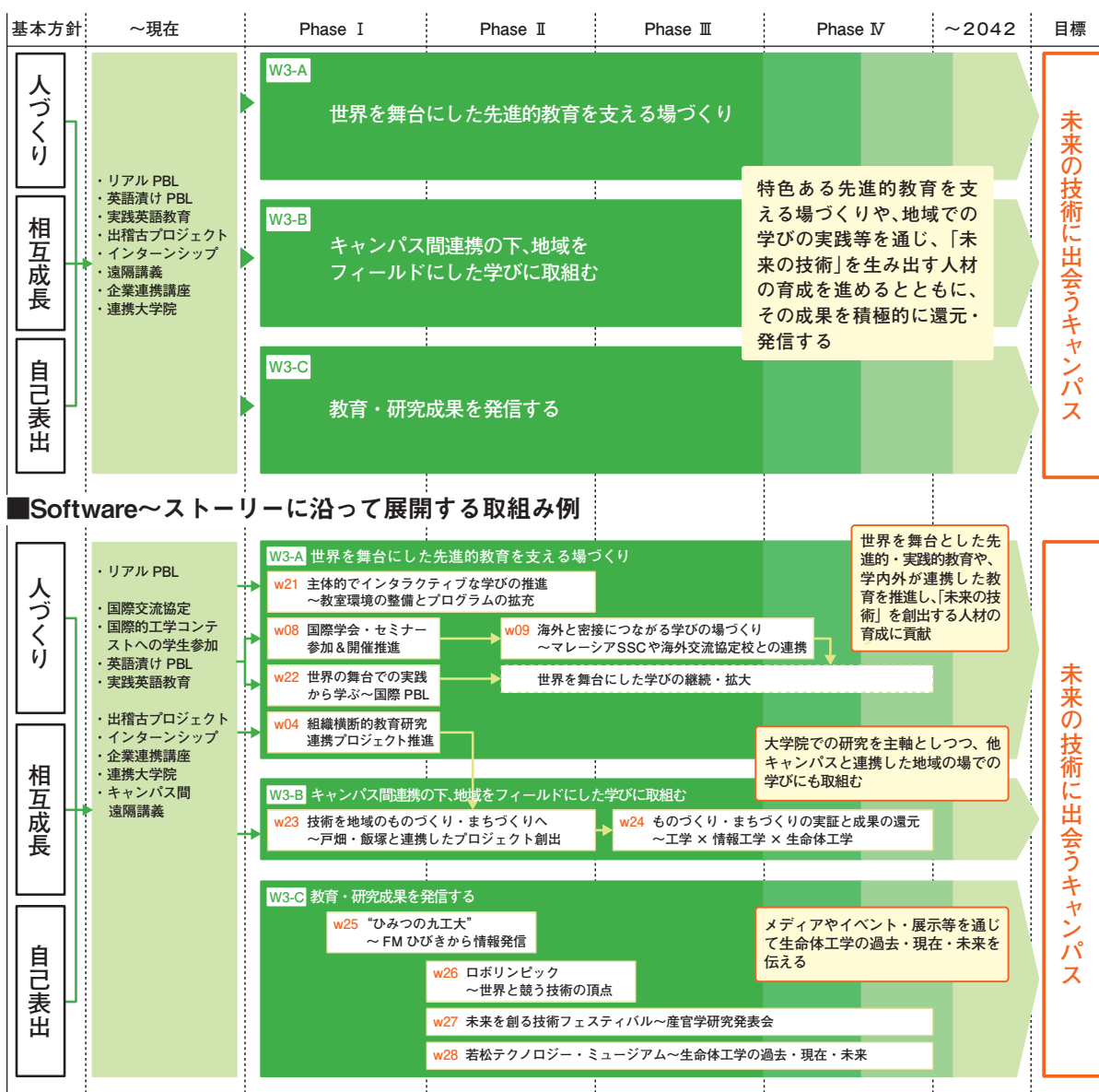
■Software 詳細

No.	Software Title	Software 概要	Place (案)	元 Idea No.
w14	学研都市コン ～大学間の出会いの場	学研都市の他大学の学生との交流のため、様々なテーマでコンパを実施する。学びや研究をテーマにしたコンパ、友人や男女の出会いをプロデュースするコンパ等を通じて、気軽につながりを作れる場にする。	食堂 学研都市東側 ウッドデッキ等	225, 226
w15	オリオン・サークル ～折尾周辺大学の交流強化	折尾地区の大学と九工大等学研都市の大学が、研究活動やサークル活動で交流しあうサークルを運営。交流を通じて、お互いの教育・研究活動での連携につなげる。	折尾地区大学	249
w16	予約殺到！ラボツアー ～折尾発・研究室を巡る旅	折尾駅を出発地に、折尾周辺の大学と協力し、各大学の研究室を巡るツアーを開催。研究成果を活かしたお土産も用意して、周辺の住宅街から市民・子どもたちが集まる機会にするとともに、大学間の交流も促進する。	研究室	256, 257
w17	組ヘルス・サイエンス・カフェ	九工大や北九州市立大、早稲田大等の研究成果を活かした健康カフェメニューやユニバーサルデザインの食器等を揃えたカフェを設ける。家族連れの近隣住民も利用できるよう、子どもも楽しめるメニューを開発。どんな研究成果が活かされているのかも表示して、大学を身近に感じてもらう。	食堂 アートカフェレストラン	237, 238
w18	テクノロジー・スポーツクラブ	学内外の人々を対象に、九工大のメンタルトレーニング技術や、生命体工学の研究成果、さらには周辺大学の研究成果を活かしたスポーツクラブを開講。科学的に心と体を強化する。	グラウンド 体育館	176
w19	学研都市共同スペース増設要望	学研都市の大学間共通で利用できる憩いの場や、活動スペースを増やし、交流・協働を促進するため、他大学と連携して FAIS (北九州産業学術推進機構、北九州学術研究都市の運営団体) に要望し、協議する。	北九州学術研究都市 オープンスペース	—
w20	ひびきのファーム&ファクトリー	北九州学術研究都市の広大な土地を活かし、畑を整備して農作物を栽培。大学や研究機関が研究成果を活かした食品をつくる実験農場や、市民農園として活用。できた作物は、ふたたび研究成果を活かして加工・製品化する。収穫祭も催し、取組みを広く知ってもらう。	北九州学術研究都市 オープンスペース	220

STORY W3 先進的・実践的な特色ある教育で、社会・産業界の最前線で活躍する技術人材を育てる

背景 若松では、リアル PBL、出稽古プロジェクト、学研都市での連携大学院等、先進的・実践的な特色ある教育の取組みを多数展開しています。今後もこうした取組みを継続・強化し、人材の育成拠点であり続けることが求められます。

あらすじ そのために、世界を舞台とした先進的・実践的教育を支える環境・組織づくりと実践を進めます (W3-A)。また、戸畑・飯塚と連携しつつ地域での学びにも取組めます (W3-B)。それらの成果は、積極的に学内外に発信していきます (W3-C)。以上を通じて、「未来の技術」を創る、社会・産業界の最前線で活躍できる人材を輩出し続けることに貢献します。



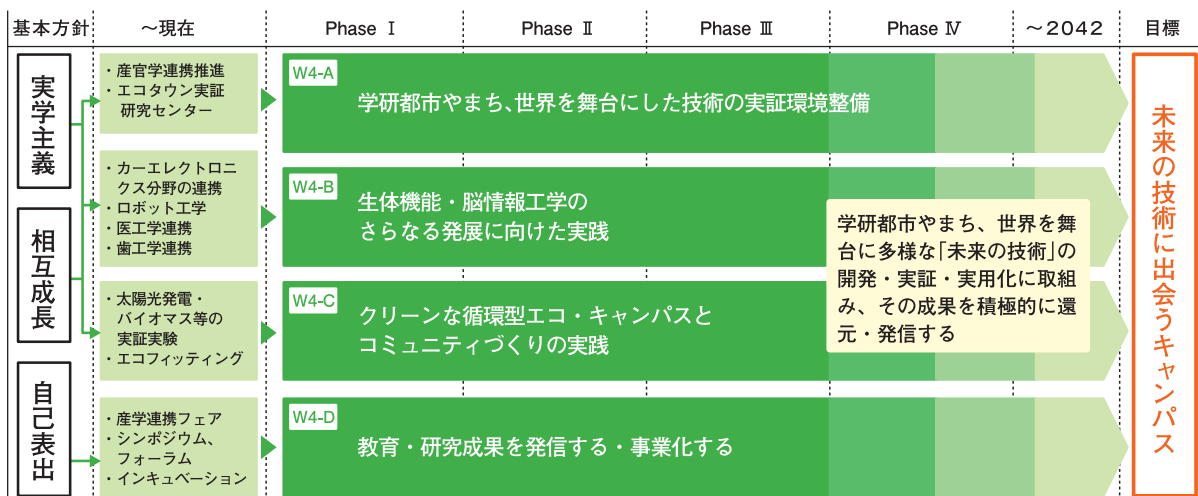
■Software 詳細

No.	Software Title	Software 概要	Place (案)	元 Idea No.
w21	主体的でインタラクティブな学びの推進～教室環境の整備とプログラムの拡充	PBLに代表される実践型教育・アクティブラーニングプログラムをさらに充実させるとともに、プロジェクトラボトリ・MILAiSのような主体的でインタラクティブな学びの場を拡充する。	教育研究棟	—
w22	世界の舞台での実践から学ぶ～国際PBL	学生の海外派遣、国際的なプロジェクトでの実践を通じた学び等、世界を舞台にした学びの機会を拡大し、世界で活躍する技術者の養成につなげる。	—	—
w23	技術を地域のものづくり・まちづくりへ～戸畑・飯塚と連携したプロジェクト創出	大学院大学であり、学生が研究で多忙な日々を送る若松キャンパスでも、まちのものづくり・まちづくりに貢献していくため、戸畑・飯塚キャンパスと連携しつつ若松の技術をものづくり・まちづくりに活かすプロジェクトを創出する。	—	—
w24	ものづくり・まちづくりの実証と成果の還元～工学 × 情報工学 × 生命体工学	戸畑・飯塚キャンパスと連携して、九州工業大学の技術をものづくり・まちづくりに活かす実証実験を行い、その成果を地域に還元する。たとえば、戸畑・飯塚の技術に加え、若松のロボットに係る技術や、医療・介護に係る技術等を活かしたものづくり・まちづくりの実証実験・成果還元を目指す。	—	245, 246
w25	“ひみつの九工大”～FMひびきから情報発信	北九州学術研究都市で開設している「FMひびき」から、九工大で特色ある研究活動をされている先生方をゲストに迎えるラジオ番組を配信。九工大の面白さを発信する。	—	268, 269
w26	ロボリンピック～世界と競う技術の頂点	ロボットで行う様々な競技の世界一決定戦を一度に行う「ロボリンピック」を北九州学術研究都市で開催。ひびきのから世界に発信する文化となり、あのイベントといえはひびきの・九工大と思ってもらえるような取組みとなることを目指す。	体育館 グラウンド イベント会場等	258, 259, 260, 261, 262, 263
w27	未来を創る技術フェスティバル～産官学研究発表会	九工大の3キャンパスと地域の大学、企業、行政の様々な研究成果を大学内外多くの人々に披露する。また、その研究や技術を発展させるシンポジウムやワークショップ等を展開する。	キャンパス内	265, 266, 267
w28	若松テクノロジー・ミュージアム～生命体工学の過去・現在・未来	低層階の人と技術が出会う交流の中心軸に、若松キャンパスでのこれまでの教育研究の成果や、生命体工学の過去・現在・未来を展示し、学内外の人々が訪れ、九工大の歴史とビジョンに触れることができるスペースにする。	人と技術が出会う 交流の中心軸	270

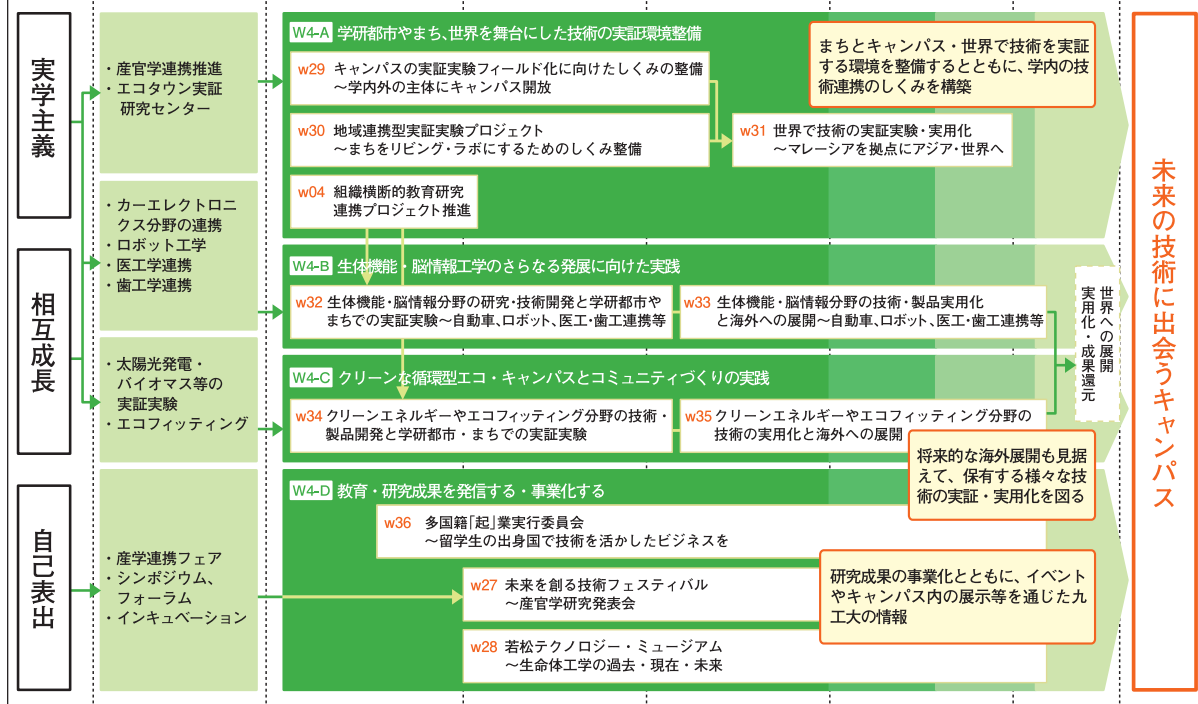
STORY W4 キャンパスから地域・世界までを視野に入れて技術の実証・実用化に取り組む

背景 若松では、カーエレクトロニクスや医療、エコ技術等の領域で産学連携や技術の実証実験・実用化の取り組みを行ってきました。バーム・バイオマス分野では、取り組みの場は海外にまで広がっています。こうした取り組みを持続・発展させていくための環境整備が重要です。

あらすじ そのために、北九州学術研究都市とまち、世界までをフィールドにした技術の実証環境整備を行いつつ(W4-A)、生体機能・脳情報工学の分野で、研究・技術開発、実証実験、成果の還元に取り組めます(W4-B,C)。その成果は積極的に発信するとともに、事業化することも視野に入れます(W4-D)。以上を通じて、「未来の技術」を開発し、磨き上げ、その成果を社会に還元・発信していきます。



Software～ストーリーに沿って展開する取り組み例



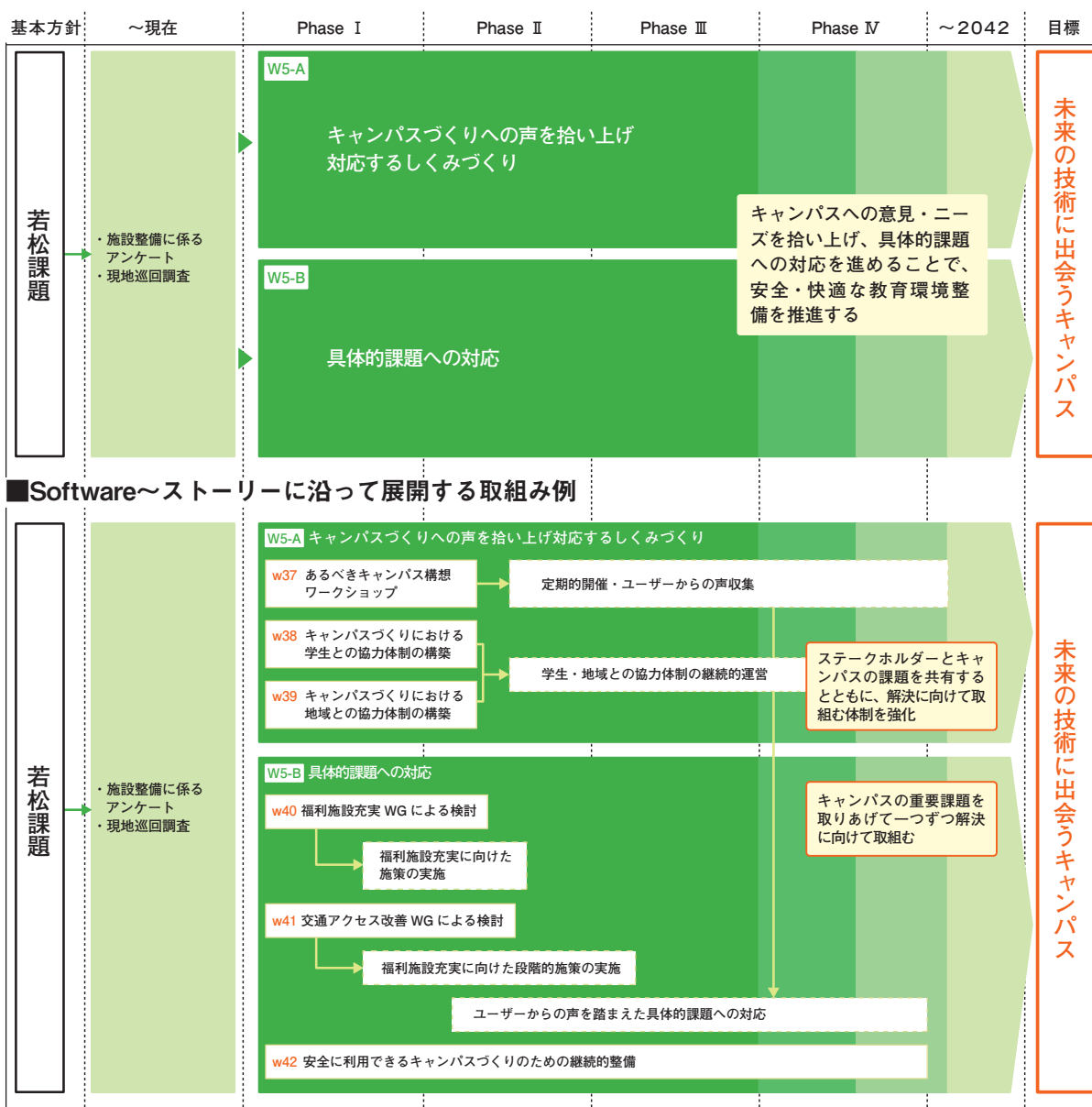
■Software 詳細

No.	Software Title	Software 概要	Place (案)	元 Idea No.
w29	キャンパスの実証実験フィールド化に向けたしくみの整備 ～学内外の主体にキャンパス開放	多様な技術が生まれるキャンパスづくりのために、学内の研究室やサークルのほか、学外の企業や機関も開発技術を実証実験できるようにするしくみを、キャンパス内・北九州学術研究都市内で整備する。その上で、年度ごとに実証実験プロジェクトを選定・推進する。	—	—
w30	地域連携型実証実験プロジェクト ～まちをリビング・ラボにするためのしくみ整備	北九州市をはじめとする自治体等と協議して、まちのなかで開発する技術を実証実験し、実用化・事業化に結び付けるためのしくみ(まちをリビング・ラボにするためのしくみ)を整備する。その上で、年度ごとに実証実験プロジェクトを共同で選定・推進する。	—	—
w31	世界で技術の実証実験・実用化 ～マレーシアを拠点にアジア・世界へ	キャンパス・北九州学術研究都市・周辺のまちだけでなく、海外で技術の実証実験や事業化を行うための体制・しくみづくりを進める。九州工業大学のマレーシアにおける活動拠点での活動実績をに、マレーシアから世界に活動の場を広げていく。	—	—
w32	生体機能・脳情報分野の研究・技術開発と学研都市やまちでの実証実験～自動車、ロボット、医工・歯工連携等	生体機能・脳情報分野の研究・技術開発を進めるとともに、キャンパスや北九州学術研究都市、周辺のまちの中で技術・製品の実証実験の取組みを進める。自動車、ロボット、医工学・歯工学連携等の分野での研究・技術開発と実証を目指す。	北九州学術研究都市スペース 周辺地域	213
w33	生体機能・脳情報分野の技術・製品実用化と海外への展開～自動車、ロボット、医工・歯工連携等	自動車やロボット分野の技術・製品開発の成果の実用化や、海外での実証実験・事業化に向けた取組みを進める。	海外	—
w34	クリーンエネルギーやエコフィッティング分野の技術・製品開発と学研都市・まちでの実証実験	クリーンエネルギーやエコフィッティング分野の技術・製品開発を進めるとともに、キャンパスや学研都市、周辺のまちの中で技術・製品の実証実験の取組みを進める。	北九州学術研究都市スペース 周辺地域	214, 215, 216
w35	クリーンエネルギーやエコフィッティング分野の技術の実用化と海外への展開	クリーンエネルギーやエコフィッティング分野の技術・製品開発の成果の実用化や、海外での実証実験・事業化に向けた取組みを進める。	海外	—
w36	多国籍「起」業実行委員会 ～留学生の出身国で技術を活かしたビジネスを	留学生が学んだ技術を出身国で起業し、九工大が持つコネクション・ノウハウを活かしながら、現地のマーケットを開拓する支援を行う。	地域各所	233

STORY W5 キャンパスづくりの課題を拾い上げ、解決に向けて取り組むためのしくみを確立する

背景 キャンパスのあるべき姿の実現に向けては、ここまでのストーリーを推進するとともに、キャンパスづくりに対するステークホルダーの意見やニーズを捉え、具体的課題に着実に対応し、安全・快適な教育研究環境を実現することも必要です。

あらすじ そのために、従来から実施している施設整備に係るアンケートや巡回調査からだけでは見えにくい、キャンパスのあるべき姿についてのユーザーの考えを共有し、その実現に向けて取り組むしくみづくりを行います(W5-A)。また、既に明らかになっている具体的な課題(福利施設の充実、交通アクセスのさらなる改善等)への対応も進めます(W5-B)。以上を通じて、「未来の技術に出会うキャンパス」の基礎を支える、安全・快適な教育研究環境の整備を推進します。



■Software 詳細

No.	Software Title	Software 概要	Place (案)	元 Idea No.
w37	あるべきキャンパス構想 ワークショップ	施設整備に係るアンケートや巡回調査から見えるキャンパスの問題点に加え、ユーザーが望むキャンパスのあり方を拾い上げて、キャンパスづくりに活かすため、キャンパスのあるべき姿を学生・教職員、さらには地域住民も集うワークショップを開催。	—	141
w38	キャンパスづくりにおける 学生との協力体制の構築	あるべき姿に近づくためのキャンパスづくりには、施設系職員の力だけでは十分でない。学生の力をキャンパスづくりに活かすため、「学生キャンパス委員会(仮称)」を設置して、ソフト・ハード両面からのキャンパスづくりで協力する。	—	—
w39	キャンパスづくりにおける 地域との協力体制の構築	キャンパスエッジの整備や、騒音・照明のコントロール、防災・防犯の強化等、キャンパスづくりにおいては、地域と協議して進めるべきことが多い。北九州学術研究都市のキャンパス運営委員会を通じて周辺住民と定期的に協議する場を設け、多様な観点からキャンパスづくりについて協力する。	—	—
w40	福利施設充実 WG による検討	学生等から要望の多い、福利施設を充実させるためのWGを設置し、対策を検討する。 ただし、福利施設は北九州学術研究都市内で共有されているため、北九州学術研究都市のキャンパス運営委員会と密に連携をとって対策を進める。	—	—
w41	交通アクセス改善WGによる検討	交通アクセスのさらなる改善に向けて WG を設置し、対策を検討する。 北九州学術研究都市のキャンパス運営委員会と密に連携をとって対策を進める。	—	—
w42	安全に利用できるキャンパス づくりのための継続的整備	キャンパスで、活動する上で危険を伴うような箇所や、優先的に修繕すべき設備・施設を定期的な点検やユーザーからの声をに把握し、継続的に対処していく。	—	—

CHAPTER

04

The Campus Master Plan
for Kyushu Institute
of Technology

九工大の未来を創る整備計画



CHAPTER 04 九工大の未来を創る整備計画

04

4 章では、長期ビジョン、3 章に示した九工大の未来を創るストーリーを踏まえて、キャンパスの整備計画について検討します。まず、4.1 では、整備計画の検討において考慮すべき条件と、整備計画に対する優先順位付けの考え方について示します。続く 4.2 では、整備計画を検討する際のプロセスを示します。さらに、4.3～4.5 では、戸畑・飯塚・若松キャンパスにおいて平成 24 年度時点で計画されている整備事項を、4.1 に示す考え方に基づき優先度評価した結果を示します。

4.1 整備計画検討の観点

キャンパス整備計画の検討においては、まず各部局が施設整備に係る要求事項を提示します。それらの要求事項を精査・優先度評価し、最終的には施設委員会や役員会等の審議を経て予算化する計画を決定します。(詳細なプロセスについては、4.2 を参照)

本節では、各部局が施設整備に係る要求事項を検討する際に考慮すべき条件と、要求事項に対する優先度評価の考え方を示します。

4.1.1 整備計画検討における条件

施設整備に係る部局要求事項を検討する際には、キャンパスマスタープランとの整合性、整備の代替性、財源の妥当性という条件を考慮します。それぞれの条件の詳細を以下に示します。

要求事項の検討において考慮すべき条件	キャンパスマスタープランとの整合性	
	1) 長期ビジョン・中期プランを踏まえた整備の方向性に合致すること	
	2) 関連するストーリー・取組み (Software) 例を明示すること	
	3) 長期ビジョンの示す動線・ゾーニング等の計画に合致すること	
	整備の代替性	
	財源の妥当性	

■ キャンパスマスタープランとの整合性

キャンパスを「未来の技術に会うキャンパス」に近づけていくため、各部局の施設整備に係る要求事項は、キャンパスマスタープランの内容と整合した内容とすることが求められます。そのために、各部局は、下記の3点を考慮して要求事項を検討します。

第一に、長期ビジョンで示した各キャンパスの整備において重視すべき事項や、各キャンパスにおけるストーリーを踏まえた整備の方向性に合致する要求事項を検討します。戸畑・飯塚・若松における具体的な整備の方向性は、4.3～4.5においてそれぞれ示します。

第二に、整備要求においては、整備に関連するストーリーや取組み(Software)の例を明示します。必要に応じて、3章に示したストーリーの追加・修正も行います。これにより、各部局の要求段階から、単なるハードの整備ではなく、ソフト面の取組みを支える整備のあり方を検討していきます。

第三に、長期ビジョンのフレームワークプランにおいて示している、キャンパスの動線・ゾーニング、パブリックスペース、環境・建築、インフラ等に関する項目に合致した整備要求を検討します。これにより、目指すキャンパス像の実現に向けた、長期的に一貫した整備を図ります。なお、動線・ゾーニング等の項目と合致しないものの、優先度が高いと認められる整備要求については、個別に要求の妥当性を判断します。

■ 整備の代替性

今後、国の厳しい財政状況を鑑みると、国立大学法人の施設整備に係る予算は縮小していく可能性が高いと考えられます。また、少子化に伴う今後の18歳人口の減少により、新規の施設整備を続けると、ストックが過剰になり、維持管理に係る費用が必要以上に膨らんでしまうことが想定されます。

以上を踏まえ、今後の施設整備に係る要求事項の策定においては、新たな整備を行わず、既存の施設や外部施設の利活用により求める機能を代替できないか検討します。これにより、新規の施設投資をできる限り抑え、ストック規模を適正化することを目指します。

■ 財源の妥当性

施設整備を実施していくためには、事業規模に応じて、多様な財源を確保する必要があります。九州工業大学では、右のように事業の規模を区分し、それぞれの規模に応じた、国・民間・学内の多様な財源の確保を図ります。

■ 大規模事業 (5000万円以上) ■ 中規模事業 (1000万円以上 5000万円未満) ■ 小規模事業 (1000万円未満)		・施設整備補助金（概算要求＝文教施設整備事業）	国等
		・施設費交付金（文教営繕事業）	
		・上記以外の資金：他省庁予算／科研費／自治体連携等	
		・寄付金	民間
		・民間資金：PFI／長期借入等	
		・学内予備費：業務達成基準／目的積立金等	学内
		・学内施設課配分予算：計画保全（スペースチャージ充当）	
		・学内施設課配分予算：予防保全／事後保全／保守費	
		・学内部局委任予算：修繕／保守費	

ただし、国の厳しい財政状況を踏まえると、従来大きく依存してきた施設整備費補助金や、施設費交付金といった国の予算は、今後縮小していくことが想定されます。

このため、部局要求の整理にあたっては、各部局と施設課の連携の下、可能な限り予算規模を抑え、民間資金や学内予算を活用した中・小規模の整備のあり方を検討します。

また、学内外の予算による整備を進めるだけでなく、施設の利活用を通じて、利用料・賃料収入等を確保し、自ら施設整備や維持管理の財源を獲得する方策についても、あわせて検討します。

4.1.2 整備計画の優先度検討の観点

上記のような条件を踏まえて検討された各部局の施設整備に係る要求事項を、どのような観点・基準により優先順位づけしていくかについて、以下に示します。

■ 整備計画の優先度検討において考慮する観点

整備計画の優先度の検討にあたっては、多様な観点からの評価が必要となります。これまでは施設課や施設委員会、役員会等が、関連する様々な要因を考慮して優先度評価や予算化の判断を行ってきましたが、関係者からは判断の基となる観点が見えにくいという問題がありました。今後は、以下に示すような観点を考慮しつつ、関係者にとって分かりやすい形で優先度評価を行います。

優先度評価の参考とすべき観点	1. キャンパスマスタープランの推進に対する貢献	ストーリーの実現に向けた整備計画の貢献を評価
	2. 安全性	老朽性・耐震性・危険性の改善、防災・減災に係る整備を評価
	3. 戦略性	内外の環境に応じた大学戦略の推進に係る整備を評価
	4. 機能性	狭隘性の解消、快適性の向上等に係る整備を評価
	5. 制度対応	法制度上必須の整備を優先事項として評価

考慮すべき第一の観点として、キャンパスマスタープランの推進に対する貢献の評価が挙げられます。特に、各キャンパスで推進するストーリーの実現に向けて、整備計画がどのように貢献するかを評価します。

第二の観点として、安全性が挙げられます。キャンパスを利用する学内外のステークホルダーの生命・健康を守るため、老朽化への対応・耐震性を高める改修・危険箇所の補修、防災・減災に係る整備に対しては高い評価を与えます。

第三の観点として、戦略性が挙げられます。大学においては、長期的な教育研究・社会貢献活動の振興とともに、学内外の環境の変化に対応して、時宜にかなった戦略を打ち出し、推進していくことも求められます。こうした戦略に対応した整備計画についても、一定の評価を与えます。

第四の観点として、機能性が挙げられます。教育研究活動や社会貢献活動を展開していくうえで支障となる狭隘性の解消や、より快適な環境を築くためのアメニティ整備等に対して、適切な評価を与えます。

第五の観点として、制度対応が挙げられます。建築基準の変更への対応、化学物質管理・実験排水管理等において法制度上求められる事項への対応等については、国立大学法人としての社会的責務を果たすため、優先的に取組む必要があります。

以上、5つの観点は、整備計画の優先度の検討において参考となる評価を導き、関係者と共有するために有効と考えられます。しかし、これら5つの観点で、考慮すべき全ての観点を網羅しているわけではありません。そのため、上記の観点からの評価を参考としつつも、最終的には、個々のキャンパス・施設の状況、具体的な施設整備や利活用のあり方を勘案して、施設委員会および役員会等の責任で優先的整備項目を決定します。また、より適切な観点の設定に向けて、継続的に検討します。

■ 整備計画の優先度検討において参考とする評価基準の設定例

上記のような観点から整備計画を評価し、優先順位付けするためには、統一的な評価基準を設定し、公平性を担保して検討を行うことが有益と考えられます。5つの評価の観点に対応した評価基準の例として、以下のようなものが考えられます。

整備計画の優先度評価基準 <設定例>				
評価の観点	評価	評点	評価基準	評価方法
1. CMPへの貢献度	◎	5×N	ストーリーに沿った取組みの推進に直接的に貢献する (施設等の中心的な用途により取組みの推進に貢献する)	合計評点 により評価
	○	2×N	ストーリーに沿った取組みの推進に間接的に貢献する (施設等を付随的な用途に活用することで取組みの推進に貢献する)	
	—	—	ストーリーに沿った取組みの推進に関連しない	
2. 安全性	◎	10	安全な教育研究活動の遂行上、早急に整備する必要がある	
	○	3	安全な教育研究活動の遂行上、将来的に整備する必要がある	
	—	—	安全な教育研究活動の遂行上、特に問題を来していない	
3. 戦略性	◎	5	大学が戦略的に推進する取組みの推進に大きく貢献する	
	○	2	大学が戦略的に推進する取組みの推進に関連する	
	—	—	大学が戦略的に推進する取組みの推進に関連しない	
4. 機能性	◎	5	狭隘・快適性の不足等により施設等の円滑な利用が困難な状況にあり、早急に整備する必要がある	
	○	2	狭隘・快適性の不足等により円滑な利用が困難な場合があり、将来的に整備する必要がある	
	—	—	ユーザーによる円滑な利用に特に困難を来していない	
5. 制度対応	◎	(必須対応)	法制度改正、国の施策等への対応のために必須の整備である	◎の場合、 必須項目と評価
	—	—	法制度改正、国の施策等への対応に関連しない	

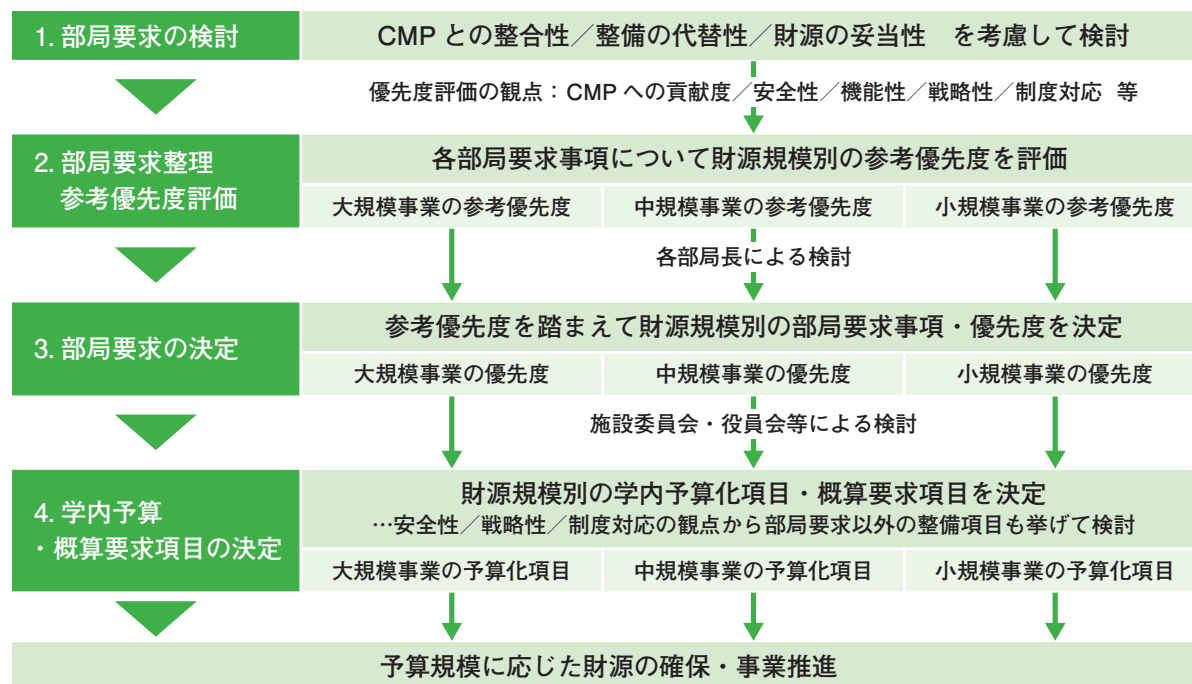
※ CMPへの貢献度については、関連するストーリー数(N)により評点を乗じる。

従来の整備計画検討プロセスには、部局要求事項がどのような観点・基準に沿って評価され、予算化項目が決定されているか、関係者から見えにくいという問題がありました。このような評価基準を設定することで、今後は、各整備計画の優先度を数値化して公平に評価し、関係者にとってわかりやすい形で共有していきます。また、各整備計画がどのような観点から重要であるかも明確化し、関係者にとって納得性の高い形で優先度評価することを目指します。

今後は、上記の例のような評価基準に基づき、まず各部局が要求事項の優先度について自己評価を行います。自己評価結果を整理した上で、最終的な優先度評価・予算化項目は、個々のキャンパス・施設の状況、具体的な施設整備や利活用のあり方等も考慮して、施設委員会・役員会等が決定します。

4.2 整備計画検討のプロセス

4.1 で整理した考え方に基づいて、整備計画の検討、優先度評価を行うためのプロセスを整理すると、次のとおりとなります。



まず、「1. 部局要求の検討」では、キャンパスマスタープランとの整合性、整備の代替性、財源の妥当性の観点を考慮しつつ、各部局で、施設整備に係る要求事項を検討します。

「2. 部局要求整理・参考優先度評価」では、それらの要求事項を、キャンパスマスタープランへの貢献度、安全性、機能性、戦略性、制度対応といった観点から評価し、最終的な判断の材料となる、参考優先度を検討します。なお、財源規模により獲得する予算枠が異なることから、財源規模別に参考優先度を検討します。

「3. 部局要求の決定」では、参考優先度を参照しつつ、各部局長が財源規模別に部局要求事項・優先度を決定します。

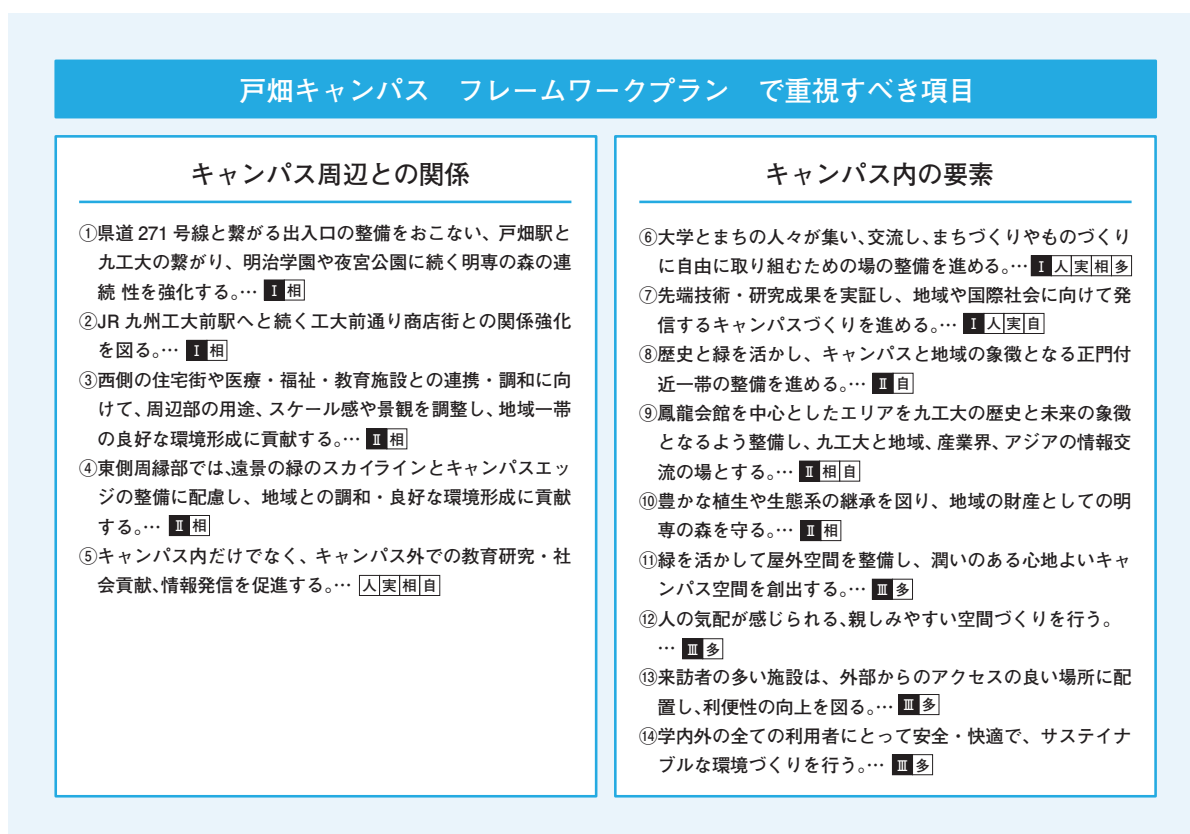
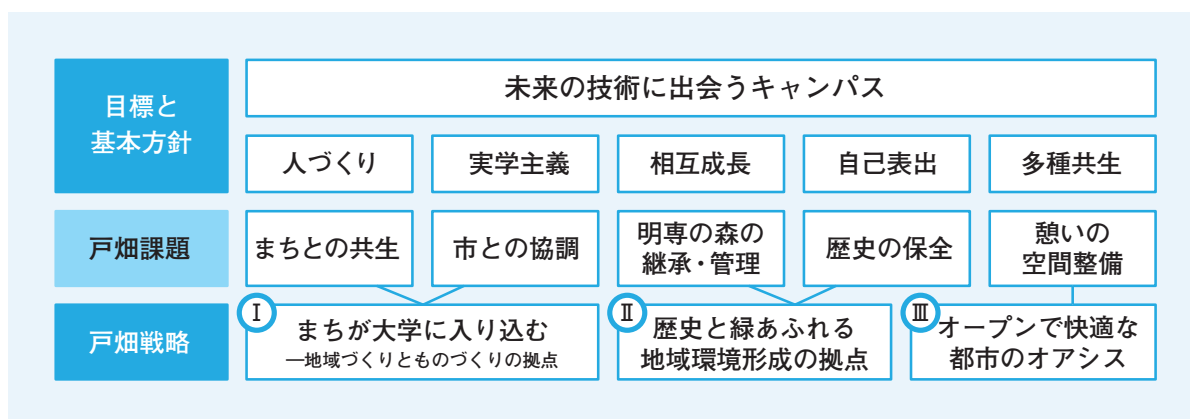
「4. 学内予算・概算要求項目の決定」では、施設委員会・役員会等が、財源規模別の学内予算化項目・概算要求項目を最終的に決定します。この際、部局要求事項に加え、要求には挙がりにくい、安全性、戦略性、制度対応の観点から求められる事項も追加的に検討した上で、予算化の判断を行います。学内予算化項目・概算要求項目の決定後は、順次、財源確保・事業推進に移ります。

以下、4.3～4.5では、戸畑・飯塚・若松の各キャンパスについて、部局要求の検討においてキャンパスマスタープランとの整合性を確認するための材料となる、長期ビジョン・中期プランを踏まえた整備の方向性を示します。また、平成24年度時点で、各部局からの要求事項を基に検討されている整備項目について、4.1で示した優先度評価の観点・評価基準に基づき参考優先度評価を行った結果を示します。この結果は平成24年度時点での暫定的なものであり、今後4.2に示した「1. 部局要求の検討」「2. 部局要求整理・参考優先度評価」「3. 部局要求の決定」「4. 学内予算・概算要求項目の決定」のプロセスを継続的に展開することを通じて、「未来の技術に出会うキャンパス」を創る整備計画へと磨き上げていきます。

4.3 戸畑キャンパスにおける整備の方向性と計画

4.3.1 長期ビジョン・中期プランを踏まえた整備の方向性

戸畑キャンパスの長期ビジョン（フレームワークプラン）では、下記のように、キャンパスづくりにおいて重視すべき項目（1～14）を挙げています。



以下に、これらの重視すべき事項と、3章に示した戸畑キャンパスにおけるストーリーを基にした、整備の方向性(No.1～10)を示します。戸畑キャンパスにおける部局要求の策定においては、以下の整備の方向性を踏まえて検討を行うものとしします。

■戸畑キャンパス整備の方向性（No.1～10）

No.	整備の方向性	関連項目			整備の方向性 概要	想定される整備の例 ※末尾は関連する Software No.
		基本方針	フレームワーク プランで重視 すべき項目	ストーリー		
1	先進的で実践的な 教育研究環境の整備	人 実 相	2 6	T2-A T2-C	基礎からの着実な学びに加え、主体的 でインタラクティブな学びを推進し、 学科間、キャンパス間、地域や企業と 連携しながら実践的教育研究を行う ための整備を進める。	■PBL・TBL や自学等の環境となるインタラ クティブ学習スペース整備:t22 ■商店街空き店舗でのゼミ・サークル活動や 地域の場でのものづくりを可能とする場や 仕組みの整備:t25・t26・t27
2	多様な工学技術・ 研究成果の 実証環境整備	人 実 自	2	T3-A T3-B	小倉都心にも近い戸畑キャンパスの 場や隣接地域の場を活かし、他大学、 行政、企業などと連携しながら、多様 な工学技術を実証するための環境整 備を進める。	■キャンパスの実証実験フィールド化に向 けた場や仕組みの整備:t31 ■地域や世界の場を実証実験の場とするた めのしくみ整備:t32・t33 ■医療・介護施設との連携による技術開発やエ コ技術の実証環境整備:t37・t38・t39・t40
3	学内の多様な つながりを 育む場の整備	相 多	12	T1-A	専門やキャンパスを超えて、学生・教 職員・卒業生などが交流し合うオー プンな場や仕掛けを整備する。	■共同研究・学内連携を促進する開放的研 究室空間の整備:t02 ■ICT 等を活用して学内・キャンパス間をつ なぐ仕組みの整備:t05・t06 ■学びや憩いで人々の集う「社交場」整備:t03
4	アジア・世界と 密接につながり 学びあう場の整備	人 実 相	4	T1-C T2-B	留学生との交流や、アジアや世界とつ ながりを密にし、対等に学び合いなが ら成長する場と仕組みを整備する。	■留学生や英語ネイティブスピーカーと学習・ 交流するスペース整備:t07 ■国際学会・セミナー開催を推進する場・し くみ整備:t08 ■ICT 等を活用したマレーシア・スーパー・サ テライト・キャンパスとの連携強化:t09
5	学内外の人が 自由に活動できる 環境の整備	人 実 相 多	6 13	T1-D T1-E	都市型キャンパスの立地を活かし、学 内外の多様な人々が集う場づくりを 図る。そのために、学びやものづくり・ まちづくり・スポーツ・防災など、多 様な目的で人々が自由に挑戦・協働 するスペース・施設整備を進める。	■地域の人も集う食堂・カフェスペースの整 備:t10・t11 ■地域防災拠点としての場の整備:t12 ■スポーツで人々が集う場の整備:t13 ■空間利用ルールの見直し～自由なキャンパ ス利用:t17
6	環境未来都市・ エコキャンパスづくり の実践環境整備	人 実 相 多	10 11	T3-C T4-A	豊かな植生や生態系の継承を図り、地 域の財産としての明専の森を守り育む とともに、北九州市の掲げる環境未来 都市の実現に向けた取り組みを行う。	■エネルギー自給に向けた技術開発とキャン パス内実証実験:t39 ■緑地の現状把握(植生と生物多様性の評価)を 行い、緑の保全ポリシーをつくる:t43・t44
7	学内外への 情報発信環境整備	自	7	T2-D T3-D	学内外に向けて、九工大の教育研究や 社会貢献などの活動成果を発信して いくための環境整備を進める。	■未来を創る技術を発表するための場の整備:t29 ■九工大や北九州の工学技術の過去・現在・未 来に触れ、楽しむことのできる場の整備:t30
8	百年の歴史と 緑豊かな「明専の森」 を守り、伝え、 楽しむ場の整備	実 相 多	8 9	T4-A T4-B	豊かな歴史と自然を持つ「明専の森」 継承し、地域に愛されシンボルであり 続けるための整備を行う。	■歴史保全ポリシーの検討:t42 ■緑地の実態把握と保全・活用に向けた環境 整備:t43・t44・t45・t46・t47 ■明専の森ウォーキングツアー:t49
9	学内外の全ての 利用者にとって 安全・快適な環境整備	多	7	T5-A T5-B	学内外の全ての利用者にとって安全・ 快適な環境づくりを行う。特に、防犯・ 防災や、教育研究を円滑に遂行するた めの環境改善等に取組む。	■老朽・危険箇所の早期改修、インフラ・設備 の保全・改修:t55 ■学生生活・教育研究活動上不足する施設の 増設
10	地域と共生する キャンパス整備	相 多	1 2 3 4 5	T4-B	周辺地域とのつながりを考慮し、地域 と共生するキャンパスを整備する。	■JR 駅から商店街を経て正門へ繋がる関係性 強化 ■県道271号との関係性強化 ■キャンパス西側・東側のエッジの整備

※ 基本方針の記述は、「人」＝「人づくり」、「実」＝「実学主義」、「相」＝「相互成長」、「自」＝「自己表出」、「多」＝「多種共生」を表す。

※ フレームワークプランで重視すべき項目の番号は、前頁で示した1～14までの戸畑キャンパスで重視すべき項目に対応する。

4.3.2 平成 24 年度時点で計画されている整備項目・優先度とその位置付け

平成 24 年度時点で、戸畑キャンパスでは、各部局の要求事項を基に 22 の整備項目を計画していました。以下の表に、22 の項目を、4.1 で示した観点・基準に基づき財源規模別に参考優先度評価した結果を示します。こうした参考優先度評価を踏まえて、最終的には施設委員会・役員会等が予算化する項目を決定します。なお、下記の表は、現時点での計画項目を前提とした暫定的なものであるため、今後、4.2 に示したプロセスを継続的に展開する中で、項目・評価を修正し、磨き上げていきます。

■平成 24 年度時点の戸畑キャンパス整備項目案・参考優先度 (No.1 ～ 22)

No.	整備対象 エリア・施設等	関連する 整備の方向性	関連する ストーリー	事業 区分	予算 規模	〈参考〉 優先順位 ※同一予算 規模で比較	〈参考〉優先度評価					合計
							1.CMPへ の貢献度	2. 安全性	3. 戦略性	4. 機能性	5. 制度対応	
							※上段＝評価 下段＝評点					
1	大学会館 (改修)	3 4 5 9	T1-A T1-C T2-A	整備 事業	大	大 01	◎ 15 (5*3)	◎ 10	－ －	○ 2	－ －	27
	整備・改修 内容と効果	耐震および老朽化部分の改修を行い、安全性と快適性の向上を図る。また、CMP のゾーニングに則り、社会との共生を 景観・環境に配慮した整備を行う。改修にあわせて、学生活動や学内交流を支える大学会館の機能を向上させ、学びや 憩いで人々が集う空間として活用できるよう整備を進める。…関連 Software：t03・t07・t21・t55										
2	教育研究4号棟 (改修)	1 5	T1-A T1-E T2-A	整備 事業	大	大 02	◎ 15 (5*3)	◎ 10	－ －	－ －	－ －	25
	整備・改修 内容と効果	耐震および老朽化部分の改修により、安全性と快適性の向上とともに、景観や環境に配慮した整備を行う。また、CMP のゾーニングにおける教育研究エリアとして、高度・先端教育を支える施設整備を行うとともに、学内外との自由な教 育研究上の連携を促す空間づくりを図る。…関連 Software：t02・t18・t21・t22・t55										
3	未来型講義棟 (増設)	1 2 3 4 7	T1-D T2-A	整備 事業	大	大 03	◎ 10 (5*2)	－ －	◎ 5	○ 2	－ －	17
	整備・改修 内容と効果	プロジェクトラボラトリのようなインタラクティブな講義・活動スペースを増床、チーム学習を行える環境を整備し、 主体的に考え・行動し、グローバルに活躍できる人材の育成を図る。また、地域との情報交換や連携を促進する場とし ての整備も目指す。…関連 Software：t16・t22										
4	共用棟1,2号棟 (解体・整備)	9	T1-E	整備 事業	大	大 03	◎ 5 (5*1)	◎ 10	－ －	○ 2	－ －	17
	整備・改修 内容と効果	老朽化の著しい共用1、2号棟を解体撤去する。撤去後のスペースについては、学内外の人々の交流や自由な活動の場 となるパブリックスペースや、オープンスペースとして有効活用を図る。…関連 Software：t20・t55										
5	体育館 (改築)	5 6 9	T1-D	整備 事業	大	大 03	◎ 5 (5*1)	◎ 10	－ －	○ 2	－ －	17
	整備・改修 内容と効果	老朽化し、災害対応できない体育館を改築する。現状の機能を踏襲しつつ、地域防災にも対応できる整備を行う。また、 景観や環境にも配慮して整備を行う。さらに、CMP のゾーニングにおける運動施設ゾーンとしての機能の充足に向け て、地域への開放や共同運営を視野に入れた整備を行う。…関連 Software：t12・t13・t55										

No.	整備対象 エリア・施設等	関連する 整備の方向性	関連する ストーリー	事業 区分	予算 規模	〈参考〉 優先順位	〈参考〉優先度評価					合計
							1.CMPへ の貢献度	2. 安全性	3. 戦略性	4. 機能性	5. 制度対応	
							※上段＝評価 下段＝評点					
6	記念講堂 (改修)	4 9	T1-C T4-A	整備 事業	大	大03	◎ 10 (5*2)	○ 3	－ －	○ 2	－ －	15
	整備・改修 内容と効果	耐震および老朽化部分の改修を行い、安全性と快適性の向上とともに、景観や環境に配慮した整備を行う。また、CMPのゾーニングにおける九工大のシンボルエリアであることから、歴史的建築を保全するとともに、学内外の交流や情報発信の拠点としての機能を果たす整備を目指す。…関連 Software：t08・t42・t55										
7	女子学生宿舎 (新設)	3 4	T2-A	整備 事業	大	大07	◎ 5 (5*1)	－ －	◎ 5	○ 2	－ －	12
	整備・改修 内容と効果	大学としての戦略的な学生確保に向けて、女子学生宿舎を整備し、留学生を含め、女子学生が入学しやすい環境を整備する。学生同士や学生・教員間の交流・学びあいから人材を育てる、グローバル人材育成の場としての機能も意識して整備を進める。…関連 Software：t21										
8	総合研究1号棟 (空調改修)	9	－	整備 事業	大	大08	－ －	◎ 10	－ －	－ －	－ －	10
	整備・改修 内容と効果	老朽化に伴うEHP空調設備の改修を行う。改修にあたっては省エネ等を考慮する。…関連 Software：t55										
9	総合研究2号棟 (改修)	1 2 3 4 7	T2-B T3-A	整備 事業	大	大08	◎ 10 (5*1)	－ －	－ －	－ －	－ －	10
	整備・改修 内容と効果	総合研究2号棟で展開されている超小型衛星試験センター事業の充実を図るため、増築(実験室、貨物用EV)や改修(排気ダクト、クリーンルーム)を行う。CMPのゾーニングにおける教育研究エリアとして、競争的資金獲得や、共同研究、人材育成等を推進し、地域や産業振興への貢献を進めるための整備を進める。…関連 Software：t23・t31										
10	職員宿舎 (改修)	9	T3-B	計画 事業	大	大08	◎ 5 (5*1)	○ 3	－ －	○ 2	－ －	10
	整備・改修 内容と効果	老朽化に伴う改修を行い、快適性の向上とともに、景観や環境に配慮した整備を行う。さらに、CMPのゾーニングにおける社会共生ゾーンとして、地域住民との共生も視野に入れた施設を目指す。…関連 Software：t36・t55										
11	実習工場 (改修)	9	T2-A	計画 事業	大	大11	◎ 5 (5*1)	○ 3	－ －	－ －	－ －	8
	整備・改修 内容と効果	老朽化に伴う改修を行い、快適性の向上、景観や環境に配慮した整備を行う。また、CMPのゾーニング(教育・研究ゾーン)を踏まえ、実習による学びを継続的に行うための設備の維持・改善も図る。…関連 Software：t14・t55										
12	省資源開発実験室 (改修)	1 2 3 9	T3-C	計画 事業	大	大11	◎ 5 (5*1)	○ 3	－ －	－ －	－ －	8
	整備・改修 内容と効果	老朽化に伴う改修を行い、快適性の向上を図るとともに、CMPにおけるゾーニング(社会共生ゾーン)を踏まえ、周辺との景観の調和に配慮した整備を行う。また、省資源に関する実証実験のさらなる進展に向けた整備を行う。…関連 Software：t39・t55										
13	インフラ共同溝 (新規整備)	9	T3-C	計画 事業	大	大11	◎ 5 (5*1)	○ 3	－ －	－ －	－ －	8
	整備・改修 内容と効果	ライフラインを集約した循環型共同溝を整備し、各エリアへのエネルギーの循環受供給システムを確立する。エコ・キャンパスの確立と、効率的で低コストなインフラ構築の基礎とする。…関連 Software：t39・t55										

No.	整備対象 エリア・施設等	関連する 整備の方向性	関連する ストーリー	事業 区分	予算 規模	〈参考〉 優先順位	〈参考〉優先度評価					合計
							1.CMPへの 貢献度	2. 安全性	3. 戦略性	4. 機能性	5. 制度対応	
							※上段＝評価 下段＝評点					
14	産学連携 推進センター (改修)	9	T3-D	整備 事業	中	中 01	◎ 5 (5*1)	－ －	－ －	◎ 5	－ －	10
	整備・改修 内容と効果	平成 24 年度事業のコラボ教育支援棟(旧情報科学センター)改修整備に伴い、産学連携推進センター内に情報科学センターを移転することとなった。これに対応して、産学連携推進センターの改修を行う。機能性や快適性の向上を目指すとともに、CMP のゾーニング(社会共生ゾーン)を踏まえ、地域との調和や交流を促す整備を行う。…関連 Software：t28・t41・t55										
15	講堂東側 周辺施設 (移転)	7 8	T2-A T5-B	整備 事業	中	中 01	◎ 10 (5*2)	－ －	－ －	－ －	－ －	10
	整備・改修 内容と効果	老朽化した流体実験室2および、風洞実験室の機能を移転整備し、学外来訪者の多いコラボ教育支援棟へのアプローチや、未来型講義棟の整備予定スペースの確保をする。将来のゾーニングを見据え、景観や環境に配慮した整備を行う。…関連 Software：t22・t54・t55										
16	課外活動施設 (改修)	3 9	T1-A	整備 事業	中	中 01	◎ 5 (5*1)	○ 3	－ －	○ 2	－ －	10
	整備・改修 内容と効果	老朽化に伴う改修を行い、快適性の向上とともに、景観や環境に配慮した整備を行う。また、学生生活を支援し、交流の場の充実を図る。…関連 Software：t03・t55										
17	保健センター (改修)	5 9	T1-C	整備 事業	中	中 04	◎ 5 (5*1)	○ 3	－ －	－ －	－ －	8
	整備・改修 内容と効果	老朽化に伴う改修を行い、安全性・快適性の向上を図るとともに、CMP のゾーニング(社会共生ゾーン)を意識した整備を行う。また、大規模災害時には地域支援の機能を担えるよう整備を行う。…関連 Software：t12・t55										
18	大学生協 (便所改修)	5 9	－	整備 事業	中	中 05	－ －	○ 3	－ －	○ 2	－ －	5
	整備・改修 内容と効果	老朽化に伴う便所改修を行い、清潔感、快適性の向上により、学内外の利用者へのイメージアップを図る。また、節水、省エネタイプの選定により環境への負荷を軽減する。…関連 Software：t55										
19	定期点検 (定常業務)	9	－	整備 事業	中／小	小 01 : 年次計画	－ －	○ 3	－ －	○ 2	－ －	5
	整備・改修 内容と効果	消防用設備(法定)、電気工作物、エレベーター、給排水設備を定期的に点検し改善を行う。定期点検による計画的な改善を行うことで、安全性の確保と耐久性や効率性の維持・向上を図る。…関連 Software：t55										
20	建物保全 (定常業務)	9	－	整備 事業	中／小	小 01 : 年次計画	－ －	○ 3	－ －	○ 2	－ －	5
	整備・改修 内容と効果	施設の防水や外壁等の保全改修を年次計画を立てて進める。また、保全計画にあわせて、景観や環境に配慮した整備を行う。…関連 Software：t55										
21	設備保全 (定常業務)	9	－	整備 事業	中／小	小 01 : 年次計画	－ －	○ 3	－ －	○ 2	－ －	5
	整備・改修 内容と効果	給排水・空調・エレベーター等の更新を年次計画を立てて進める。また、保全計画にあわせて環境に配慮した整備を行う。…関連 Software：t55										
22	アメニティ改善 (定常業務)	9	－	整備 事業	中／小	小 01 : 年次計画	－ －	○ 3	－ －	○ 2	－ －	5
	整備・改修 内容と効果	劣化の状況に応じて年次計画を立て行う。改修による清潔感、快適性等のアメニティ向上により、学内外の利用者へのイメージアップを図る。また、節水、省エネタイプの選定により環境への負荷を軽減する。…関連 Software：t55										

■整備計画プロット図

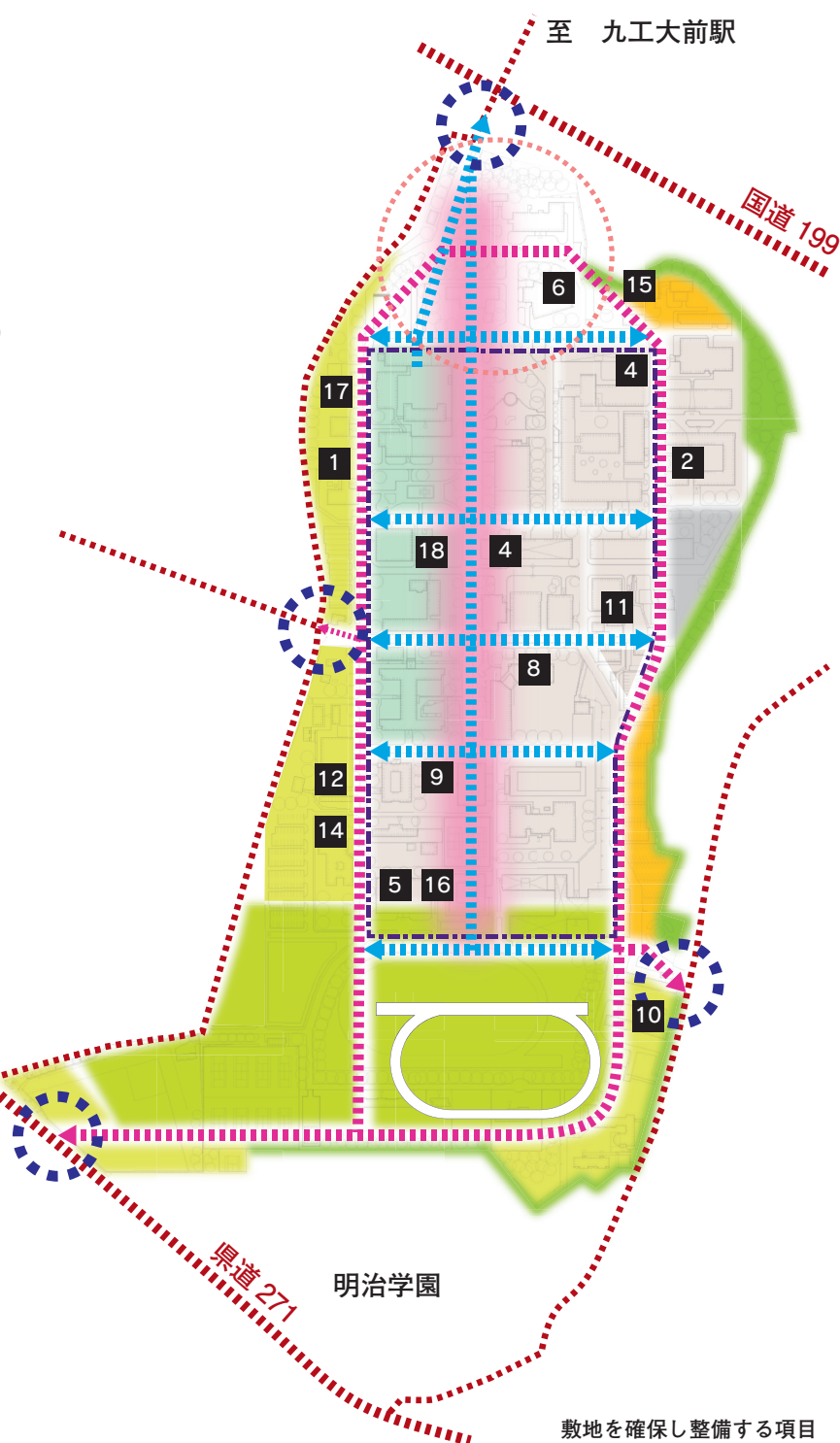
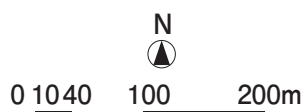
整備項目案

- 1 大学会館（改修）
- 2 教育研究4号棟（改修）
- 3 未来型講義棟（増設）
- 4 共用棟1,2号棟（解体・整備）
- 5 体育館（改築）
- 6 記念講堂（改修）
- 7 女子学生宿舎（新設）
- 8 総合研究1号棟（空調改修）
- 9 総合研究2号棟（改修）
- 10 職員宿舎（改修）
- 11 実習工場（改修）
- 12 省資源開発実験室（改修）
- 13 インフラ共同溝（新規整備）
- 14 産学連携推進センター（改修）
- 15 講堂東側周辺施設（移転）
- 16 課外活動施設（改修）
- 17 保健センター（改修）
- 18 大学生協（便所改修）
- 19 定期点検（定常業務）
- 20 建物保全（定常業務）
- 21 設備保全（定常業務）
- 22 アメニティー改善（定常業務）

- A: 人と技術が出会う交流の中心
- B: 教育・研究ゾーン
- C: 共通・管理・厚生ゾーン
- D: 社会共生ゾーン
- E: 運動施設ゾーン
- F: 周辺ゾーン（エネルギーコア）
- F: 周辺ゾーン（駐車場）
- F: 周辺ゾーン（緑地帯）

- a. 歩行者優先ストリート
- b. 歩車共存ストリート
- c. 学内インフラ（モビリティ・エネルギー）

- 九工大のシンボル
- エントランス



敷地を確保し整備する項目

3 7 13

定常業務として整備する項目

19 20 21 22

4.4 飯塚キャンパスにおける整備の方向性と計画

4.4.1 長期ビジョン・中期プランを踏まえた整備の方向性

飯塚キャンパスの長期ビジョン（フレームワークプラン）では、下記のようなキャンパスづくりにおいて重視すべき項目（1～9）を挙げています。



以下に、これらの重視すべき事項と、3章に示した飯塚キャンパスにおけるストーリーを基にした、整備の方向性(No.1～10)を示します。飯塚キャンパスにおける部局要求の策定においては、以下の整備の方向性を踏まえて検討を行うものとしします。

■飯塚キャンパス整備の方向性（No.1～10）

No.	整備の方向性	関連項目			整備の方向性 概要	想定される整備の例 ※末尾は関連する Software No.
		基本方針	フレームワーク プランで重視 すべき項目	ストーリー		
1	先進的で実践的な 教育研究環境の整備	人 実 相	1	I2-A I2-D	MIRAiS 等で展開されてきた主体的で インタラクティブな学びを加速させ、 飯塚市・筑豊エリアの大学・機関、地 域組織等と連携しながら実践的教育 研究を行うための整備を進める。	■PBL・TBL や自学等の環境となるインタラ クティブ学習スペース整備：i24 ■地域での活動や交流の拠点となるまちなか サテライトの整備：i28
2	情報工学の技術・ 研究成果の 実証環境整備	人 実 自	5	I3-A I3-B	情報工学の先端技術や研究、産官学連 携、学生のもつくり等を、他大学、行 政、企業等と連携しながら実証するた めの環境整備を進める。	■学内研究室・学生組織や学外企業等が技術 の実証を行うためのスペース・制度整備：i34 ■地域や海外でも技術の実証に取組むための 体制・しくみ整備：i35・i36
3	学内の多様な つながりを育む 場の整備	相 多	4	I1-A	専門やキャンパスを超えて、学生・教 職員・卒業生等が交流しあうオーパ ンな場やしかけを整備する。	■情報端末やテーブルゲーム等の設備を揃え、 学びや憩いに自由に活用できる学内交流ス ペースの整備：i04 ■ICT 等を活用して学内・キャンパス間をつ なぐしくみの整備：i01・i06・i07
4	アジア・世界と 密接につながり 学びあう場の整備	人 実 相	4	I1-C I2-B I4-A	留学生との交流や、アジアや世界とつ ながりを密にし、対等に学びあいな がら成長する場としくみを整備する。	■スチューデントレジデンスの拡充、宿舍エリ アとキャンパス中央部の接続強化：i43・i44 ■留学生や英語ネイティブスピーカーと学習・ 交流するスペース整備：i08 ■ICT 等を活用したマレーシア・スーパー・ サテライト・キャンパスとの連携強化：i10
5	市民が集い飯塚の まちの中心となる キャンパス環境の整備	相	2 6	I1-D	市民が集うキャンパス内でのセミ ナー・イベント開催や、市民向け施設 開放等を可能とし、飯塚市の掲げる学 園都市・情報産業都市づくりの核と なり、市民が多様な目的で集うキャン パス環境整備を進める。	■地域・企業等とのインタラクションの拠点 スペース整備：i13 ■子供からお年寄りまでの生涯学習の拠点と なるスペース整備：i16・i17
6	自由な挑戦と 協働のスペース整備	人 実 相 多	4 9	I1-E	学内外の人々が集い、学びやものづく り・まちづくり・国際交流等、多様な 目的に向けて、自由に挑戦・協働する ためのスペース・施設整備を進める。	■研究室への地域ベンチャーの同居等、学外 の人々の柔軟な施設利用を可能にするしくみ ・環境整備：i19・i20 ■学生や地域の自由なもののづくり活動の拠点 となるスペースの整備：i25 ■緑地や中庭等のオープンスペースとしての 活用に向けたしくみ・環境整備：i21・i22
7	学内外への 情報発信環境整備	自	3	I2-D I3-D	学内外に向けて、情報工学の教育研究 や社会貢献等の活動成果を発信して いくための環境整備を進める。	■技術・研究成果等をイベント等により効果的 に発信するためのしくみ・スペース整備：i34 ■ISG（飯塚サイエンスギャラリー）の拡充：i35
8	エコ・キャンパス、 エコ・コミュニティ の形成	実 相 多	7	I3-C	情報工学の技術、他キャンパスや地域 の技術を活かし、エコキャンパス・エ ココミュニティを形成するための取 組みを進める。	■太陽光発電・エネルギー制御・クリーンモビ リティ等の学内技術を導入した環境整備：i41
9	学内外の全ての 利用者にとって 安全・快適な 環境整備	多	7	I4-A I4-B I5-A I5-B	学内外の全ての利用者にとって安全・ 快適な環境づくりを行う。特に、防犯・ 防災や、教育研究を円滑に遂行するた めの環境改善等に取り組む。	■外灯整備・ICTを活用したセキュリティ管理 等防犯機能強化に向けた整備：i45・i46・i51 ■老朽・危険箇所の早期改修、インフラ・設備 の保全・改修：i47 ■学生生活・教育研究活動上不足する施設の 増設：i52
10	人と情報工学が 出会うキャンパスの 中心動線整備	相 自	8	I4-A	正門から中庭へ抜けるアプローチと、 中庭を中心として各棟をつなぐ回遊 型の動線を整備し、コミュニケーション の誘発やキャンパス間連携を担う、 情報工学の専門性と人々の活気を感じ られるエリアとする。	■キャンパスの中心動線となる各棟 3 階レベ ルをつなぐ動線を学内外の交流や自己表出 の空間として整備：i42

※ 基本方針の記述は、「人」＝「人づくり」、「実」＝「実学主義」、「相」＝「相互成長」、「自」＝「自己表出」、「多」＝「多種共生」を表す。
 ※ フレームワークプランで重視すべき項目の番号は、前頁で示した 1～9 までの飯塚キャンパスで重視すべき項目に対応する。

4.4.2 平成 24 年度時点で計画されている整備項目・優先度とその位置付け

平成 24 年度時点で、飯塚キャンパスでは、各部局の要求事項を基に 22 の整備項目を計画していました。以下の表に、22 の項目を、4.1 で示した観点・基準に基づき財源規模別に参考優先度評価した結果を示します。こうした参考優先度評価を踏まえて、最終的には施設委員会・役員会等が予算化する項目を決定します。なお、下記の表は、現時点での計画項目を前提とした暫定的なものであるため、今後、4.2 に示したプロセスを継続的に展開する中で、項目・評価を修正し、磨き上げていきます。

■平成 24 年度時点の飯塚キャンパス整備項目案・参考優先度 (No.1 ～ 22)

No.	整備対象 エリア・施設等	関連する 整備の方向性	関連する ストーリー	事業 区分	予算 規模	〈参考〉 優先順位	〈参考〉優先度評価					合計
							1.CMPへ の貢献度	2. 安全性	3. 戦略性	4. 機能性	5. 制度対応	
						※同一予算 規模で比較	※上段＝評価 下段＝評点					
1	自学スペース (増設・改修)	1 3 5 9	I1-A I1-C I2-A I5-B	整備 事業	大	大 01	◎ 20 (5*4)	－ －	○ 2	◎ 5	－ －	27
	整備・改修 内容と効果	狭隘による混雑が問題となっている食堂等を増設し、快適で潤いのある空間の創出を図る。さらに、食堂は多くの人々が多様な目的で集う場となっていることから、単なる飲食スペースの増設とせず、学生の自学スペースや教職員の憩いの場、社会との共生の場としても活用できるスペースの整備を行う。…関連 Software：i03・i04・i08・i25・i53										
2	未来型講義棟 (増設)	1 5	I1-A I1-D I2-A I2-C	整備 事業	大	大 02	◎ 20 (5*4)	－ －	◎ 5	○ 2	－ －	27
	整備・改修 内容と効果	インタラクティブ講義棟を増床し、チーム学習を行える環境を整備し、主体的に学び、考え、行動するグローバル情報人材の育成の推進を加速させる。また、学内交流や地域との情報交換や連携を促進する場としても活用できるよう整備を行う。…関連 Software：i03・i12・i23・i25・i30										
3	ものづくり・ ことづくり工房 (新設)	1 5 6	I1-A I2-C I3-A	整備 事業	大	大 03	◎ 15 (5*3)	－ －	◎ 5	－ －	－ －	20
	整備・改修 内容と効果	情報工学の技術・知識をかたちにする「ものづくり」と「ことづくり」に自由に取り組むための拠点となる、工房を整備する。学生による情報工学のものづくり・ことづくりの実践を通して、産業界・社会で活躍できるグローバルな人材の育成を目指す。また、ものづくりを通して地域との交流等を図ることができる施設を目指す。…関連 Software：i03・i30・i31・i34										
4	研究棟 (EV 改修)	9	－	整備 事業	大	大 04	－ －	◎ 10	－ －	－ －	－ －	10
	整備・改修 内容と効果	老朽化に伴い、研究棟の EV を取り換える。…関連 Software：i47										
5	マイクロ化総合 技術センター (設備更新)	9	－	整備 事業	大	大 05	－ －	◎ 10	－ －	－ －	－ －	10
	整備・改修 内容と効果	老朽化に伴う機械設備(クリーンルーム、超純水装置の関連)の更新を行う。…関連 Software：i47										

No.	整備対象 エリア・施設等	関連する 整備の方向性	関連する ストーリー	事業 区分	予算 規模	〈参考〉 優先順位 ※同一予算 規模で比較	〈参考〉 優先度評価					合計
							1.CMPへ の貢献度	2. 安全性	3. 戦略性	4. 機能性	5. 制度対応	
							※上段＝評価　下段＝評点					
6	研究棟 (大規模改修計画)	9　10	I5-B	計画 事業	大	大 06	◎ 5 (5*1)	○ 3	－ －	－ －	－ －	8
	整備・改修 内容と効果	他大学でも前例の少ない大規模施設の改修に向けて、長期（7期想定）に渡る年次改修整備計画および移行計画を検討する。改修までには時間があるものの、資金調達、改修時に必要なストックヤードの確保等の必要性を考慮し、早期に計画検討に着手する。現状の機能を持たせつつ、CMP のゾーニングにある教育研究エリアの機能を意識した整備のあり方を検討する。…関連 Software：i48										
7	外灯整備 (設備増設)	9	I5-B	整備 事業	大	大 07	◎ 5 (5*1)	－ －	－ －	○ 2	－ －	7
	整備・改修 内容と効果	体育施設の夜間使用ができるテニスコート、グラウンド、野球場の照明設備を整備する。また、防犯対策として街路に街灯を整備する。…関連 Software：i45										
8	実習棟 (設備改修)	9	－	整備 事業	大	大 08	－ －	○ 3	－ －	◎ 5	－ －	7
	整備・改修 内容と効果	実習環境の改善のため、空調設備と電源設備の改修を行う。…関連 Software：i47										
9	スチューデント レジデンス 2 期 (増設計画)	4　9	I5-A	計画 事業	大	大 09	◎ 5 (5*1)	－ －	○ 2	－ －	－ －	7
	整備・改修 内容と効果	海外の研究者や留学生の交流のためスチューデントレジデンス 2 期を整備する。多様な人々との交流から、学生の国際化を促進し、グローバルに活躍できる人材の育成を推進する。…関連 Software：i44										
10	中和処理施設 (設備更新)	9	－	整備 事業	大	大 010 :年次計画	－ －	○ 3	－ －	－ －	－ －	3
	整備・改修 内容と効果	老朽化に伴う実験排水処理設備の更新を行う。…関連 Software：i47										
11	中庭通路 (改修)	9	－	整備 事業	中	中 01 :年次計画	－ －	◎ 10	－ －	－ －	－ －	10
	整備・改修 内容と効果	雨天時等に滑って危険な状態になる中庭通路の階段を整備し、滑り止めの対策を行う。…関連 Software：i47										
12	テニスコート (改修)	9	I1-D	整備 事業	中	中 02	◎ 5 (5*1)	○ 3	－ －	－ －	－ －	8
	整備・改修 内容と効果	劣化に応じた改修整備を行う。また、地域への開放等、地域との連携による活用も検討する。…関連 Software：i14・i47										
13	福利施設 (EV 整備)	9	－	整備 事業	中	中 03	－ －	－ －	－ －	◎ 5	－ －	5
	整備・改修 内容と効果	身障者対応として、福利施設の EV 整備を行う。…関連 Software：i47										
14	講義棟 (改修)	9	－	整備 事業	中	中 03	－ －	○ 3	－ －	○ 2	－ －	5
	整備・改修 内容と効果	老朽化に伴う講義室の内壁の改修を行う。…関連 Software：i47										

No.	整備対象 エリア・施設等	関連する 整備の方向性	関連する ストーリー	事業 区分	予算 規模	〈参考〉 優先順位 ※同一予算 規模で比較	〈参考〉優先度評価					合計
							1.CMPへ の貢献度	2. 安全性	3. 戦略性	4. 機能性	5. 制度対応	
							※上段＝評価 下段＝評点					
15	東側バイク置場 (増設)	9	－	整備 事業	中	中03	－	－	－	◎	－	5
	整備・改修 内容と効果	東側バイク置き場のスペースを増設し、問題となっているバイク置き場のスペース不足を解消する。…関連 Software：i47										
16	弓道場整備 (改修)	5 9	I1-D	整備 事業	中	中03	◎	－	－	－	－	5
	整備・改修 内容と効果	実績のある弓道会の簡易練習場を充実させる整備を行い、学外の愛好者との交流も促進する。…関連 Software：i12・i14										
17	宿舎エリア (通路階段整備)	5 9	I5-A	計画 事業	中	中03	◎	－	－	－	－	5
	整備・改修 内容と効果	宿舎エリアとキャンパス中心部が分断された状態を解消するため、宿舎エリアから中心部へ通ずる外部階段の整備を行うことを目指し、計画を検討する。…関連 Software：i43										
18	北側駐車場 (環境整備)	9	－	整備 事業	中	中08	－	－	－	○	－	2
	整備・改修 内容と効果	砂利敷きの駐車場について、環境や防犯に配慮した整備を行う。…関連 Software：i47										
19	定期点検 (定常業務)	9	－	整備 事業	中／小	小01 :年次計画	－	○	－	○	－	5
	整備・改修 内容と効果	消防用設備(法定)、電気工作物、エレベーター、給排水設備を定期的に点検し改善を行う。定期点検による計画的な改善を行うことで、安全性の確保と耐久性や効率性の維持・向上を図る。…関連 Software：i47										
20	建物保全 (定常業務)	9	－	整備 事業	中／小	小01 :年次計画	－	○	－	○	－	5
	整備・改修 内容と効果	施設の防水や外壁等の保全改修を年次計画を立てて進める。また、保全計画にあわせて、景観や環境に配慮した整備を行う。…関連 Software：i47										
21	設備保全 (定常業務)	9	－	整備 事業	中／小	小01 :年次計画	－	○	－	○	－	5
	整備・改修 内容と効果	電気・給排水・空調・エレベーター等の不具合部品、老朽化部品の更新等を年次計画を立てて進める。また、保全計画にあわせて環境に配慮した整備を行う。…関連 Software：i47										
22	アメニティ改善 (定常業務)	9	－	整備 事業	中／小	小01 :年次計画	－	○	－	○	－	5
	整備・改修 内容と効果	劣化の状況に応じて年次計画を立て行う。改修による清潔感、快適性等のアメニティ向上により、学内外の利用者へのイメージアップを図る。あわせて、節水、省エネタイプの選定により環境への負荷を軽減する。…関連 Software：i47										

■整備計画プロット図

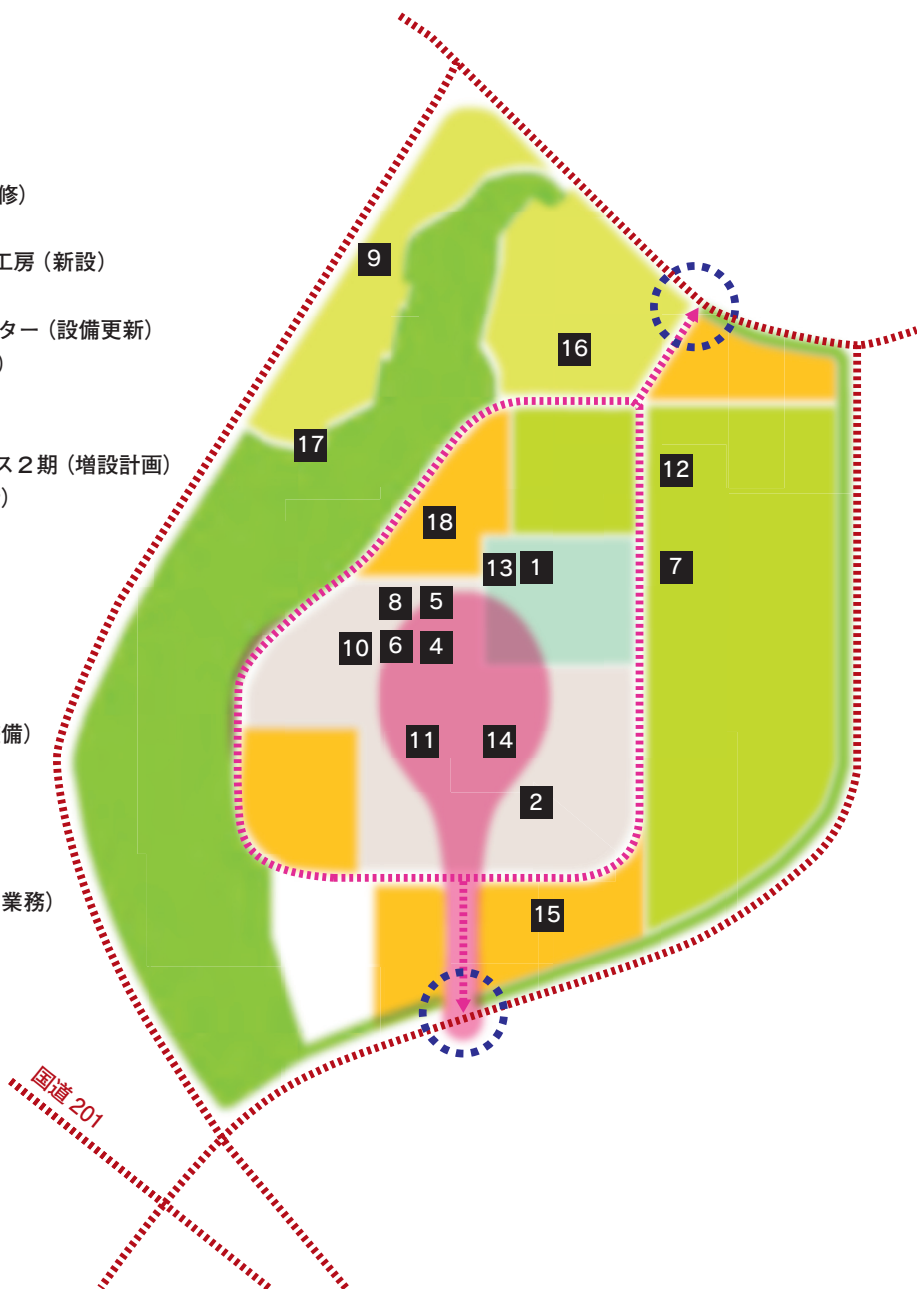
整備項目案

- 1 自学スペース（増設・改修）
- 2 未来型講義棟（増設）
- 3 モノづくり・ことづくり工房（新設）
- 4 研究棟（EV改修）
- 5 マイクロ化総合技術センター（設備更新）
- 6 研究棟（大規模修繕計画）
- 7 外灯整備（設備増設）
- 8 実習棟（設備改修）
- 9 スチューデントレジデンス2期（増設計画）
- 10 中和処理施設（設備更新）
- 11 中庭通路（改修）
- 12 テニスコート（改修）
- 13 福利施設（EV整備）
- 14 講義棟（改修）
- 15 東側バイク置場（増設）
- 16 弓道場整備（改修）
- 17 宿舍エリア（通路階段整備）
- 18 北側駐車場（環境整備）
- 19 定期点検（定常業務）
- 20 建物保全（定常業務）
- 21 設備保全（定常業務）
- 22 アメニティー改善（定常業務）

- A: 人と技術が出会う交流の中心
 B: 教育・研究ゾーン
 C: 共通・管理・厚生ゾーン
 D: 社会共生ゾーン
 E: 運動施設ゾーン
 F: 周辺ゾーン（エネルギーコア）
 F: 周辺ゾーン（駐車場）
 F: 周辺ゾーン（緑地帯）

- a. 歩行者優先ストリート
 b. 歩車共存ストリート
 c. 学内インフラ
 （モビリティ・エネルギー）

● エントランス



敷地を確保し整備する項目

3

定常業務として整備する項目

19 20 21 22

4.5 若松キャンパスにおける整備の方向性と計画

4.5.1 長期ビジョン・中期プランを踏まえた整備の方向性

若松キャンパスの長期ビジョン（フレームワークプラン）では、下記のようなキャンパスづくりにおいて重視すべき項目（1～8）を挙げています。



以下に、これらの重視すべき事項と、3章に示した若松キャンパスにおけるストーリーを基にした、整備の方向性（No.1～8）を示します。若松キャンパスにおける部局要求の策定においては、以下の整備の方向性を踏まえて検討を行うものとしします。

■若松キャンパス整備の方向性 (No.1～8)

No.	整備の方向性	関連項目			整備の方向性 概要	想定される整備の例 ※末尾は関連する Software No.
		基本方針	フレームワーク プランで重視 すべき項目	ストーリー		
1	先進的で実践的な 教育研究環境の整備	人 実 相		W3-A W3-B	主体的でインタラクティブな学びを 推進し、学科間、キャンパス間、地域や 企業と連携しながら実践的教育研究 を行うための整備を進める。	■インタラクティブ学習スペース整備の拡充 :w20 ■戸畑・飯塚や他大学・企業等と連携してま ちづくり・ものづくりに取組むためのプロジェ クトスペース等の拡充 :w04・w13・w23
2	生命体工学や異分野 との融合領域の 技術・研究成果を 実証する環境整備	人 実 自		W4-A W4-B W4-C	保有する様々な技術を、産官学や異分 野との連携を行いながら、キャンパ ス・学研都市から世界にまで広がる 実証実験フィールドを整備する。	■キャンパスや学研都市の実証実験フィー ルド化に向けたしくみ・場の整備 :w29 ■組織横断的教育研究連携プロジェクト推進 にむけた場の整備 :w04
3	学内の多様な つながりを 育む場の整備	相 多	8	W1-A	専門やキャンパスを超えて、学生・教 職員・卒業生等が交流しあうオープ ンな場やしなげを整備する。	■共同研究・学内連携を促進する開放的研 究室空間の整備 :w02 ■ICT 等を活用して学内・キャンパス間をつ なぐしくみの整備 :w05・w06
4	アジア・世界と 密接につながり 学びあう場の整備	人 実 相	4	W1-C	留学生との交流や、アジアや世界とつ ながりを密にし、対等に学びあいなが ら成長する場としくみを整備する。	■留学生との交流や学びを促進するスペース の整備 :w07 ■ICT 等を活用したマレーシア・スーパー・ サテライト・キャンパスとの連携強化 :w09
5	学内外の人が 自由に活動できる 環境の整備	人 実 相 多	2 4	W1-D W1-E W2-B	学研都市と一体開発された周辺住宅 街等から、多様な人々が集い、学びや ものづくり・まちづくり・国際交流等、 多様な目的に向けて、自由に挑戦・協 働するためのスペース・施設整備を 進める。	■地域の子どもたちや市民に向けたイベント開 催・スペース開放のための場の整備 :w10・ w11・w16 ■空間利用ルールの見直しと学外への活動ス ペースの提供 :w12・w13
6	学研都市の 一体的な環境整備	人 実 相 多	1 6	W2-A W2-C	「未来をひらくアジアの学術・研究都 市」という都市像の実現に向けて開設 された北九州学術研究都市を、一つの キャンパスととらえ、他大学・研究機 関との調和・交流・連携を意識した 整備を行う。	■学研都市や周辺大学・機関等と連携したカ フェ・食堂等の充実に向けた整備 :w17・w41 ■学研都市共同スペースの利活用 :w19・w20
7	学内外への 情報発信環境整備	自	3 5	W3-C W4-D	学内外に向けて、九工大の教育研究や 社会貢献等の活動成果を発信してい くための環境整備を進める。	■生命体工学のの過去・現在・未来に触れる ことのできるスペースの充実 :w28 ■学研都市で研究成果を発信するイベント開 催のスペースを利用するためのしくみ整備 : w26・w27
8	学内外の全ての 利用者にとって 安全・快適な環境整備	多	7	W5-A W5-B	学内外の全ての利用者にとって安全・ 快適な環境づくりを行う。特に、防犯・ 防災や、教育研究を円滑に遂行するた めの環境改善等に取組む。	■老朽・危険箇所の早期改修、インフラ・設備 の保全・改修 :w42 ■学生生活・教育研究活動上不足する施設の増設

※ 基本方針の記述は、「人」＝「人づくり」、「実」＝「実学主義」、「相」＝「相互成長」、「自」＝「自己表出」、「多」＝「多種共生」を表す。
 ※ フレームワークプランで重視すべき項目の番号は、前頁で示した1～8までの若松キャンパスで重視すべき項目に対応する。

4.5.2 平成24年度時点で計画されている整備項目・優先度とその位置付け

平成24年度時点で、若松キャンパスでは、各部局の要求事項を基に7の整備項目を計画していました。以下の表に、7の項目を、4.1で示した観点・基準に基づき財源規模別に参考優先度評価した結果を示します。こうした参考優先度評価を踏まえて、最終的には施設委員会・役員会等が予算化する項目を決定します。なお、下記の表は、現時点での計画項目を前提とした暫定的なものであるため、今後、4.2に示したプロセスを継続的に展開する中で、項目・評価を修正し、磨き上げていきます。

■平成24年度時点の若松キャンパス整備項目案・参考優先度(No.1～7)

No.	整備対象 エリア・施設等	関連する 整備の方向性	関連する ストーリー	事業 区分	予算 規模	〈参考〉 優先順位 ※同一予算 規模で比較	〈参考〉優先度評価					合計
							1.CMPへ の貢献度	2. 安全性	3. 戦略性	4. 機能性	5. 制度対応	
							※上段＝評価 下段＝評点					
1	研究実験棟 (設備更新)	8	—	整備 事業	中	中 01	—	○	—	○	—	5
	整備・改修 内容と効果	老朽化に伴う G H P空調設備の改修を行う。また、省エネルギー化を意識した整備を行う。…関連 Software：w42										
2	研究実験棟 (設備更新)	8	—	整備 事業	中	中 01	—	○	—	○	—	5
	整備・改修 内容と効果	老朽化に伴う動物飼育室関連のEHP空調設備の改修を行う。また、省エネルギー化を意識した整備を行う。…関連 Software：w42										
3	研究実験棟 (低層棟設備更新)	8	—	整備 事業	中	中 01	—	○	—	○	—	5
	整備・改修 内容と効果	学研都市内のキャンパスカードの変更に伴い、新たに電子錠の改修を行う。…関連 Software：w42										
4	定期点検 (定常業務)	8	—	整備 事業	中／小	小 01 :年次計画	—	○	—	○	—	5
	整備・改修 内容と効果	消防用設備(法定)、電気工作物、エレベーター、給排水設備を定期的に点検し改善を行う。定期点検による計画的な改善を行うことで、安全性の確保と耐久性や効率性の維持・向上を図る。…関連 Software：w42										
5	建物保全 (定常業務)	8	—	整備 事業	中／小	小 01 :年次計画	—	○	—	○	—	5
	整備・改修 内容と効果	施設の防水や外壁等の保全改修を年次計画を立てて進める。また、保全計画にあわせて、景観や環境に配慮した整備を行う。…関連 Software：w42										
6	設備保全 (定常業務)	8	—	整備 事業	中／小	小 01 :年次計画	—	○	—	○	—	5
	整備・改修 内容と効果	電気・給排水・空調・エレベーター等の不具合部品、老朽化部品の更新等を年次計画を立てて進める。また、保全計画にあわせて環境に配慮した整備を行う。…関連 Software：w42										
7	アメニティ改善 (定常業務)	8	—	整備 事業	中／小	小 01 :年次計画	—	○	—	○	—	5
	整備・改修 内容と効果	劣化の状況に応じて年次計画を立て行う。改修による清潔感、快適性等のアメニティ向上により、学内外の利用者へのイメージアップを図る。あわせて、節水、省エネタイプの選定により環境への負荷を軽減する。…関連 Software：w42										

■整備計画プロット図

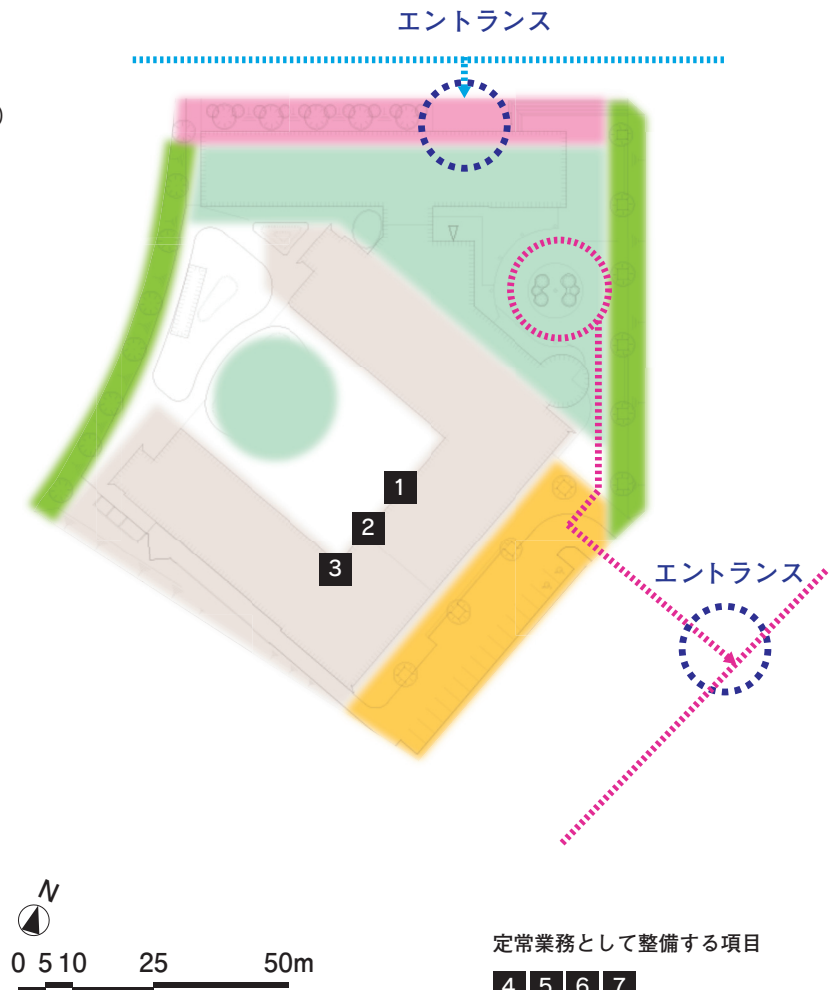
整備項目案

- 1 研究実験棟（空調改修）
- 2 研究実験棟（動物飼育室空調改修）
- 3 研究実験棟（セキュリティ改修）
- 4 定期点検（定常業務）
- 5 建物保全（定常業務）
- 6 設備保全（定常業務）
- 7 アメニティー改善（定常業務）

- A: 人と技術が出会う交流の中心
- B: 教育・研究ゾーン
- C: 共通・管理・厚生ゾーン
- D: 社会共生ゾーン
- E: 運動施設ゾーン
- F: 周辺ゾーン（エネルギーコア）
- F: 周辺ゾーン（駐車場）
- F: 周辺ゾーン（緑地帯）

- a. 歩行者優先ストリート
- b. 歩車共存ストリート
- c. 学内インフラ（モビリティ・エネルギー）

● エントランス



CHAPTER 05

The Campus Master Plan
for Kyushu Institute
of Technology

キャンパスマスタープラン(中期プラン)の運用



CHAPTER 05 キャンパスマスタープラン(中期プラン)の運用

5.1 PDCA サイクル

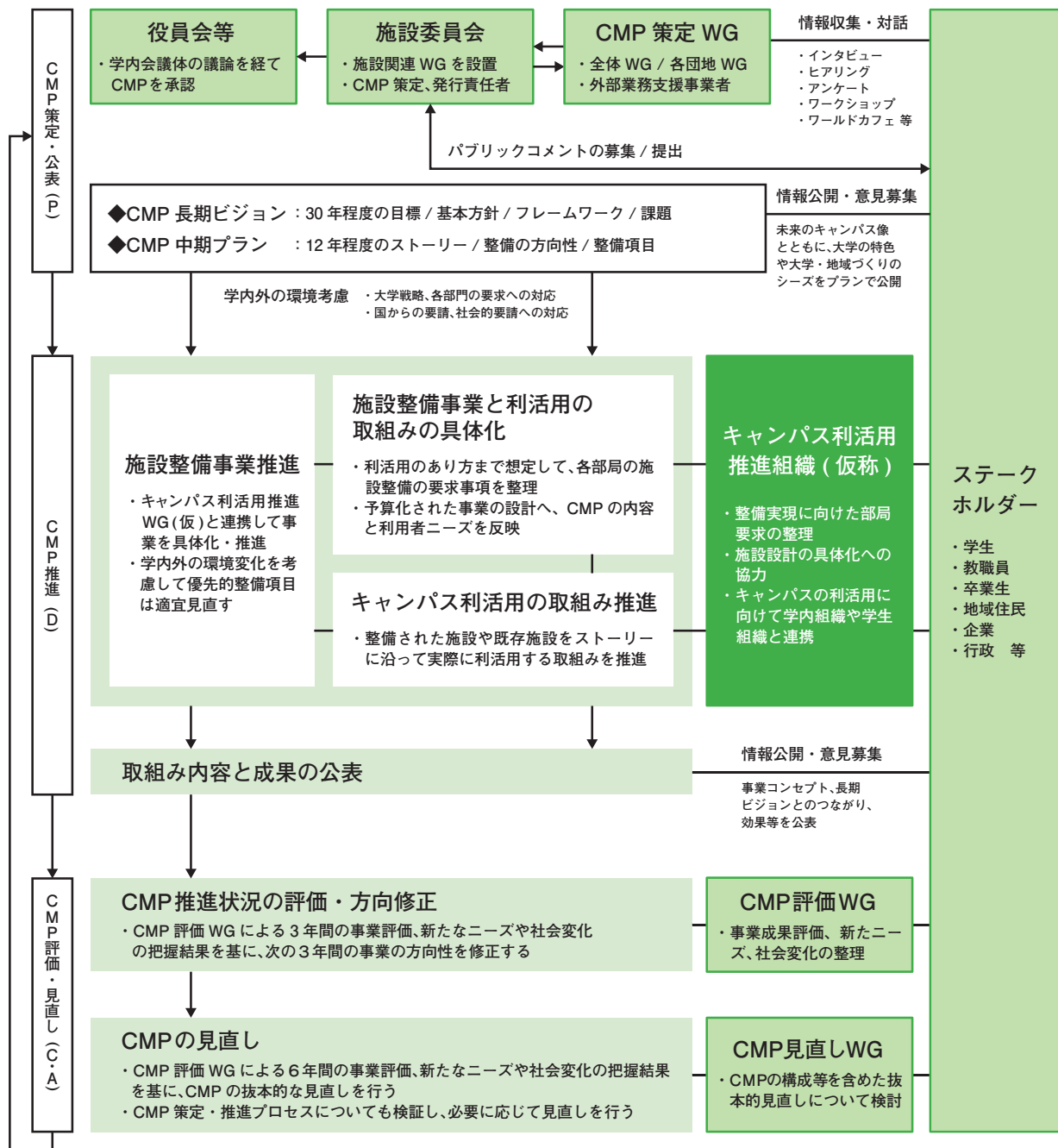
5.1.1 PDCA サイクルの全体像

キャンパスマスタープラン運用のPDCAサイクルの全体像は、次頁に示す図のとおりです。まず、キャンパスマスタープランの策定(P: Plan)においては、施設委員会の設置するキャンパスマスタープラン策定ワーキンググループ(CMP 策定 WG)が、学内外の多様なステークホルダーとの対話や情報収集を行った上で、長期ビジョンおよび中期プランを検討します。検討したプランは、役員会等の承認を得て公表します。

次に、プランの推進(D: Do)においては、学内外の環境の変化を考慮しつつ、施設整備事業を検討・推進します。ここまで述べてきたとおり、施設整備事業は、単なるハード整備でなく、施設において展開されるソフト面の取組みを支える事業にするとともに、キャンパスマスタープランに準拠した事業とすることが求められます。そのために、新たに設置するキャンパス利活用推進組織(仮称、詳細は後述)が、施設担当部局(施設課)と連携して、施設で展開されるストーリー・取組み(ソフト)等、施設の利活用のあり方まで見据えた事業計画を検討します。また、施設整備を実施した後も、キャンパス利活用推進組織(仮称)が関連する学内組織と連携して、施設の利活用の取組みの推進を図ります。推進(D)プロセスの詳細については、5.1.2に示します。

さらに、キャンパスマスタープランの評価・見直し(C・A: Check・Action)では、3年ごとに、キャンパスマスタープラン評価ワーキンググループ(CMP 評価 WG)がプランの推進状況の評価を行います。また、6年ごと、キャンパスマスタープラン見直しワーキンググループ(CMP 見直し WG)がプランの見直しを行います。評価・見直し(C・A)の考え方については、5.1.3に示します。

以上のPDCAサイクルを、常にステークホルダーに開かれた形で展開します。



5.1.2 キャンパスマスタープラン推進(D)プロセスの詳細

「未来の技術に会うキャンパス」という目標像に近づくには、策定したプランを推進(D: Do)するプロセスを具体化し、着実に実行していくことが必要です。九州工業大学では、「1. 整備の検討」「2. 事業の具体化・整備実施」「3. 整備後の利活用推進」を、以下のようなプロセスで推進(D: Do)していきます。

CMP 推進 (D)	1. 整備の検討 4.2 整備計画検討 のプロセスに対応	◆各部局	1-1. 部局要求の検討 …CMP との整合性／整備の代替性／財源の妥当性
		◆キャンパス利活用推進組織(仮称) ◇施設課	1-2. 部局要求整理・参考優先度評価 …CMP への貢献度／安全性／戦略性／機能性／制度対応
		◆部局長	1-3. 部局要求の決定
		◆施設委員会 ◆役員会等	1-4. 学内予算・概算要求項目の決定
	2. 事業の具体化 整備実施	◆キャンパス利活用推進組織(仮称) ◇施設課	2-1. CMPや具体的ニーズ・利活用シーンを 踏まえた施設整備事業の具体化
		◆施設課 ◇施設整備受注者	2-2. 施設整備事業の実施
	3. 整備後の 利活用推進	◆関連学生組織・教職員組織 ◇キャンパス利活用推進組織(仮称)	3-1. 施設の利活用に向けた取組みの推進
		◆施設委員会 ◆施設課	3-2. 施設の利活用状況の調査・評価
		◆関連学内組織・教職員組織 ◇キャンパス利活用推進組織(仮称)	3-3. 施設の利活用に向けた取組みの改善

※◆＝主担当、◇＝副担当(主担当の取組みの支援)を想定。

■ 整備の検討プロセス

「1 整備の検討」では、4.2 整備計画検討のプロセスで示した流れに沿って、施設整備計画の検討を行います。まず部局要求において、各部局が、キャンパスマスタープランとの整合性、整備の代替性、財源の妥当性という条件を踏まえた要求事項を検討します(1-1)。

その上で、新たに設置するキャンパス利活用推進組織(仮称)が、各キャンパスにおける部局要求を整理し、キャンパスマスタープランへの貢献度、安全性、戦略性、機能性、制度対応といった観点から参考優先度を評価します(1-2)。なお、要求事項の整理にあたっては、施設課と連携し、財源や整備手法の観点から、より現実的な整備のあり方を検討します。

キャンパス利活用推進組織(仮称)は、整理した部局要求を各部局長に提出します。各部局長は、それを基にキャンパスにおける部局要求とその優先度を決定します(1-3)。さらにその結果を踏まえて、施設委員会・役員会等が検討の上、学内予算・概算要求項目を決定します(1-4)。

従来の施設整備では、キャンパスづくりのビジョンや、施設で展開される取組み（ソフト）を十分に考慮せずに計画が検討されるケースも見られました。しかし、それでは長期的に一貫したキャンパス整備や、有効に活用される施設の整備を効率的に進めることはできません。加えて、事前に施設で展開される取組み（ソフト）を十分に想定できていない場合、当該計画が予算化した際に、ソフト面まで考慮して施設の基本設計・詳細設計を行うことが時間的に困難となります。

今後は、部局要求の段階から、整備する施設（ハード）において、どのような取組み（ソフト）が展開されるかを十分に想定することにより、施設の利活用の促進と、多様な取組み（ソフト）を支えるキャンパスづくりを目指します。あわせて、既存施設の利活用や自主財源の獲得の可能性も考慮し、より現実的な整備要求を行います。

また、4.1 でも述べたとおり、これまでの整備計画の優先度評価・予算化のプロセスでは、評価の基となる観点が関係者から見えにくいという問題がありました。

今後は、参考とすべき評価の観点を明確化することで、関係者にとってわかりやすい形で優先度評価・予算化の判断を行うことを目指します。

■ 整備の検討プロセス

「2 事業具体化・整備実施」では、整備事業の具体化において、キャンパスマスタープランやユーザーのニーズを反映することを目指します。そのために、キャンパス利活用推進組織（仮称）が、施設課と連携しつつ、優先度の高い項目について、キャンパスマスタープランや利用者ニーズを踏まえた施設整備のあり方、利活用の方法を具体化します。また、予算化された整備計画の基本設計・詳細設計段階で、施設で展開される取組み（ソフト）・ストーリーや、利用者ニーズを反映するための検討を行います（2-1）。

それを踏まえて、施設課と施設整備受注者（設計事務所・施工業者等）が実際に整備を実施します（2-2）。

「1 整備の検討」段階でも、キャンパスマスタープランを反映した要求事項の検討を行いますが、要求段階では、施設の利用方法の詳細や、設計のあり方まで踏み込んだ検討を行うことは、時間的制約もあり極めて困難です。

キャンパスマスタープランに沿った、利用者にとって利便性の高い施設づくりのため、「2 事業具体化・整備実施」の段階でもキャンパス利活用推進組織（仮称）が検討に加わるのが重要です。また、キャンパス利活用推進組織（仮称）において、関係者が施設のあり方の検討に参加することで、関係者がキャンパス整備を「他人事」ではなく「自分事」として認識するきっかけになると考えられます。

■ 整備後の利活用推進プロセス

「3 整備後の利活用推進」では、整備した施設や、既存施設を利活用する取組み（ソフト）を展開します。関連する学生組織や教職員組織と、キャンパス利活用推進組織（仮称）の協力の下、利活用に向けた取組みを推進し（3-1）、利活用状況を施設利用実績、利用者ヒアリング等を通じて施設課・施設委員会が調査・評価します（3-2）。さらに評価結果を受けて、利活用の取組みを改善します（3-3）。

なお、利活用状況の調査（3-2）は、次の①～③のような方法により、整備後一定期間を経過した際（例えば、整備後1年、3年）に行うことを想定します。

①ユーザーの満足度評価

…当該施設利用者の満足度についてヒアリングおよびアンケートにより調査する。

②施設活用状況の評価(利用率)

…想定する利用率が確保されているかを施設管理システムのデータから調査する。

③施設活用状況の評価(用途)

…施設整備の際に想定していた目的に沿った利用が行われていたかについてヒアリング等を通じて調査する。

このように、施設整備の完了をゴールとするのではなく、その利活用も含めて推進していくことで、単なる「器」づくりに終わらない、ステークホルダーの活動を支えるキャンパスづくりを進めます。

また、施設の利活用の取組みを固定的なものとし、整備後一定期間で実施する調査の結果に基づき改善に向けて柔軟に方向修正していくことで、刻々と変化する学内外の環境変化に対応した柔軟な取組みの実践を図ります。

5.1.3 キャンパスマスタープランの評価・見直し(C・A)の考え方

キャンパスマスタープランのPDCAサイクルを展開していく上では、上記のようなプランの推進(D)の成果を踏まえ、どのように評価・見直し(C・A)を行うかについて、観点を明確化することが重要です。評価・見直しの観点として、次のようなものを設定します。

1 キャンパスマスタープランに基づく整備事業の推進に係る観点	
評価 観点	●長期ビジョンにおける基本方針(人づくり・実学主義・相互成長・自己表出・多種共生)に合致した整備が行われているか ●長期ビジョンにおける動線・ゾーニング計画の実現に向けた整備が行われているか ●長期ビジョンにおいてパブリックスペース、環境・建築、インフラ計画が定める事項に則って整備が行われているか ●中期プランの各キャンパスのストーリーの推進を支える施設整備が行われているか
見直し 観点	●上記整備が行われていない場合、整備に向けてキャンパスマスタープランをどのように修正するか
2 キャンパスマスタープランに基づく施設の利活用の取組み推進に係る観点	
評価 観点	●中期プランの各キャンパスのストーリーにおいて、学内外の環境の変化を踏まえて修正すべき点はあるか ●中期プランの各キャンパスのストーリーの推進に向けて、プラン策定時もしくは前回評価時と比較して施設の利活用の取組みは進展しているか ●中期プランの各キャンパスのストーリーの推進に向けて、特に新たな整備が行われた施設の利活用の取組みは進展しているか
見直し 観点	●学内外の環境の変化を踏まえてストーリーを修正すべきである場合どのように修正するか ●上記利活用の取組みが進展していない場合、進展に向けてキャンパスマスタープランをどのように修正するか
3 キャンパスマスタープランの運用に係る観点	
評価 観点	●キャンパスマスタープラン運用のPDCAサイクルが円滑に展開されているか ●キャンパスマスタープラン運用において学内外のステークホルダーへの情報公開・意見募集が適切に行われているか ●キャンパスマスタープラン運用において学内外のステークホルダーと連携した検討・取組みの推進が進んでいるか
見直し 観点	●上記が実施されていない場合、キャンパスマスタープランをどのように修正するか

上記のような観点に基づき評価・見直し(C・A)を行い、目標である「未来の技術に会うキャンパス」の実現に向けて、効果的にPDCAサイクルを展開します。

5.2 運用体制

5.1 で示した PDCA サイクルを展開していくため、次のような体制を整備します。まず、役員会等・施設委員会の下に、キャンパスマスタープラン評価・見直しを行うワーキンググループを設置します。ワーキンググループは、キャンパス別の検討を担うワーキングチームと連携し、プランの評価・見直しを行います。

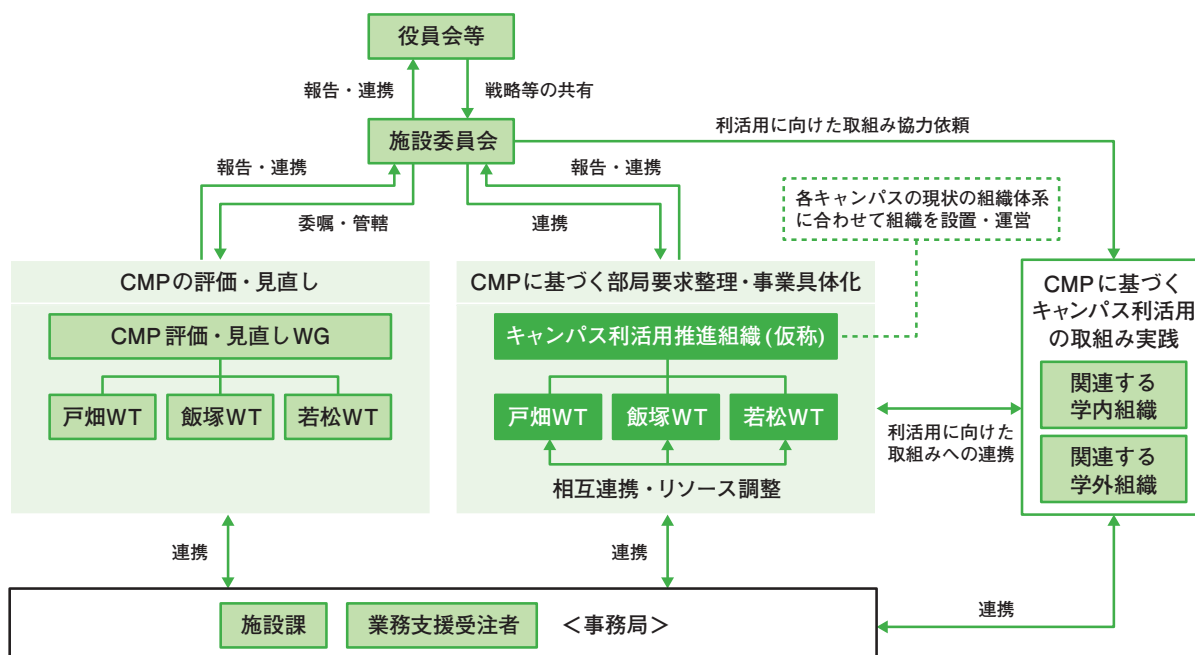
キャンパス利活用推進組織(仮称)は、キャンパスマスタープランに基づく部局要求事項の取りまとめや、優先度の高い事業および予算化した事業の具体化を担います。また、キャンパスマスタープランに基づくキャンパス利活用の取組みの推進において、学内外の関連組織を支援します。

キャンパス利活用推進組織(仮称)も、キャンパス別のワーキングチームを設置して活動を行うことを想定しています。活動にあたっては、キャンパス間で連携し、各キャンパスで不足するリソースを補い合うとともに、キャンパス間の相互作用の下で効果的なキャンパス利活用のあり方の検討と実践を進めることを目指します。

なお、各キャンパスで、現状の組織体制や施設整備・施設の利活用に係る検討の実施状況は異なります。そのため、組織の設置にあたっては、各キャンパスの実情に応じて母体となる組織や、組織の位置づけを検討するものとします。

整備後の施設や既存施設の利活用の取組みにあたっては、関連する学内の学生組織・教職員組織や、学外の地域組織・企業・行政等に、施設委員会が協力を依頼します。これら学内外の関連組織が、キャンパス利活用推進組織(仮称)と連携して取組みの推進にあたります。

施設課と業務支援受注者は、事務局として、キャンパスマスタープラン評価・見直しワーキンググループ、キャンパス利活用推進組織(仮称)、関連する学内組織と連携し、支援にあたります。



5.3 運用において重視すべき考え方

長期ビジョンでは、キャンパスマスタープランの運用に向けて、資金・コスト管理、施設・スペース管理、品質管理、安全管理の考え方を示しています。以下では、長期ビジョンにおけるこれらの記述と、ここまでの中期プランの内容を踏まえて、中期プランの運用において重視すべき考え方を示します。

5.3.1 資金・コスト管理

中期プランの運用では、財源の確保において、次のような点を重視します。

- 予算規模に応じて、国等・民間・学内における多様な財源の確保を図る。
- 施設・スペースの利用料収入等により、自主的に財源を獲得する方策を検討する。
- キャンパスマスタープランへの貢献・安全性・戦略性・機能性・制度対応等の観点から、重要性が高いと判断される整備計画に、優先的に財源確保を図る。

施設整備、修繕・維持管理コストの軽減に向けては、次のような点を重視します。

- 新規整備投資の際は、既存施設の利活用により必要とする機能が充足できないかを検討する。
- 老朽化、耐震性の問題、危険箇所の発生により安全な利用に支障を来す施設については、減築し、学外を含む他の施設・スペースにより機能を代替できないかを検討する。
- 機能上の問題が生じない限りで、他大学や外部機関との施設・設備の共同利用を推進する。
- 高い技術力と価格競争力を持った施設整備受注者（設計事務所・施工業者）の選定を行う。

5.3.2 施設・スペース管理

施設マネジメントの高度化・効率化に向けて、次のような点を重視します。

- Web による要望受付・処理、施設管理・予算管理等を統合的に行い、施設マネジメントの効率化・高度化に寄与する「施設管理システム(仮称)」の導入に向けて検討を行う。
- BIM (Building Information Modeling)、CIM (Construction Information Modeling) 等、先端的な技術を導入した施設マネジメントの導入に向けて検討を行う。
※BIM、CIMとは、ITを活用して建築・土木の三次元モデルを構築・データベース化し、設計・施工・維持管理に置いて活用する手法。欧米をはじめとする先進各国で導入が進んでいる。詳しくは資料編参照。
- 近隣大学や工科系大学と連携した施設マネジメントに係る大学間ベンチマーキングの実施に向けて検討を行う。

スペースマネジメントのさらなる発展に向けて、次のような点を重視します。

- スペースチャージの意義、収入用途(予防的維持管理)についての全学への周知を徹底し、理解・協力を促進する。
- さらなるスペースの流動化により、プロジェクト研究スペース、若手研究者のためのスペース、キャンパスマスタープランの推進に向けて必要なスペースを確保するため、全学で実施しているスペースチャージの料金設定の見直し等の施策を検討する。

5.3.3 品質管理

利用者の視点に立った、質の高い施設整備とプラン運用に向けて、次のような点を重視します。

- 施設整備や施設利活用取組みの推進、キャンパスマスタープランの評価・見直しにおいて、学生・教職員・地域住民等のステークホルダーと直にコミュニケーション・連携をとることで、利用者の視点を反映したキャンパス整備・利活用の推進を図る。
- 施設整備やキャンパスマスタープランに対するステークホルダーの声をより広く収集・分析するため、Web アンケートシステム等の活用を検討する。

5.3.4 安全管理

大規模災害時等に学生・教職員および周辺住民の安全を守る拠点となるために、次のような点を重視します。

- 老朽化、耐震性の問題、危険個所の発生が見られる施設の整備については、全学を挙げて優先的に整備予算を確保する。
- 災害時避難場所の設定・整備、非常食や災害時に利用可能な電源・水源等の確保に、全学を挙げて取り組む。
- 緊急時行動計画の策定や、自治体・周辺住民と共同での定期的な避難訓練等の実施に向けて、全学を挙げて取り組む。

防犯・セキュリティ機能を強化するために、次のような点を重視します。

- 施設ごとのセキュリティレベル、各施設の階層ごとのセキュリティレベルを設定し、学内外のステークホルダーへ開放するエリアと、安全かつ落ち着いた環境で教育研究活動や業務に取り組むエリアを区分するための検討を行う。
- セキュリティレベルに応じた入構管理・入退室管理を可能とするため、ICカード・生体認証・センサー等、ITを活用したセキュリティ管理のしくみの強化を図る。
- 周辺地域に配慮しつつ夜間の照明整備を進める。
- 周辺地域と防犯に係る情報の共有を進める。

キャンパスマスタープラン(中期プラン)2013

平成 24 年度(2013)3 月第 1 版

企画・編集

施設委員会

キャンパスマスタープラン策定ワーキンググループ

制作協力

富士通株式会社

株式会社富士通総研

富士通デザイン株式会社

株式会社富士通研究所

株式会社ジーエータップ

上野・藤井建築研究所